

令和4年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

知的障害特別支援学校高等部と専門学校の有機的連携の開発と実証

事業成果報告書

令和5年3月

学校法人仙台北学園

仙台リハビリテーション専門学校

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校が実施した令和4年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

目次

■事業の概要	3
1. 事業の趣旨・目的	4
2. 学習ターゲット・めざす人材像	4
3. 事業の実施体制	5
3.1. 実施体制	5
3.1.1. 構成機関	5
3.1.2. 実施委員会	6
3.1.3. 分科会	6
3.1.4. コーディネーター	6
3.1.5. 事務局	6
3.2. 高専連携の推進体制	7
3.2.1. 実証講座の推進体制	7
3.2.2. 推進体制の成果	8
3.3. 各機関の役割・協力事項	9
3.3.1. 教育機関	9
3.3.2. 行政機関	10
3.3.3. 団体・医療機関・企業等	10
3.3.4. コーディネーター	10
3.3.5. 事務局	10
4. 事業に取り組む背景	11
5. 事業計画の概要（6 年）	16
6. 今年度の取り組み	19
6.1. 実証講座の実施・検証	19
6.1.1. 概要	19
6.1.2. まとめ	20
6.2. 教育プログラムの開発	22
6.2.1. カリキュラム策定の基本方針（2022 年度版）	22
6.2.2. カリキュラム 2022 年度版	22
6.2.3. 教材開発の基本方針	26
6.2.4. 開発教材の概要	26
6.2.5. 教材開発の意義・活用方策	32
6.3. 学習支援・教育支援環境の構築	33
■事業の詳細	35

1. 実証講座実施報告	36
1.1. 概要	36
1.1.1. 実施実績	36
1.1.2. 教職員対象の講座	37
1.2. 実施方法	38
1.3. 実施結果	40
1.3.1. 小牛田高等学園	40
1.3.2. 岩沼高等学園	55
1.3.3. 女川高等学園	60
1.3.4. 大笹生支援学校	68
1.4. 実施結果の検証	76
1.4.1. 生徒アンケート	76
1.4.2. 関係者の意見	83
1.4.3. まとめ	84
2. 高専連携による教育プログラム	86
2.1. 概要	86
2.2. 基本方針	86
2.3. 連携の内容と目的	86
2.4. カリキュラム	87
2.4.1. カリキュラム策定の基本方針（2022年度版）	87
2.4.2. 学習のねらい 2022年度版	87
2.4.3. カリキュラム 2022年度版	87
2.5. 開発教材	92
2.5.1. 教材開発の基本方針	92
2.5.2. 開発教材の概要	92
2.5.3. 教材「介護のしごとを学ぼう」	93
2.5.4. 教材「情報モラルを学ぼう」	94
2.5.5. 教材「ビジネスマナーを学ぼう」	95
2.5.6. 教材「ライフスタイルを考えよう」	96
2.6. 学習支援・教育支援環境の構築	98
■ 巻末資料	101

■事業の概要

1. 事業の趣旨・目的

本事業では、知的障害特別支援学校高等部と専門学校が連携して5年間の一貫型職業教育プログラムを開発・実施する。

知的障害特別支援学校に在籍する児童・生徒は年々増加の傾向にあるが進学率は低く、その理由の1つが進学先となる高等教育機関が非常に少ないことによる。こうした現状の中、高等部卒業後の進学に対するニーズは過去の調査等で確かめられており、進学先の整備は今後の課題である。

一方、高等部では卒業後の経済的自立を見据えて様々な職業教育が実施されており、多くの成果を生み出しているものの就職は容易ではなく、また就職後の職場定着は芳しいとはいえないのが実状である。知的障害者の経済的自立を促進する上で職業教育のさらなる質向上や充実化も重要な課題である。

進学先の整備及び職業教育の充実化というこれらの課題の解決に向けて、本事業では特別支援学校→専門学校という5年間の一貫型職業教育プログラムを開発・実施する。

ここでは職業人としての基礎を学ぶプログラムから、生徒の潜在的な可能性を広げることが狙いとして、雇用ニーズが高い「介護」を含む複数の職業分野の職業教育へと段階的に発展するプログラムを提供する。これにより、職業教育の充実化を図ると共に、専門学校という進学の実選択肢を増やしていくことを目的とする。

2. 学習ターゲット・めざす人材像

次の能力を有する人材を養成する。(進学しない生徒も以下の基礎力を習得する)

- 就労に必要な職業能力
- 就労により経済的自立が達成できる力
- 周囲に依らず日常的な身の回りのことを行う自立的生活力
- 社会環境に適応し地域社会に貢献できる力

3. 事業の実施体制

3.1. 実施体制

3.1.1. 構成機関

本事業を推進する組織として、実施委員会を産官学の連携により編成した。実施委員会は学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校を代表機関とし、特別支援学校高等部（知的障害）、行政機関（宮城県・福島県）、福祉医療分野の専門学校、福祉医療関連の機関・企業等で構成した。

図表 3-1 実施委員会の構成機関

名称	所在地
宮城県立支援学校岩沼高等学園	宮城県
宮城県立支援学校女川高等学園	宮城県
宮城県立支援学校小牛田高等学園	宮城県
福島県立石川支援学校	宮城県
福島県立大笹生支援学校	宮城県
宮城県教育庁特別支援教育課	宮城県
福島県教育庁特別支援教育課	福島県
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 宮城障害者就職センター	宮城県
宮城県社会福祉協議会	宮城県
学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校	宮城県
学校法人こおりやま東都学園郡山健康科学専門学校	福島県
学校法人智帆学園琉球リハビリテーション学院	沖縄県
学校法人北杜学園仙台医療福祉専門学校	宮城県
学校法人福嶋学園倉敷リハビリテーション学院	岡山県
学校法人大美学園大阪美容専門学校	大阪府
学校法人敬心学園職業教育研究開発センター	東京都
宮城県リハビリテーション専門職協会	宮城県
医療法人上野医院	福岡県
株式会社奏音	広島県
株式会社ジャパンマネジメンツ	福島県
株式会社 PCL	宮城県
株式会社良創夢	福岡県
株式会社フクシア	福島県

3.1.2. 実施委員会

実施委員会は本事業を推進する主体として、事業計画に基づき、事業内容の具体化方針や実現方法、スケジュール等の重要事項を検討・決定する役割を担った。さらに実施委員会の下部機関として設ける分科会に対して業務の指示、結果の評価と助言・改善指示等を行った。また、事業成果の活用、特別支援学校や専門学校等への周知、普及促進に係る方策を主導した。

3.1.3. 分科会

実施委員会の決定・指示の下、一貫型職業教育プログラムの開発、実証講座の準備・実施・検証等を行う2つの分科会「開発分科会」「実施検証分科会」を編成した。活動の成果は実施委員会に報告し改善等を図った。

開発分科会はカリキュラム策定や教材開発等を担当した。実施検証分科会は実証講座の準備・実施・検証を担当した。各分科会のメンバーは、実施委員会の構成機関に所属する適任者により構成した。

3.1.4. コーディネーター

コーディネーターは、事業全体の調整、進捗管理、専門学校と特別支援学校、行政機関、施設、企業等の橋渡し等を担当した。

3.1.5. 事務局

会議運営や会計業務など事業の実施に係る事務的な業務全般を担当する事務局を設置した。

3.2. 高専連携の推進体制

3.2.1. 実証講座の推進体制

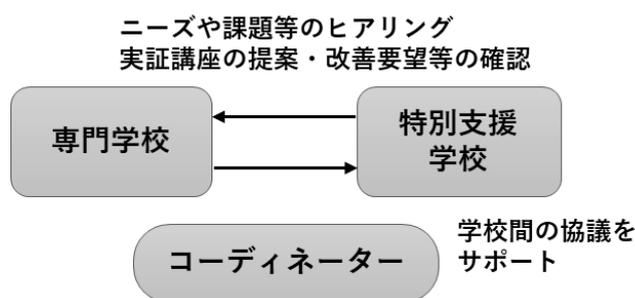
実証講座の実施は、本事業における中核的な取り組みである。この実証講座の推進体制として、本事業の代表機関であり、実証講座の講師を担当する仙台リハビリテーション専門学校及びコーディネーターと各特別支援学校高等部との連携体制を整え、取り組みを推進した。

●実証講座の実施前後のミーティング 生徒の多様な個性への対応

具体的には、実証講座の前段階で仙台リハビリテーション専門学校、コーディネーター、各校による三者ミーティングの場を設け、高等部サイドの教育ニーズや生徒の学習状況について綿密な確認、意見交換を実施した。各校別にミーティングを行ったのは、各校それぞれのニーズや状況に応じた実証講座の具体化を重要視したためである。

その後、改めてミーティングを設定し、実証講座のカリキュラム・使用教材が高等部のニーズや生徒の個性などに応じているかどうかの確認、改善すべき点があるかどうかの確認、その他要望などの確認を行った。その結果を踏まえて、カリキュラム・教材をチューニングするなどの改善・改良を施し、実証講座の実施へと進んだ。各校と行った個別ミーティングの総回数は40回以上に及んだ。

図表 3-2 実証講座のための個別ミーティング



こうした活動は実施委員会・分科会と同期を取りながら、実証講座の実施内容や実施結果などについて報告・審議し、実証講座のカリキュラムや実施方法などの議論を深めた。

学校により実証講座の実施回数は異なるが、実証講座の各回について、上記のミーティングを実施し、これにより講座の学習内容が学校のニーズ、生徒の個性に対応したものとなるよう尽力した。

3.2.2. 推進体制の成果

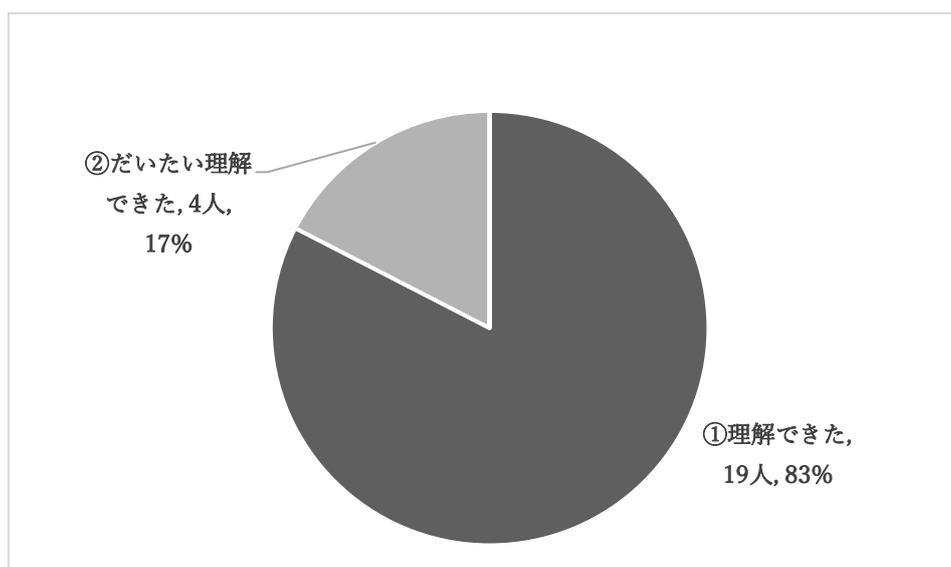
●実証講座の推進体制の成果 生徒の高い理解度の確認

上述の実証講座の推進体制に対する検証は、次年度以降も継続する課題だが、実証講座における生徒の理解度の高さ、高等部教員の評価は、この推進体制によるひとつの成果であるとみている。

実証講座の実施後、生徒を対象としたアンケートを行い、講座内容に対する理解について質したが、いずれの講座においても「理解した」が最も多く、「理解できなかった」とする回答は非常に少ない。以下に示すグラフは、小牛田高等学園 1 年生を対象に行った実証講座「ビジネスマナーの基本」の事後アンケートの結果からの抜粋である。この設問は「内容が理解できたか否か」を問うたものだが、回答は「理解できた」「だいたい理解できた」で占められている。他校、他講座もこの傾向はほぼ変わらない。

このような結果が得られた要因のひとつは、実証講座の学習レベルの設定が妥当であったことを示すものであり、生徒の状況を詳しく確認した事前ミーティングにあるものと考えられる。

図表 3-3 実証講座の内容は理解できたか



●実証講座の推進体制の成果 学んだことを実際の場面で活かす流れの実現

事前ミーティングによって実証講座「ビジネスマナーの基本」を校外実習の実施前というタイミングで設定できたケースでは、講座で学んだことを校外実習（企業）という実際の場面で活かすという流れを実現することができた。こうした流れは、高い教育効果が期待できるものであり、これも事前ミーティングによる成果であると考えられる。

●教材開発にも成果

今年度、本事業では、主として次年度の取り組みで活用するオリジナル教材の開発も進めたが、実証講座の推進体制は教材開発の場面でも成果をもたらしている。事前ミーティングや事後ミーティングでは、高等部サイドから教育現場の現状や課題、ニーズなど多様な意見や情報が示されるが、ここで得られた内容を開発教材に反映することができた。

実証講座の推進体制は、高等部・専門学校双方の担当者にとって負担は大きいだが、上記のような様々な成果につながる活動でもある。今後は、推進の仕方や体制など改めて検討し、より高い成果を生み出せる形を検討していきたい。

3.3. 各機関の役割・協力事項

3.3.1. 教育機関

(1) 特別支援学校

宮城県立の特別支援学校である岩沼高等学園、小牛田高等学園、女川高等学園、福島県立の特別支援学校である大笹生支援学校、石川支援学校の各校は、高等部生徒に対する実証講座の実施・検証、及び教職員対象の実証講座の実施に協力した。

また、高等部における職業教育の実施実績や課題等に関する情報を提供し、一貫型職業教育プログラム（高等部3年間）の学習内容等に対する要望や改善提案等を行った。

(2) 専門学校

仙台リハビリテーション専門学校は実施委員会の代表機関として、本事業全体の推進を管理統括する役割を担った。その過程において、過去の文部科学省委託事業「知的障害者を対象とする社会生活・職業を学ぶ学科の構築と実証事業」（平成30～令和2年度）の取組で得られた知見・実績や職業教育のノウハウなどを提供すると共に、他の構成機関との連携によって実証講座の企画・運営を実施した。

福祉医療分野の専門学校は各校の専門的観点から、一貫型職業教育プログラムのカリキュラムや学習内容、教育方法などに関する知見・ノウハウ等を提供し、プログラムの開発に協力した。さらに、介護福祉士養成課程を設置している専門学校は、特別支援学校高等部卒業後の進学先・生徒の受け入れ側としての立場から、カリキュラムや学習内容などに関する助言などを行った。

3.3.2. 行政機関

宮城県及び福島県の教育庁特別支援教育課は、各県における特別支援学校高等部の現状や自治体・行政の取り組み状況等に関する情報を提供し、専門学校と特別支援学校の連携調整や高・専のカリキュラムの接続性等に対する助言などについて協力した。

3.3.3. 団体・医療機関・企業等

自立した職業人育成や専門分野「介護」に係る学習内容に関する知見、介護実務の現状や人材に求められる能力・態度等に関する知見、特別支援学校高等部及び専門学校の職業教育に対する要望等を提供した。

3.3.4. コーディネーター

事業活動の全体調整・進捗管理・体制構築、広報、効果検証、特別支援学校・企業等（就職先）・専門学校・県教育庁の橋渡しなどを行い、実施委員会と共に事業の推進役を担った。

本事業では、特別支援学校の元校長である 2 名の方にコーディネーターを依頼しているが、その経験・見識に基づき、一貫型職業教育プログラムの内容や指導・評価方法等について助言した。

3.3.5. 事務局

実施委員会・分科会の会議運営、会計業務、特別支援学校と専門学校の連携調整などコーディネーターの活動支援、外注管理、事業成果物の取りまとめなど事務的業務全般を担当する。また、実施委員会・分科会の活動・検討結果に基づき、定型業務の一部について、外部企業の協力を得るなどして教育プログラムの開発・実証講座実施等の取りまとめを担当した。

4. 事業に取り組む背景

本事業の背景、取り組むことの意義・ねらいについて、その要点を以下に説明する。

●年々増加の傾向にある知的障害特別支援学校の児童・生徒数

知的障害特別支援学校に在籍する児童・生徒の人数が年々増え続けている。平成 20 年度の 9.7 万人から平成 30 年度は 13 万人と増えており、視覚障害や肢体不自由など他の障害者がほぼ横ばいであるのとは対照的である（文部科学省「学校基本調査」）。この傾向は今後もしばらく続くと予測されており、各自治体等において、知的障害特別支援学校の教育環境の整備や教育体制・内容の一層の充実化が喫緊の課題となっている。

●知的障害特別支援学校高等部の課題 キャリア教育・職業教育の充実化

知的障害特別支援学校高等部（以下、高等部）では、職業学科・普通科のいずれにおいても、卒業直後からの社会的・職業的な自立に向けて、専門教科によるキャリア教育・職業教育が重要な位置付けとなっている。具体的には、卒業生の就職実績等に基づき、サービス業、小売・卸売、食品製造・加工、医療・福祉等の職業に関する知識や技能、職業人としての態度を養う教育が行われている。学内での授業だけでなく、企業等の学外での職場実習も実施されており、教育課程の 1 つの柱を構成している。

●高等部単独での取り組みの難しさ 専門学校との連携の必要性

こうした職業教育のなお一層の充実化は高等部の課題だが、高等部の多くは普通科であり、職業学科であっても高等部 1 校単独で職業教育を実践することには難しさがある。この点について、専門学校の教員や企業・施設等の実務者が高等部で授業を行うことで充実化を図っていくことは有効策である。実際のところ、宮城県内の高等部（岩沼高等学園、小牛田高等学園、女川高等学園）にヒアリングした結果、専門学校と連携した職業教育への具体的な要望が確かめられている。

●「進学」という進路の現状

高等部卒業後の進路は全国平均でみると「社会福祉施設等入所・通所」が約 60 % と最も多く、これに次ぐのが「一般就職」の約 35 % となっている。これに対して「進学」はわずか 0.4 % と 1 割に満たない（文部科学省「学校基本調査」）。進学が少ないのは進学先が非常に限られていることが大きな要因の 1 つである。具体的には、高等部本科の進学先となる専攻科を設置している特別支援学校は全国で 9 校しかない。知的障害者に限らず、職業人として社会で働く上で、しっかりした職業教育は不可欠であり、その意味において知的障害者の専門学校への進学が少ないということ自体が大きな課題である。

●進学という進路に対する潜在的なニーズとその対応の必要性

仙台リハビリテーション専門学校は、2018年度から3年間に亘り文部科学省委託事業として高等部卒業後の進学先となる「社会生活・職業を学ぶ学科」の構築に係る取り組みを進めてきた。その活動の一環として実施した全国調査では、高等部の半数近くが卒業後の進路として「進学が必要」と回答している¹。また、全国障害者問題研究会の調査（障がい者の高等部卒業後の教育年限延長に関する意識の調査研究）においても、保護者の約7割が「進学」を求めていることが報告されているなど、進学に対する潜在的なニーズは確実にあると考えられる。

●進学先としての専門学校 職種教育のさらなる充実に向けて

高等部と連携して専門学校が職業教育プログラムを提供することで、より一層の職業理解や技能の修得等の教育効果が期待できる。さらに潜在的な進学ニーズを踏まえると、連携教育の結果として、職業についての学びを継続したいと考える生徒、続けさせたいと思う保護者が現れることは十分に考えられることである。高等部卒業後の選択肢の1つとして「専門学校への進学」を示すことで、こうした生徒の継続的な学びのニーズや保護者の要望に応えることができる。

●学ぶ専門分野は「介護福祉」

進学後の専門分野として「介護福祉」を設定する。その理由は、人材不足が慢性化している介護福祉の実務現場において、近年知的障害者に対する雇用ニーズが高く、実際に介護福祉施設等への就職実績が増えていること、一部の特別支援学校高等部においても介護福祉に係る基礎的な職業教育を実施し、一定の教育成果が生まれているからである。また、清掃などバックヤード業務のような定型的な作業から生活介助まで能力に応じて従事できるという仕事上の特性もあり、進路として適切であると考えられる。

昨今では介護人材の質が問われる虐待等の事例もあるが、専門学校でしっかりと専門知識と技術を学び、専門職としての心がまえ・マインドを身に付けた上で就職できることの重要性は非常に高い。これは、就職後の職場定着の安定化にもつながるものと期待できる。

●知的障害者が介護福祉に進むことの意義・狙い 恩恵を「授ける」職業人へ

福祉とは「すべての人々の幸福」を意味するものであり、「幸福とは自分なりの幸せを考え、福祉とは他者に寄り添いながら人の幸せを考える」ということができる。つまりこれは、障害者だから人から恩恵を受ける方ではなく、障害者自身も人へ恩恵を授けることができ

¹ 学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校「知的障害者を対象とする社会生活・職業を学ぶ学科の構築と実証 事業成果報告書」（2018～2020年度）

ることを知ることでもある。それは、障害者が生きやすい社会は、必ずや健常者にとっても生きやすい社会であろうことを意味する。

介護福祉分野の職業人として仕事に従事することにより、障害者自身が恩恵を受けることができ、これが本事業において就職・社会的な活動の場として、介護福祉を選択する狙いでもある。

●生徒の潜在的な可能性を広げることも重要

その一方で、福祉以外の専門分野についても教育プログラムに取り入れていく必要がある。その理由は、高等部の段階においては、生徒の持っている潜在的な可能性を広げるべく、生徒自らが将来の進路を探ることを支援することも重要だからである。具体的には、各校の要望や生徒の状況に応えながら、販売やサービスなどといったこれまでの就職実績も踏まえて内容を検討するなどの方策が適当である。

●計5年間の一貫・連続した職業教育の構築～進学しない生徒にも大きなメリットを

専門学校も高等部卒業生を受け入れる体制をしっかりと整備する必要がある。高等部と連携した職業教育の実践経験を通して、専門学校は知的障害者への理解を深め、障害に応じた適切な職業教育の内容や方法を開発すると共に、そのノウハウを専門課程の教育の中に落とし込んでいく必要がある。これにより高等部3年間と専門学校2年間、トータル5年間の一貫した職業教育プログラムが具体化されることになる。

また、専門学校への進学が難しい生徒にとっても、高等部の3年間に充実した職業教育を受けられることのメリットは大きい。社会に出て職業人として働き続ける上での基盤となる能力が培われるからである。

●高等部・専門学校の教育の課題～低い職場定着率

知的障害者の職場定着率（就職1年後）は68.0%という調査結果があるが、これは障害者を含む常用労働者全体の1年間の平均離職率14～17%程度と比べて高いとは言いがたい水準にある²。知的障害者に対する効果的な職業教育の実践と共に、就職後に継続して働くことができる素地を培うことも学校教育の課題となっている。

離職の理由は様々ではあるが、「高等部→専門学校」のトータル5年間の一貫・連続した職業教育はこうした課題に対しても改善の効果が見込める。5年間の学びを通して、職業・職種の専門的な知識や実務的な技能、職業人としての基本的な態度・姿勢を身につけることで、職業や職場への適応力は確実に高まるはずである。その結果、早期に離職する者の減少にもつながるものと期待できる。

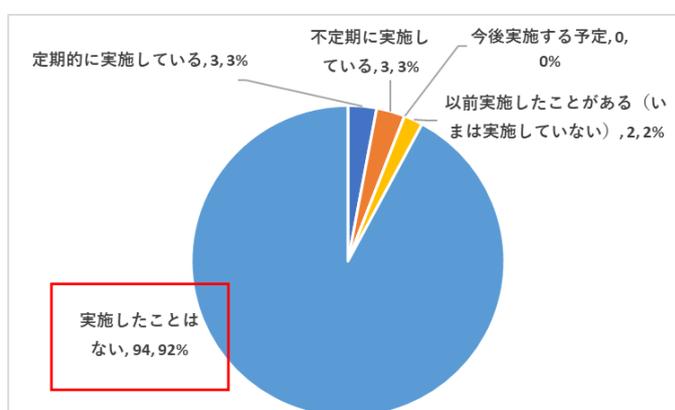
² 高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター「障害別にみた職場定着率の推移と構成割合」（2017年）

またさらなる取り組みとして、高等部と専門学校が連携して、就職してからの継続的な就労、キャリア形成をフォローアップしていく体制を構築・運用していく必要がある。

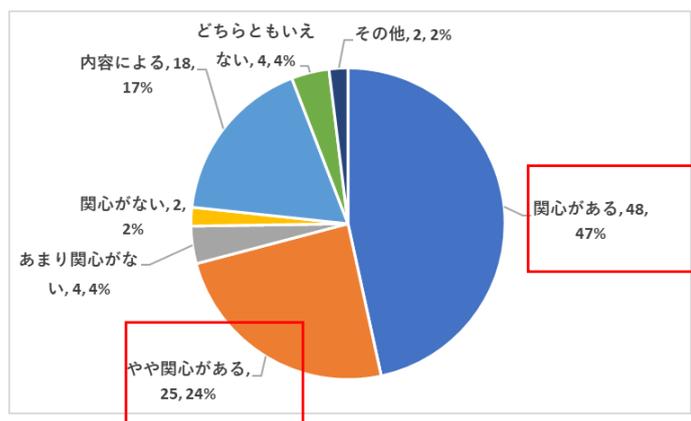
●高等部・専門学校連携をめぐる課題 相互理解の促進

一貫型職業教育プログラムの開発・実施では、その前提として高等部と専門学校の相互理解の促進が不可欠である。昨年度事業で実施した特別支援学校高等部対象のアンケート調査では、以下のグラフに示すように、「専門学校と連携した教育を実施したことがない」が9割を超えており、多くが専門学校と接点を有していないのが実状である。しかしその一方で、「専門学校と連携した教育への関心」については、7割以上が「関心がある」と回答している³。

図表 4-1 専門学校と連携した教育の実施状況



図表 4-2 専門学校と連携した教育への関心の有無



³ 学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校「知的障害特別支援学校高等部と専門学校の有機的連携の開発と実証 事業成果報告書」（2021年度）

こうした現状を踏まえると、一貫型職業教育プログラムの開発・実施のプロセスにおいて、高等部と専門学校の教員レベルが相互の理解を深めていくような活動も行っていく必要がある。

5. 事業計画の概要（6 か年）

本事業の令和3年度から令和8年度までの事業計画概要を以下に示す。

令和4年度の1年生を対象とする教育から年度ごとに学年を上げていく計画となっているが、年度にとらわれることなく、どの年度においても高等部の要望に沿った学年に対する職業教育を可能な範囲で実施することを基本方針とする。

図表 5-1 事業計画の概要（6 か年）

年度	取組内容
令和3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業実施体制の構築 2. 特別支援学校高等部の現状把握 3. 一貫型職業教育プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム設計 ○高等部1年生向け教材・指導ガイド 4. 実証講座の実施準備 <ul style="list-style-type: none"> ○計画 ○実施準備（高等部1年生対象） 5. 学習支援・教育支援環境の整備 6. 事業成果の公開 <ul style="list-style-type: none"> ○事業成果報告書の配布・公開等
令和4年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一貫型職業教育プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム設計 ○高等部2年生向け教材・指導ガイド ○高等部1年生向け教材・指導ガイド改訂 2. 実証講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○実施・検証（高等部1年生対象） ○実施準備（高等部2年生） ○実施・検証（高等部教員対象） 3. 学習支援・教育支援環境の整備・運用 4. 事業成果の公開 <ul style="list-style-type: none"> ○事業成果報告書の配布・公開等
令和5年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一貫型職業教育プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム設計 ○高等部3年生向け教材・指導ガイド ○高等部2年生向け教材・指導ガイド改訂 2. 実証講座の実施

	<ul style="list-style-type: none"> ○実施・検証（高等部2年生対象） ○実施準備（高等部3年生） ○実施・検証（高等部教員対象） 3. 学習支援・教育支援環境の整備・運用 4. 事業成果の公開 <ul style="list-style-type: none"> ○事業成果報告書の配布・公開等
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> 1. 一貫型職業教育プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム設計 ○専門学校1年生向け教材・指導ガイド ○高等部3年生向け教材・指導ガイド改訂 2. 実証講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○実施・検証（高等部3年生対象） ○実施準備（専門学校1年生） ○実施・検証（高等部教員対象） 3. 学習支援・教育支援環境の整備・運用 4. 事業成果の公開 <ul style="list-style-type: none"> ○事業成果報告書の配布・公開等
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> 1. 一貫型職業教育プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム設計 ○専門学校2年生向け教材・指導ガイド ○専門学校1年生向け教材・指導ガイド改訂 2. 実証講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○実施・検証（専門学校1年生対象） ○実施準備（専門学校2年生） ○実施・検証（高等部教員対象） 3. 学習支援・教育支援環境の整備・運用 4. 事業成果の公開 <ul style="list-style-type: none"> ○事業成果報告書の配布・公開等
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> 1. 一貫型職業教育プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム設計 ○高等部1～3年・専門学校1・2年生向け教材・指導ガイド最終版 2. 実証講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○実施・検証（専門学校2年生対象） ○実施・検証（高等部教員対象） 3. 事業成果の総括・展開 <ul style="list-style-type: none"> ○事業6年間の総括

	<ul style="list-style-type: none">○普及促進策の策定・実施4. 学習支援・教育支援環境の整備・運用5. 事業成果の公開○事業成果報告書の配布・公開等
--	--

6. 今年度の取り組み

6.1. 実証講座の実施・検証

6.1.1. 概要

本事業の推進組織である実施委員会の構成機関である特別支援学校各校と連携し、2022年5月より、各校の要望に応じた職業教育プログラムを実証講座として実施した。本事業の委託期間は2022年7月から2023年3月であるが、委託期間外で実施した実証講座も職業教育プログラムとして一貫した流れの位置づけとなるため、その実施内容・結果についても、本稿では取り上げることとする。以下に実施した実証講座を一覧で示す。

図表 6-1 実証講座実施一覧

No	月日	学校	対象	テーマ	コマ数
1	5月31日	小牛田高等学園	1年生	ビジネスマナーの基本	2
2	7月12日	小牛田高等学園	3年生	仕事をするとき心がけること	2
3	7月14日	岩沼高等学園	1年生	ビジネスマナーの基本	2
4	9月22日	石川支援学校	運動部	ケガ防止・ストレッチ	30分
5	9月26日	石川支援学校	運動部	ケガ防止・ストレッチ	30分
6	9月26日	女川高等学園	3年生	PT・OTについて	2
7	9月26日	女川高等学園	2年生	PT・OTについて	2
8	9月28日	大笹生支援学校	2年生	働くことの意味	1
9	9月28日	大笹生支援学校	2年生	ビジネスマナーの基本	1
10	11月15日	小牛田高等学園	3年生	採用面接に向けて	2

※1 コマ 45分

また、仙台リハビリテーション専門学校として、以下のイベントにブース出店し、特別支援学校の生徒らに社会活動を体験してもらう機会を設ける取り組みも実施した。

具体的には、桜まつりのブースでは本事業に関するパネル展示やチラシの配布を行ったり、パンフェスでは特別支援学校の生徒による教育活動成果物である加工食品や陶芸作品、仙台リハビリテーション専門学校との共同制作グッズなどの展示・販売を行ったりした。

図表 6-2 イベント一覧

No	月日	イベント名称	主催	日数
1	4月9・10日	桜まつり	東北放送	2日間
2	10月1・2日	ぐりりとパンのフェス	仙台放送	2日間

特別支援学校の教職員を対象とする講座も本事業の取り組みの一環と位置付けている。講座の実施を通して、特別支援学校と専門学校の教職員同士の相互理解の促進や連携の強化を図ることもねらいである。今年度は福島県立石川支援学校の教職員を対象に、肩こり・腰痛予防体操を内容とする講座を実施した。

6.1.2. まとめ

今年度の実証講座では、実施後の生徒アンケート、特別支援学校高等部の教員及び実証講座担当講師からの意見、実施委員及びコーディネーターからの意見などを総合的に勘案することで検証を進めた。

生徒へのアンケートによって、生徒個々の講座の受け止めかたを確認することができたのは大きな成果のひとつであった。その要点を以下に列記する。

- 多くの生徒が「実証講座の内容が役立つと思う」と回答している。これにより、生徒からみた講座内容の有用性を確認できた。
- 多くの生徒が「卒業後の進路を学びたい」と回答している。これにより、進路に対する生徒の学びに対する意欲が確認できた。
- 「卒業の進路についてどう考えているか」は学年、時期によって回答の傾向に違いがあることが確認できた。回答は「よく考えることがある」「たまに考えることがある」が多くを占めており、「考えることは（あまり）ない」という回答は非常に少ない。学年間の相違はあるものの、卒業後の就職を見据えて進路の問題は、多くの生徒にとって意識せざるを得ないものであるようだ。
- 「卒業後の進路の具体的なイメージ」も学年、時期で回答に違いがあるが、上位の学年ほど、イメージができていく生徒が増える傾向が認められる。高等部3年間の学習の中で着実に就労意識や職業観が培われている様子が窺える。
- 「講座の内容の理解」については、「理解できた」「だいたい理解できた」という回答が多数である。各講座は学校ごとに教員の協力を得ながら内容を調整し実施した。その結果として生徒の理解度は高く、難易度の設定は妥当であったようである。生徒の学力に応じた適切なレベルであったとみることができる。
- ただし、アンケートによる生徒の自己評価である点は留意する必要がある。より厳密な学習効果の測定に向けて、小テストなどの導入の検討も必要であろう。
- 「生徒の意見・感想」では実に多様な意見や感想が寄せられた。それらの中には、学習内容と今後の実習などとの関連を指摘するなど具体的なものが多く、実証講座の内容の見直しや改善を図る上で大いに参考となる。
- 総合的に勘案すると、講座の実施、専門学校教員とのふれあいを通じて、生徒の就職や進路に対する学びの意識は着実に向上したものと考えられる。

- 一方で、職業意識の涵養だけではなく、将来の自立に向けたライフデザインに係わる教育の実践・充実化がこれからの課題である。

特別支援学校高等部の教員、実証講座の担当講師、実施委員、コーディネーターからも貴重な意見・助言が得られた。その詳細は前述の通りだが、今後の実証講座の実施に向けてポイントとなる事項を以下に整理して示す。

- 生徒が実際に身体を動かす「体験型」授業や、演習に取り組む「参加型」授業の実践は、生徒の積極的な学びを促す上で効果的である。
- 具体的には、今年度実施したようなビジネスマナーのロールプレイやリハビリ体操の体験、タブレットを使ったリアルタイムの Web アンケートなどが有効であった。
- 実証講座実施のタイミングも、生徒のモチベーションを刺激する、学習効果を高める上で重要なポイントであった。
- 今年度は「ビジネスマナー」とその後の校外実習という流れの中で学習効果が確認された。(学んだことを実際の場面で活かすという流れ)
- 次年度も高等部との綿密な連携の下、より高い教育効果が見込まれるタイミングでの実施を検討していくことが望まれる。

6.2. 教育プログラムの開発

6.2.1. カリキュラム策定の基本方針（2022 年度版）

カリキュラム策定の基本方針は前年度と大きな相違はないが、今年度の実証講座の実施実績を踏まえて、各校の個別ニーズなどへの柔軟な対応を方針として明記する。

- テーマごとで完結した講座を単位としてカリキュラムを構成する。
- 授業で運用しやすいように、一講座は1～3 コマ程度（1 コマ 50 分）を基本とする。
- 各学年について、計 10 講座（30 コマ）程度の講座を設定し、メニュー化する。
- 特別支援学校はこれらの講座メニューから、各校が必要と判断する講座を選択する。
- カリキュラムは各校のニーズなどに応じて柔軟に対応し、講座の内容などは個別のカスタマイズ・調整を行い実施する。

6.2.2. カリキュラム 2022 年度版

以下に 2022 年度版のカリキュラム（講座の構成と概要）を一覧で示す。

講座の名称、内容、コマ数は可変とし、各校の要望などに応じてカスタマイズして実施することも想定範囲である。また、講座の配当年次も同様で、3 年生の科目を 1 年生向けにアレンジして実施するなどのケースも想定としている。

以下の表では、さまざまな職業に共通する内容、特定の職業の基礎的・導入的な内容の講座である。

図表 6-3 カリキュラム

学年	講座名	コマ数
1 年生	(1) いろいろな職業を知ろう モノをつくる仕事、モノを売り買いする仕事、サービスする仕事の内容とその職種について学習する。	1～3
	(2) 働くことについて考えよう なぜ、私たちは働くのか。そんな問いかけから、働くことの目的や意義について考えを深める。これにより、将来に向けた職業意識を養う。	1～3
	(3) 社会のしくみを知ろう 職業という視点から、社会がどのようなしくみで成り立ち、動いているのかを学ぶ。その社会の中でいろいろな職業がどのような役割を果たしているのかを学習する。	1～3
	(4) 自分自身を管理しよう	1～3

	自己管理とはなにか、その目的や大切さ、具体的な方法について学習する。	
	(5) 健康管理をしよう 身体の状態（バイタル管理）を理解し、自分で健康管理ができるように学習する。	1～3
	(6) メンタルヘルスとは何かを学ぼう 心と身体の仕組みを理解し、心と上手に向き合っていく方法について学習する。	1～3
	(7) スポーツ関連を楽しもう 運動の基礎を理解し、トレーニング方法やケガ予防・対処方法について学習する。	1～3
	(8) インターネットをじょうずに活用しよう 検索エンジン Google を活用して、生活や学習に必要な情報を入手し利用するための方法について学習する。	1～3
	(9) ネットのトラブルに巻き込まれないように注意しよう ネットで人をだます詐欺の内容を学び、その被害を受けないための具体的な方法について学習する。	1～3
	(10) 情報モラルとは何かを学ぼう SNS や電子メールなどを使う際のマナーや注意すべき点について学習する。	1～3
	(11) パソコンを活用しよう（ワープロ） Word のさまざまな機能を活用して文書を作成する方法を学習する。	1～3
	(12) ビジネスマナーとは何かを学ぼう A 身だしなみ、表情、あいさつなどビジネスマナーの基礎について学習する。	1～3
	(13) 介護職ってどんな仕事か体験してみよう 介護職の仕事内容について、車椅子の体験なども織り交ぜて学習する。	1～3
2年生	(1) キャリアデザインとは何かを学ぼう A～自分のことを知ろう これまでの自分を振り返りながら、自分自身についての理解を深める。	1～3
	(2) キャリアデザインとは何かを学ぼう B～なりたい自分を考えよう	1～3

	自分が興味を持っていることややってみたいと思っていることなどから、将来なりたい自分について考えを深める。	
	(3) ビジネスマナーとは何かを学ぼう B 会社訪問や来客への対応などビジネスマナーの基礎について学習する。	1～3
	(4) ビジネスマナーとは何かを学ぼう C 電話対応、電子メールでの対応などビジネスマナーの基礎について学習する。	1～3
	(5) 健康管理をしよう 体重管理（ダイエット）、筋力向上、維持についての基礎を学習する。	1～3
	(6) メンタルヘルスを学ぼう 精神的なストレスや悩みとの向き合い方や、それを解消する方法について学習する。	1～3
	(7) スポーツ関連を楽しもう 筋力トレーニング、持久力トレーニングの基礎を演習で学習する。	1～3
	(8) 部活を楽しもう 運動系の部活で怪我をしないための準備運動や冬場の体力づくりについて学習する。	1～3
	(9) 介護職の仕事を学ぼう 介護職を希望する生徒を対象とする講座。介護の仕事の内容や働きがいについて学習する。将来の進路選択のための基礎知識を学ぶ。	1～3
	(10) 販売ってどんな仕事か学ぼう 販売を希望する生徒を対象とする講座。販売の仕事の内容や働きがいについて学習する。将来の進路選択のための基礎知識を学ぶ。	1～3
	(11) パソコンを活用しよう（表計算） Excel のさまざまな機能を活用して、データを集計・加工する方法を学習する。	2～6
3年生	(1) 将来のことを考えよう～ライフデザイン 将来、どのような生活を送っていきたいか、自分自身の考えを深める。	1～3
	(2) 就職活動で大切なことを学ぼう	1～3

	就職活動を行う上での心がまえや注意しておくべき点などについて学習する。	
(3)	自己をPRしよう 就職面接に向けて、自分自身をPRするための方法を学び、その実践について学習する。	1~3
(4)	社会人の心がまえを学ぼう 社会人、職業人としての心がまえ、求められる姿勢などについて学習する。	1~3
(5)	余暇生活を考えよう 余暇活動の大切さについて学び、余暇生活を送っていきたいかについて考えを深める。	1~3
(6)	お金のじょうずな使い方を学ぼう 日々の生活の中で、じょうずにお金を使い、やりくりしていくための方法について学習する。	1~3
(7)	お金のトラブルに巻き込まれないために注意しよう 詐欺やお金の貸し借りをめぐるトラブルについて学び、お金に関する被害に巻き込まれないための具体的な方法について学習する。	1~3
(8)	健康管理をしよう 自分の健康管理を実践して、記録ができるように学習する。	1~3
(9)	メンタルヘルスを学ぼう 自分にあったメンタルヘルスを実践し、日々の生活に活かせるように学習する。	1~3
(10)	スポーツ関連を楽しもう 自分の目的に沿ったトレーニング方法や手段を選択しながら学習する。	1~3
(11)	ビジネスコミュニケーションを学ぼう 報告・連絡・相談など仕事を進めていく上で必要となるコミュニケーションの実践について学習する。	1~3
(12)	パソコンを活用しよう（プレゼンテーション） PowerPointのさまざまな機能を活用して、プレゼンテーション資料を作成する方法を学習する。	1~3
(13)	介護の仕事を体験しよう 高齢者に対する生活支援の実践を通して、介護福祉という仕事への理解を深める。	3~6
(14)	販売の仕事を体験しよう	3~6

	商品販売の実践を通して、販売という仕事への理解を深める。	
--	------------------------------	--

6.2.3. 教材開発の基本方針

●開発教材をベースとして、各校の要望・生徒の個性に応じてアレンジして活用

開発する教材を次年度「そのまま」利用してもらう想定だけではなく、これをベースとして、各校の要望等を取り入れアレンジして利用する、あるいは、開発教材を素材の1つとして各校と検討し、新たに教材を開発することも想定範囲とする。その意味で、次年度の職業教育プログラムの実施に向けた検討・具体化も視野の範疇として開発している。

6.2.4. 開発教材の概要

昨年度の事業では、主として高等部1年生を対象の想定とする教材の開発を行った。今年度はその継続的な取り組みとして、高等部2年生対象の教材開発を進めた。その一覧を以下に示す。

図表 6-4 開発教材一覧

<ul style="list-style-type: none"> ①介護のしごとを学ぼう ②情報モラルを学ぼう ③ビジネスマナーを学ぼう ④ライフスタイルを考えよう
--

「介護のしごとを学ぼう」は、職業としての介護の基礎を学び、介護福祉分野への進学・就職を考えるきっかけを提供する講座での利用を想定している。

「情報モラルを学ぼう」は学校生活や私生活、社会人としての生活といった各局面で遵守すべきルールや注意しなければならないことを学習する教材である。

「ビジネスマナーを学ぼう」はあらゆる職種に共通するビジネスマナーの基礎を実技を交えながら学ぶ教材である。

「ライフスタイルを考えよう」は、生徒一人ひとりが自分自身について考え、自分にとって望ましい生き方(ライフスタイル)について考えるきっかけを提供する講座での活用が想定である。この教材については、今年度はプロトタイプとし、次年度継続して検討する予定である。

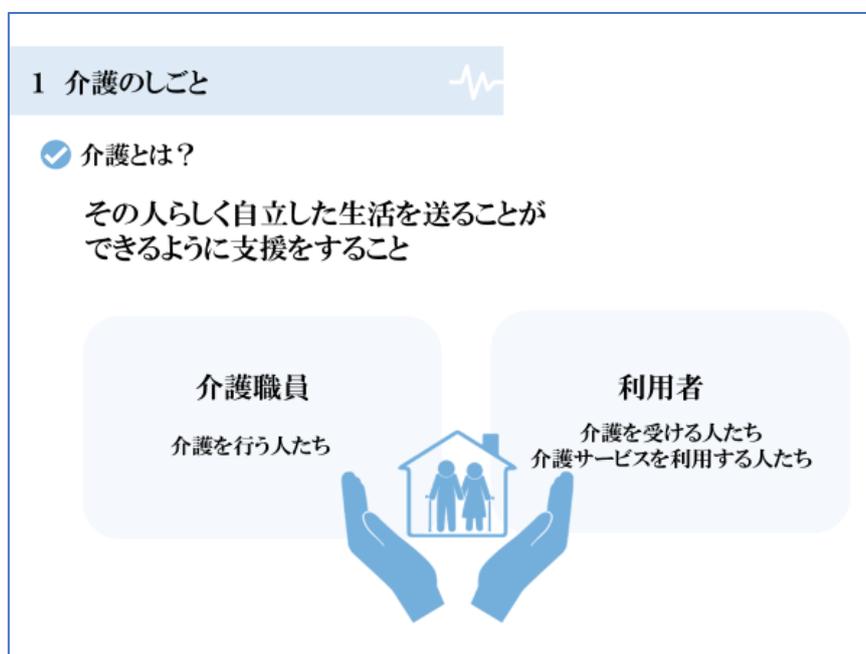
なお、これらの教材の使用は2年生に限定されるものではなく、各校のニーズなどに応じて1年生、3年生の授業でも使用できる。また、PowerPointで制作されているので、必要な部分(スライド)のみを選定して利用することも可能である。

これら4つの開発教材は本報告書の巻末資料に掲載している。

6.2.4.1. 教材「介護のしごとを学ぼう」

本事業では、特別支援学校高等部卒業生の進路のひとつとして、介護福祉分野の専門学校への進学を想定している。生徒によるこの進路の決定にあたっては、介護福祉に関する基本的な知識・技能や職場体験などの学びが不可欠となる。本教材は、このような学びの場面で利用を想定とするもので、介護という仕事の基礎的な理解を目標としている。

図表 6-5 教材（スライドの一部）



図表 6-6 内容構成

【パート1】（しごとの内容）

- ①介護のしごと
- ②介護の職場
- ③介護のしごとのやりがい
- ④介護のしごとの将来性

【パート2】（働き方）

- ⑤チームで行う介護のしごと
- ⑥チームで行う介護の心がまえ
- ⑦介護のしごとで基本となる考え方

⑧介護職の倫理

【パート3】(介護のしごとにつく)

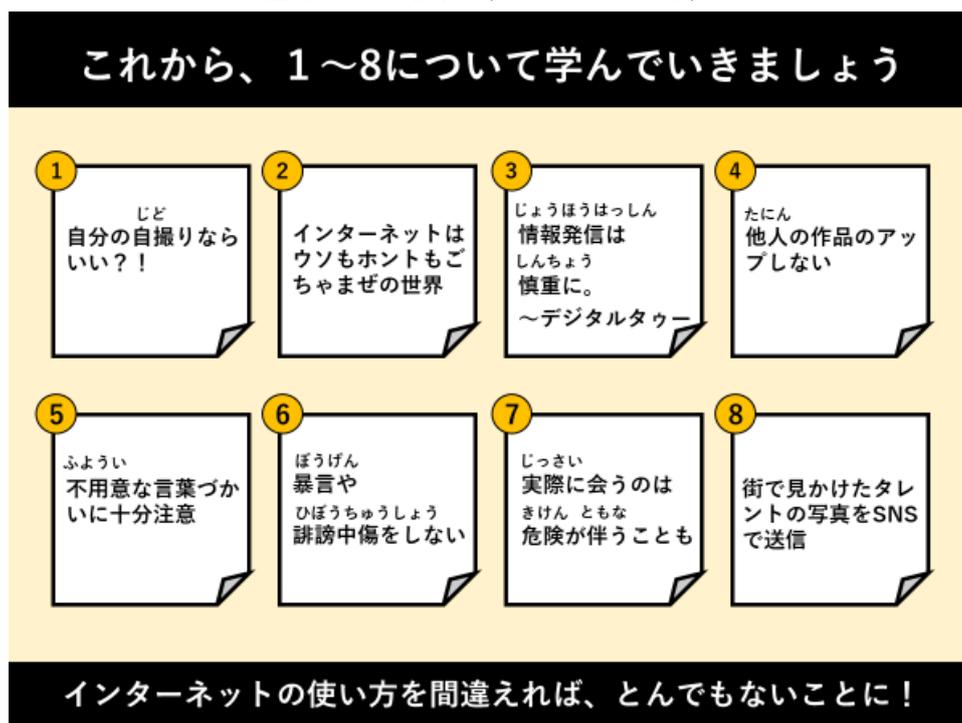
⑨介護に必要な知識・技能

⑩介護のしごとにつくには

6.2.4.2. 教材「情報モラルを学ぼう」

インターネット、スマートフォンは年齢に関わらず日常生活や仕事など多様な場面で不可欠のツールとなっている。非常に便利なツールであるその一方で、使い方を間違えば、不快な思いをさせたり・させられたり、深刻な被害や犯罪に巻き込まれてしまったりすることもある。さらに、そうした被害が本人だけでは家族や友人など周囲にまで及んでしまうこともある。

図表 6-7 教材 (スライドの一部)



本教材では、日々の生活や仕事の中でネットを使う際に守るべき基本的なルールやマナーなどを学ぶ内容で構成されている。その目的は、学校生活だけでなく卒業後の社会生活、職業生活を送る上での情報モラルのリテラシーを習得することである。

教材は知識を学ぶ講義だけでなく、簡単な事例をもとに考える・討議する参加型スタイルも取り入れ、情報モラルを意識したネット活用が実践できることをめざしている。

また、既存の動画学習素材、サイトも活用(文部科学省等)もリファレンスし、この教材

を使用する教員のアレンジにも活かせるようになっている。

本教材は、テキスト教材とeラーニング教材からなる。テキスト教材はPowerPointスライドで、教員がプロジェクタ等で使用することが想定である。eラーニング教材は各テーマについてスライドと解説の音声ナレーションによる自己学習用の動画コンテンツである。

図表 6-8 内容構成

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1) 他者を撮った写真の投稿 プライバシーの侵害、肖像権の侵害2) 自撮り写真の投稿 個人の特典、犯罪被害3) 正しい情報・正しくない情報 玉石混交4) デマの扱い5) 情報発信の注意 デジタルタウナー6) 著作物の扱い 著作権の侵害7) 不用意な言葉づかい 暴言・誹謗中傷8) ネットで知り合った人と会う危険 など |
|---|

6.2.4.3. 教材「ビジネスマナーを学ぼう」

本教材では、職業キャリア学習の一環として、基本的なビジネスマナーについてロールプレイによる疑似体験なども含めて学習する。これにより、高等部在学時における企業見学や学外実習、就職活動や卒業後の就労に際して必要となるビジネスマナーを習得することが目的である。テキスト教材とeラーニング教材で構成されている。テキスト教材はPowerPointスライドで、『新・見てわかるビジネスマナー集』（ジアース教育新社）を教科書として利用することを前提に、教員がプロジェクタ等で使用する補助教材として作成している。また、座学で学んだ知識の理解を確認するWebテスト（eラーニング教材）も開発した。

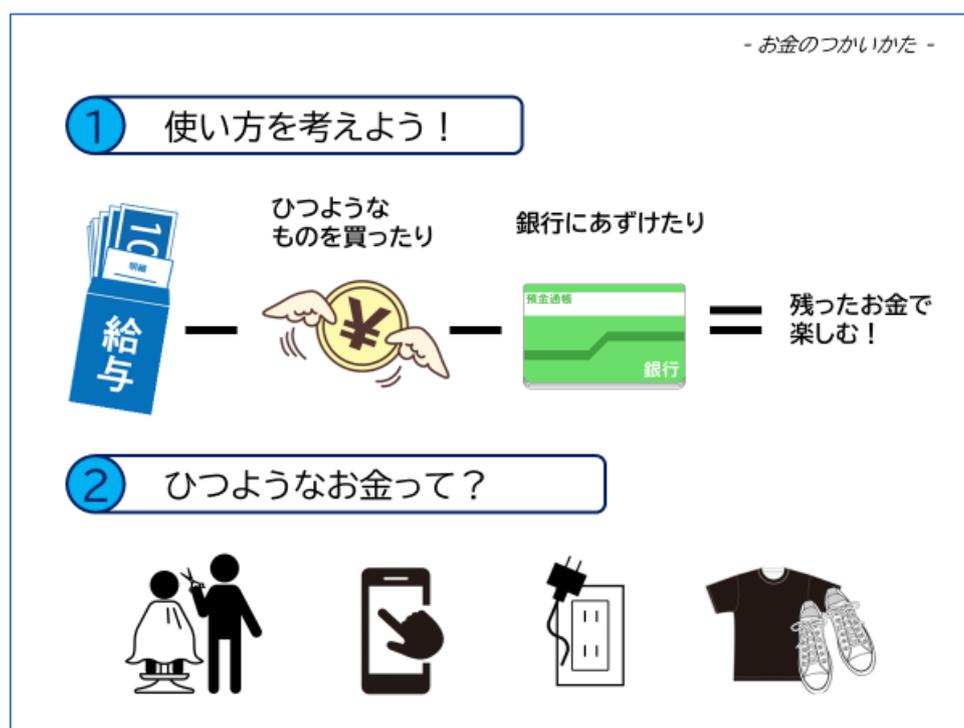
図表 6-9 学習テーマ一覧

仕事と自分を大切にすること（計11単元）

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1) 通勤途中と仕事でのケガや病気2) 会社のルールは「就業規則」が基本3) セクハラ4) パワハラ5) 健康的な食生活6) かせいだ給料（お金）の使い方7) スマホで失敗しないために8) 就業時間後のおつきあい |
|---|

- 9) 余暇を楽しんでリフレッシュ
- 10) ときめく気持ちとおつきあい
- 11) 「仕事」と「自分の生活」のよいバランス

図表 6-10 教材（スライドの一部）



6.2.4.4. 教材「ライフスタイルを考えよう」

職業キャリアの学びを深める上で、生徒一人ひとりが自分自身にとっての「望ましい生き方＝ライフスタイル」について考えてみることも有効である。自分にとって望ましい生き方を考えるためには、これまでの生活や経験を振り返り、自らの性格や行動といった「パーソナリティ」や、自分が何を大切に思っているかという「価値観」、将来の仕事に対してどう向き合っていこうと考えているかという「職業観」など、さまざまな視点から自分自身を見つめ直す「自己理解」が不可欠となる。

この教材では、これから職業人として社会に巣立つ前の段階で、生徒一人ひとりが「自分自身について考え（自己理解）」、「自分にとって望ましい生き方＝ライフスタイルについて考える」きっかけを提供する。

図表 6-11 内容構成

- 1 ライフスタイルについて考えてみよう
- 2 自分自身を見つめ直してみる
- 3 余暇を楽しもう
- 4 計画的にお金を使う・貯める
- 5 キャッシュレスってなに
- 6 お金のトラブルに注意しよう
- 7 ストレスとうまくつきあう
- 8 自分で自分を管理する
- 9 健康管理をしっかりしよう
- 10 キャリアデザインを考えてみよう

図表 6-12 教材（スライドの一部）

③ライフスキルってなに？

- ライフスキルとは
 - ・日常生活に生じるさまざまな問題や要求に対して、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力

- ソーシャルスキルとは
 - ・社会の中で他者と関係を築いたり、一緒に生活を営んだりするために必要とされる技能

6.2.5. 教材開発の意義・活用方策

開発教材はいずれも高等部のニーズや要望等をもとに企画されている。

例えば、「情報モラルを学ぼう」は、学校教育において ICT 活用が急速に加速している中、情報モラル教育の実施が不可欠となっている現状への対応がねらいである。

また、「ライフスタイルを考えよう」も、学校卒業した後の将来について生徒一人ひとりに考えてもらうきっかけを提供する教材だが、ライフスタイルやライフデザインに係わる教育への要望に応えようとするものである。

本事業で、このような教材を開発する意義は、生徒の多様な個性や教育ニーズへの対応を図ること、これにより高等部における職業キャリア教育の一層の充実化に貢献することである。

近年、キャリア教育の取り組みは活発で、そこで利用可能な市販テキスト、公的機関などによる無償テキストなども多数作られている。しかしながら、その多くは知的障害者を対象として想定しておらず、そのままでは利用が難しいものも少なくない。こうした現状への対応も教材開発に取り組む意義と考えている。

本事業で開発した教材はいずれも、そのまま利用することだけを想定していない。一部分を抜き出したり、組みあわせや順序を変更したり、部分的な内容を変更したりするなど、対象者やニーズに応じたカスタマイズも想定している。こうした自由度の高さは教材の活用の幅の拡大につながるものとなる。

今年度事業で開発した教材は、次年度以降の実証講座で活用していく計画である。また、これらは広く全国の特別支援学校高等部に公開していくので、利用したいという学校があれば、活用方法など支援をしていく考えである。

6.3. 学習支援・教育支援環境の構築

開発したeラーニング教材「情報モラルを学ぼう」(第1回から第8回の動画型eラーニングコンテンツ)、「ビジネスマナー」(44テーマのWebテスト型コンテンツ)による学習・教育を支援する環境をインターネット上に構築した。以下に示すのは、ログイン後のトップ画面の一部である。

図表 6-13 学習・教育支援環境のトップ画面 (一部)

SENDAI REHABILITATION COLLEGE
仙台リハビリテーション専門学校
eラーニングシステム22
ユーザー : guest

職業キャリア基礎学習

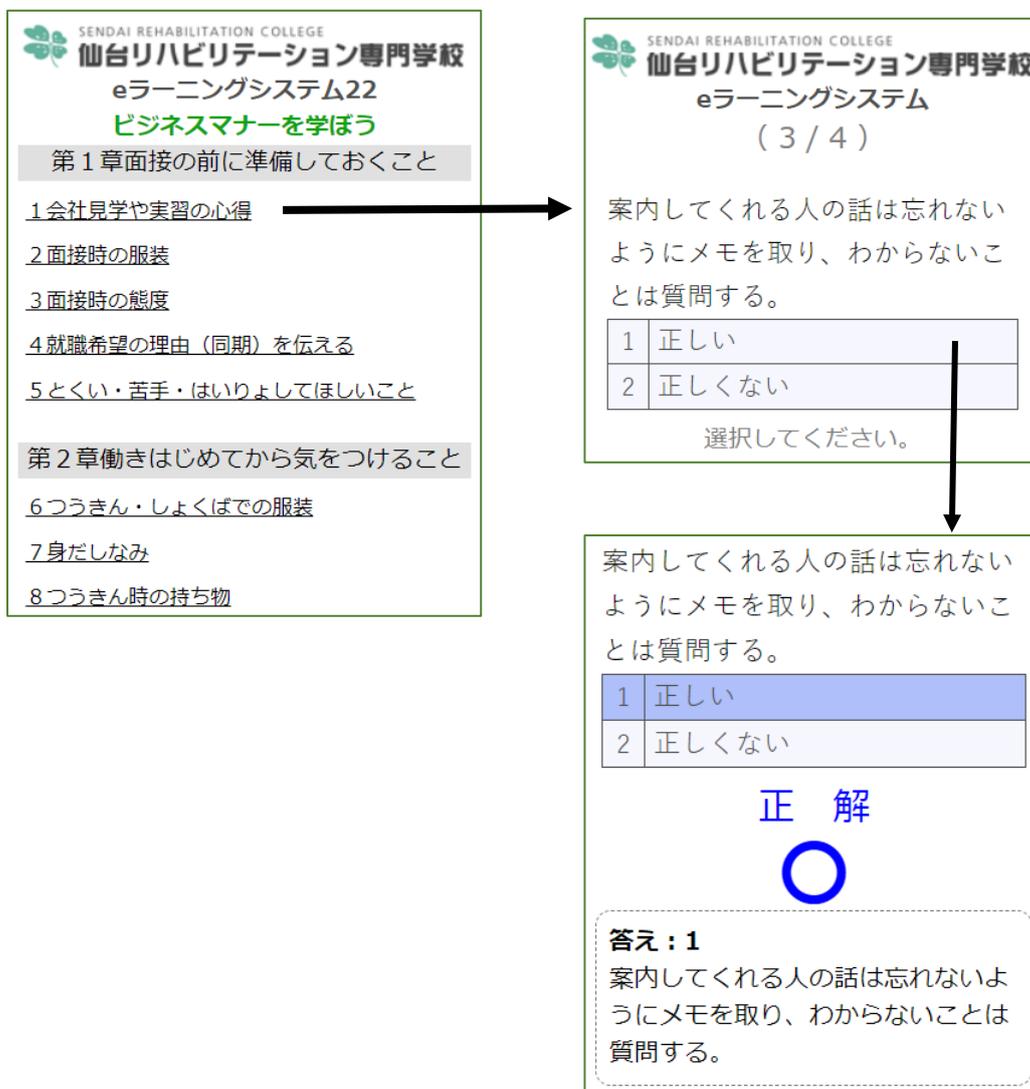
- 第1回いろいろな職業
- 第2回いろいろな職業
- 第3回いろいろな職業
- 働くことの意味
- ビジネスマナーを学ぼう**

社会人基礎学習

- 第1回インターネット活用(トラブル編)
- 第2回インターネット活用(トラブル編)
- 第3回インターネット活用(トラブル編)
- 第4回インターネット活用(トラブル編)
- 第1回情報モラル(はじめに)**
- 第2回情報モラル(自撮りに注意)**
- 第3回情報モラル(ネット情報にはウソもある)**
- 第4回情報モラル(投稿には注意)**
- 第5回情報モラル(著作権に注意)**
- 第6回情報モラル(ことばづかい)**
- 第7回情報モラル(悪口はいけない)**
- 第8回情報モラル(ネットで知り合った人に注意)**
- 第9回情報モラル(人の写真のアップに注意)**

この環境では、今年度事業で開発したeラーニング教材だけでなく、昨年度の事業で開発したeラーニング教材「いろいろな職業」「働くことの目的」「インターネット活用（トラブル編）」も利用することができるように整備されている。

図表 6-14 画面例（ビジネスマナーWebテスト）



■ 事業の詳細

1. 実証講座実施報告

1.1. 概要

1.1.1. 実施実績

本事業の推進組織である実施委員会の構成機関である特別支援学校各校と連携し、2022年5月より、各校の要望に応じた職業教育プログラムを実証講座として実施した。本事業の委託期間は2022年7月から2023年3月であるが、委託期間外で実施した実証講座も職業教育プログラムとして一貫した流れの位置づけとなるため、その実施内容・結果についても、本稿では取り上げることとする。以下に実施した実証講座を一覧で示す。

図表 1-1 実証講座実施一覧

No	月日	学校	対象	テーマ	コマ数
1	5月31日	小牛田高等学園	1年生	ビジネスマナーの基本	2
2	7月12日	小牛田高等学園	3年生	仕事をするとき心がけること	2
3	7月14日	岩沼高等学園	1年生	ビジネスマナーの基本	2
4	9月22日	石川支援学校	運動部	ケガ防止・ストレッチ	30分
5	9月26日	石川支援学校	運動部	ケガ防止・ストレッチ	30分
6	9月26日	女川高等学園	3年生	PT・OTについて	2
7	9月26日	女川高等学園	2年生	PT・OTについて	2
8	9月28日	大笹生支援学校	2年生	働くことの意味	1
9	9月28日	大笹生支援学校	2年生	ビジネスマナーの基本	1
10	11月15日	小牛田高等学園	3年生	採用面接に向けて	2

※1 コマ 45分

また、仙台リハビリテーション専門学校として、以下のイベントにブース出店し、特別支援学校の生徒らに社会活動を体験してもらう機会を設ける取り組みも実施した。

具体的には、桜まつりのブースでは本事業に関するパネル展示やチラシの配布を行ったり、パンフェスでは特別支援学校の生徒による教育活動成果物である加工食品や陶芸作品、仙台リハビリテーション専門学校との共同制作グッズなどの展示・販売を行ったりした。

図表 1-2 イベント一覧

No	月日	イベント名称	主催	日数
1	4月9・10日	桜まつり	東北放送	2日間
2	10月1・2日	ぐりりとパンのフェス	仙台放送	2日間

図表 1-3 桜まつりのブースの様子



図表 1-4 パンのフェスでの展示・販売



1.1.2. 教職員対象の講座

特別支援学校の教職員を対象とする講座も本事業の取り組みの一環と位置付けている。講座の実施を通して、特別支援学校と専門学校の教職員同士の相互理解の促進や連携の強化を図ることもねらいである。今年度の実施実績を以下に記す。

日時：12月23日（金）14：00～15：00

場所：福島県立石川支援学校 体育館

参加：教職員 15名

内容：肩こり・腰痛予防体操

1.2. 実施方法

本節では、特別支援学校ごとに実証講座の実施内容・結果について報告する。

実証講座はすべて対面による集合教育の形態とし。講師は仙台リハビリテーション専門学校の教員が、特別支援学校の教員と連携して担当した。1 コマの時間数は 45 分で、実証講座は 1 コマもしくは 2 コマ連続で実施した。

実証講座に対する検証のための基礎データの収集を目的として、実証講座の実施後、生徒を対象にアンケートを行い、講座の内容に対する意見や理解の自己評価などの回答を求めた。アンケートの設問構成は以下の通りである。

図表 1-5 アンケートの設問構成

設問 1. 今日の授業内容はこれからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか？

- ①役にたつと思う
- ②少し役に立つと思う
- ③あまり役に立たないと思う
- ④役に立たないと思う
- ⑤どちらともいえない

設問 2. 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか？

- ①学びたいと思う
- ②少し学びたいと思う
- ③あまり学びたいと思わない
- ④学びたいと思わない
- ⑤どちらともいえない

設問 3. 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路について、もっとも当てはまるものはどれですか？

- ①よく考えることがある
- ②たまに考えることがある
- ③考えることはあまりない
- ④考えることはない
- ⑤どちらともいえない

設問 4. 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路が具体的にイメージできていますか？

- ①できている

- ②少しはできているが悩んでいる
- ③あまりできていない
- ④考えたことがない
- ⑤どちらともいえない

設問5. 授業の内容は理解できましたか？

- ①理解できた
- ②だいたい理解できた
- ③あまり理解できなかった
- ④理解できなかった
- ⑤どちらともいえない

設問6. 授業の内容など、感想をお聞かせください。(自由記載)

1.3. 実施結果

1.3.1. 小牛田高等学園

1.3.1.1. 実証講座「ビジネスマナーの基本」

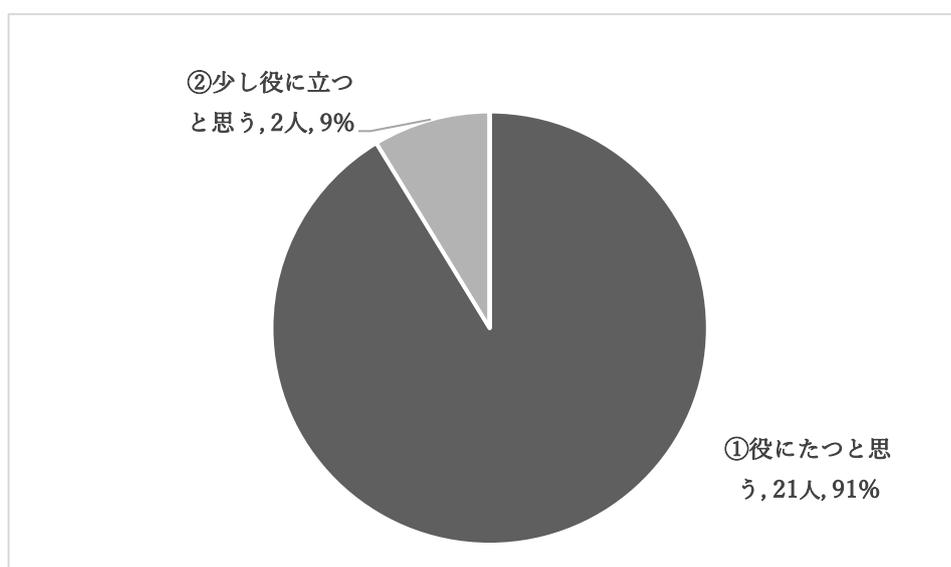
(1) 実施の概要

- 日時 2022年5月31日（火）13：10～14：50（2コマ・90分）
- 対象 1年生23名（普通科）
- 内容
講義と演習による基礎的なビジネスマナーの学習。
教材は、昨年度の事業で制作した教材「ビジネスマナー基礎」の一部を使用。

(2) アンケート結果

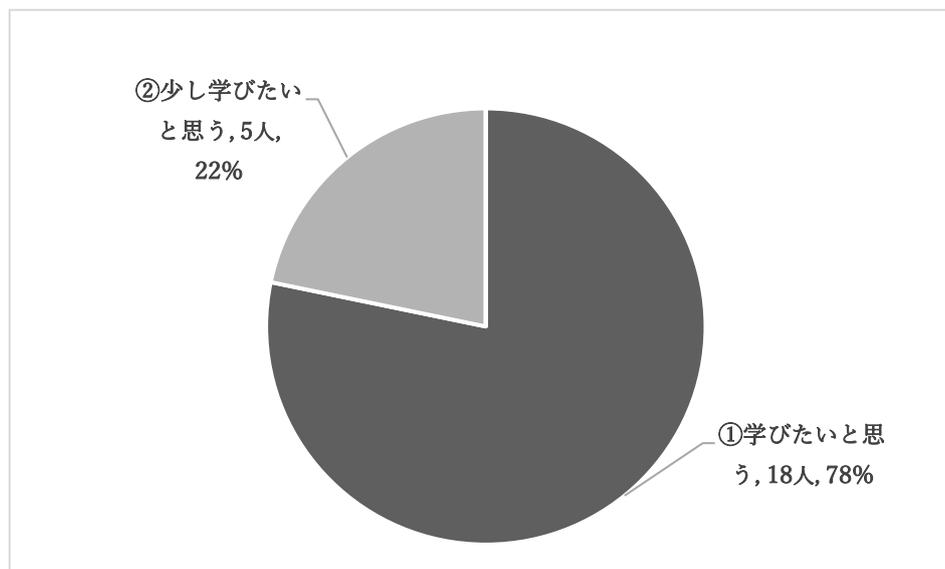
アンケートの集計結果を以下に掲載する。有効回答数は23。

図表 1-6 今日の授業内容はこれからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか？



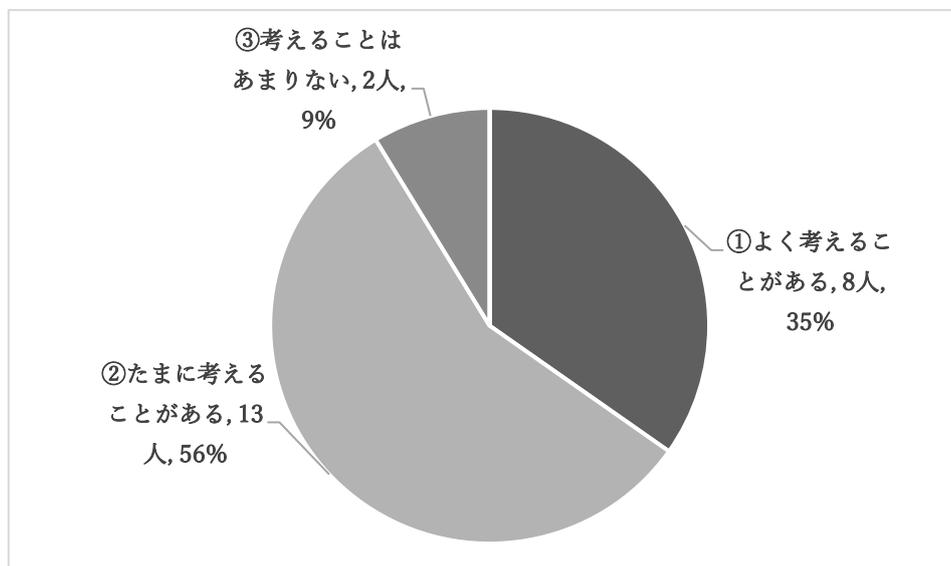
- 「役に立つと思う」という回答が21名で最も多い。
- 「あまり役に立たない」「役に立たない」という回答はなかった。

図表 1-7 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか？



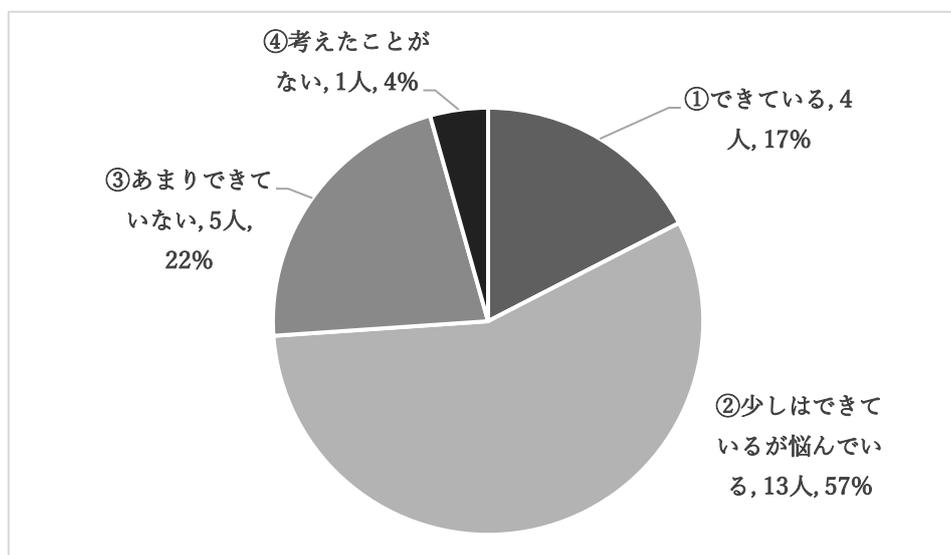
- 「学びたい」18名、「少し学びたい」5名で、「学びたい」という意見で占められた。

図表 1-8 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路について、もっとも当てはまるものはどれですか？



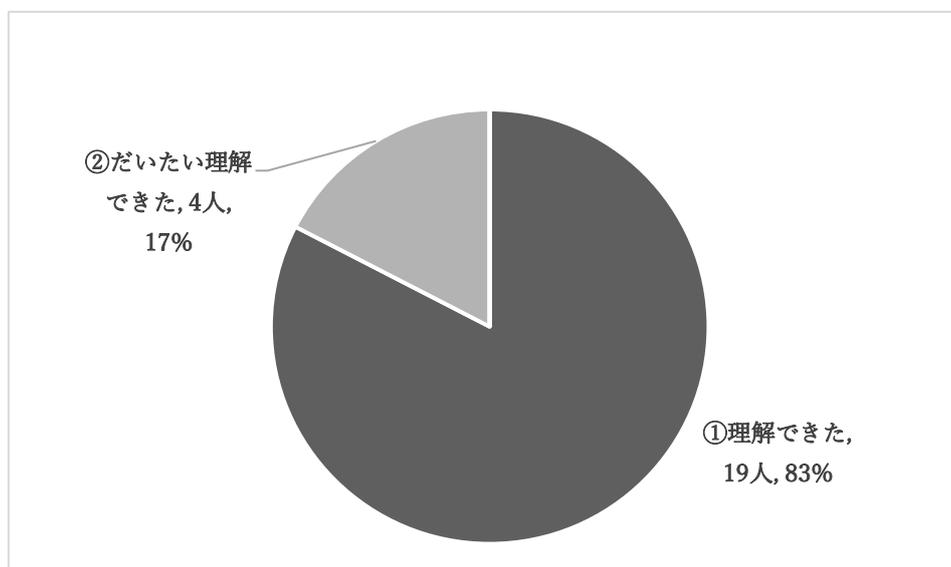
- 「たまに考えることがある」が13名で最も多い。「よく考えることがある」という回答も8名（35%）と少なくない。

図表 1-9 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路が具体的にイメージできていますか？



- 「少しはできているが悩んでいる」が13名で過半数を占めている。
- 一方で、「できている」4名（17%）、「あまりできていない」5名（22%）となっており、生徒によりばらつきが認められる。

図表 1-10 授業の内容は理解できましたか？



- 「理解できた」が19名（83%）、「だいたい理解できた」が4名（17%）となっている。
- 「(あまり)理解できなかった」という回答はなかった。

図表 1-11 授業の内容など、感想をお聞かせください

※原文ママ

- ✓ しょうらいに、ついて学べてよかったです。
- ✓ 上司の人を呼ぶ時に〇〇さんと呼ぶなどを知ることができました。卒業してからも使うようにしたいと思います。
- ✓ れいぎやあいさつのしかたをまなべていいべんきょうになりました。
- ✓ 分かりやすく教えてくれたので、勉強になりました。
- ✓ かいぜん点があったのでこれいこうの生活で直そうと思いました。
- ✓ 今日のビジネスマナーで色々なことを知ることができたのでよかったです。卒業後でも役立てるようにがんばります。
- ✓ 今回のビジネスマナーを学んで、就職した後の自分に役たつ内容だったので良かったです。
- ✓ 服装や言葉使い等が、社会に出るにあたって、とても大切だということが良く分かりました。
- ✓ あまり意識はしていなかったのですが、今回の授業で言葉づかいや礼儀などを学んで、これからもしていきたいと思いました。学べて良かったと思いました。
- ✓ 色々なビジネスのマナーについての話を聞いて、自分はいしつぶつのわたし方などのことをよくしれたので良かったです。これを今後の生活にもいかしたいと思います。
- ✓ みだしなみや出社時間のこまかい事を聞いてとても嬉しかったです。
- ✓ あまり知らない事も学べたので、もしまたきかいがあれば聞きたい。
- ✓ 改めて知れた。ビジネスマナーなどを知れて良かったです。
- ✓ ビジネスマナーの講座を受けてとてもタメになる指導でした。社会性のマナーやルール、相手の立場の立ち位置など詳しく教えてくれて自分にとっても重要なことだなと思いました。今後、役立てられるようにしていきたいです。
- ✓ マナーには、色んな使い分けがあることを知りました。グループ実習で、生かせるか分からないですが、生かせたら、大きな声で、できたらいいなあと思います。
- ✓ これから社会に巣立っていく中でビジネスマナーを知って過ごせて良かったです。グループ実習に生かしていけたらと思いました。今日は僕たちのために仙台市からわざわざおこし致だきありがとうございますございました。
- ✓ 手のこんだプレゼンテーションで、楽しく授業が出来ました。ビジネスマナーという事で、身だしなみや会話の決まり（マナー）をすごく分かりやすく、教えていただきました。今後の、実習に活かせると思います。ありがとうございますございました。
- ✓ 実習先で今日学んだことを生かしたいと思います。
- ✓ 今日は、楽しく出来たり、実際に体験をしたりし、授業の中でも就職にも詰り付けたら良いと思いました。

- ✓ 服装や身だしなみ等は、日常的に気を付けてはいるつもりだったが、今日の実証講座を受講してみて私はまだまだだなと感じる所も多くあったのでとても今後に役立つことだなと感じました。
- ✓ 今日の授業の内容を生かし、実習で活用したいと思います。
- ✓ これからの自分の将来にかならず役だてる日がくるのでいまのうちに学べてよかったと思います。今日はありがとうございました。
- ✓ 今回の授業で、これから先の人生を変える事ができるのであれば、とてもためになった授業だと思いました。

1.3.1.2. 実証講座「仕事をするとき心がけること」

(1) 実施の概要

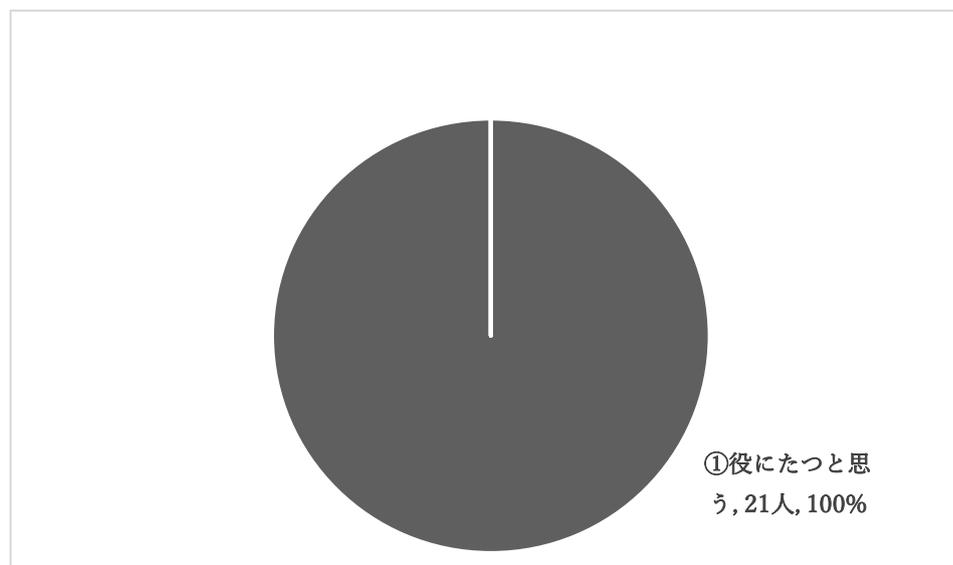
- 日時 2022年7月12日(火) 13:10~14:50 (2コマ・90分)
- 対象 3年生22名(普通科)
- 内容

講義と演習による「仕事をするときに心がけること(ビジネスマナー)」の学習。
教材は、昨年度の事業で制作した教材「ビジネスマナー基礎」の一部を使用。

(2) アンケート結果

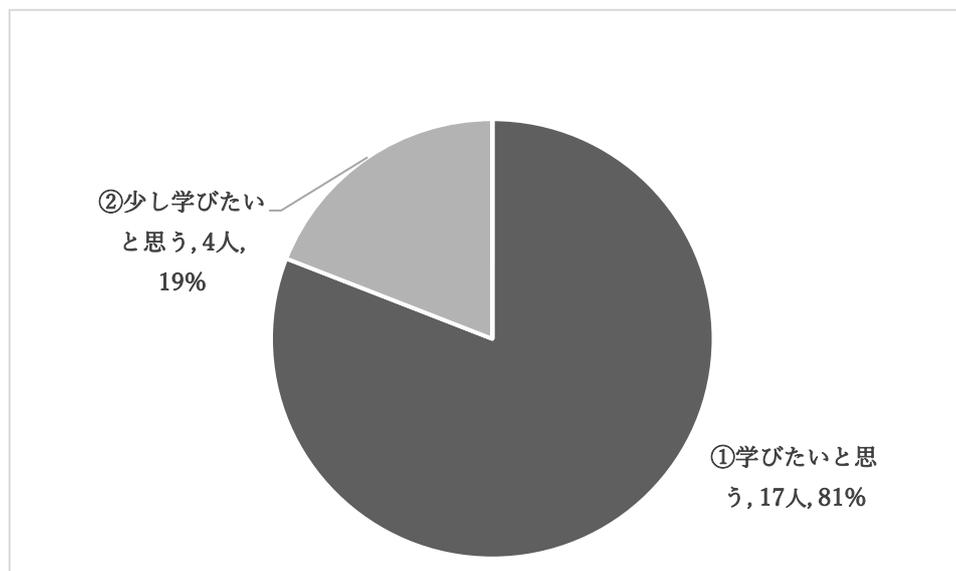
アンケートの集計結果を以下に掲載する。有効回答数は21。

図表 1-12 今日の授業内容はこれからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか？



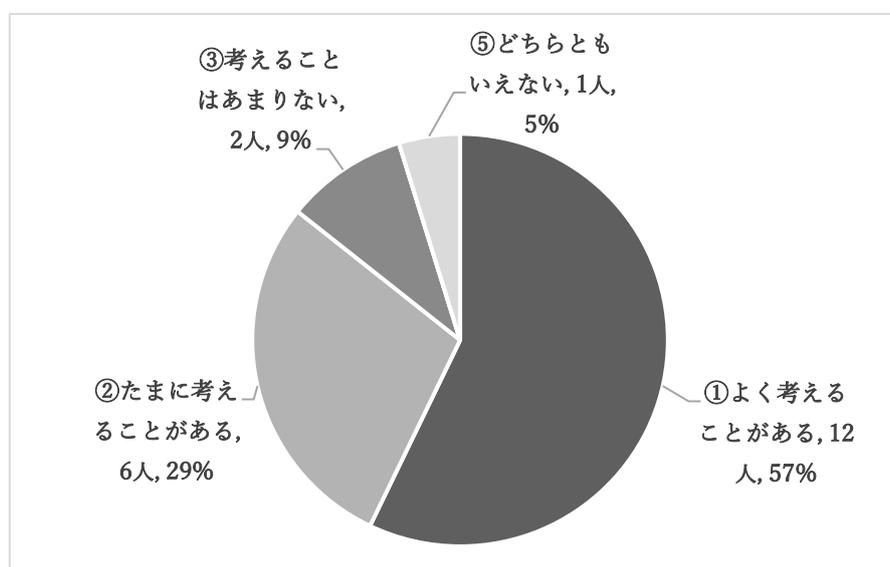
- 生徒全員が「役立つと思う」と回答している。

図表 1-13 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか？



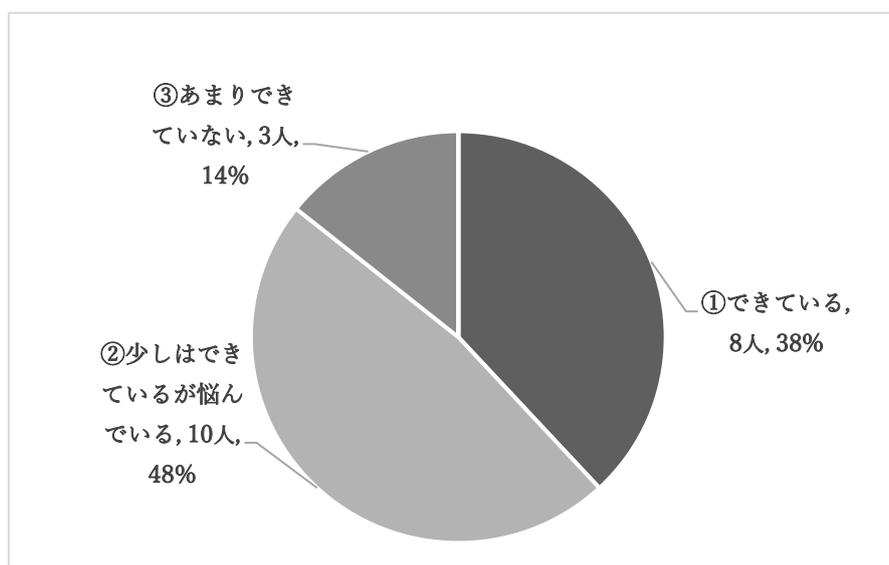
- 「学びたいと思う」が最も多く17名、「少し学びたいと思う」が4名で、「あまり学びたいと思わない」「学びたいとは思わない」という回答はなかった。

図表 1-14 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路について、もっとも当てはまるものはどれですか？



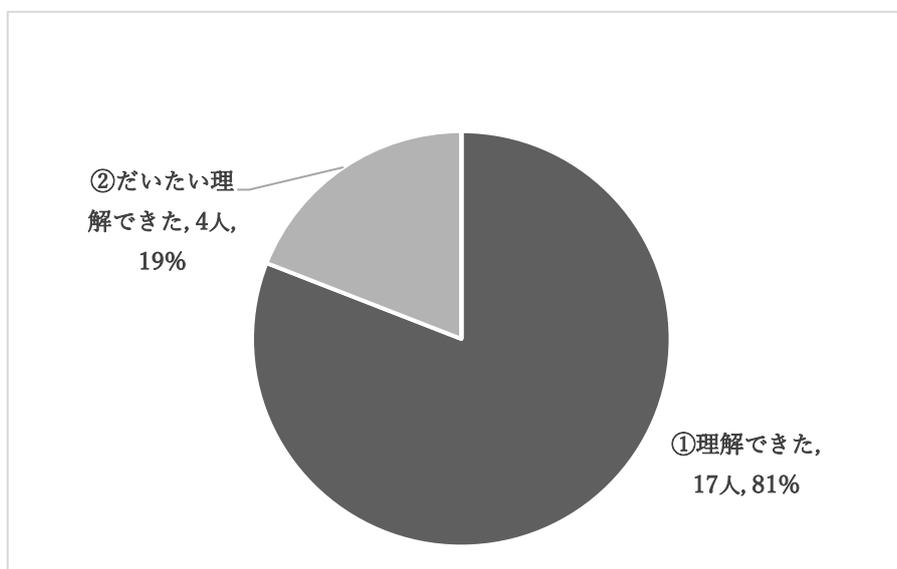
- 最も多い回答は「よく考えることがある」の12名（57%）で過半数を占め、「たまに考えることがある」も6名（29%）となっている。
- 「考えることはあまりない」は2名と少ない。

図表 1-15 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路が具体的にイメージできていますか？



- 「進路の具体的なイメージができている」という生徒は8名。
- 「少しはできているが悩んでいる」という回答が10名で最も多く、約半数を占める。
- 「あまりできていない」は3名と少ない。

図表 1-16 授業の内容は理解できましたか？



- 「理解できた」が17名（81%）、「だいたい理解できた」が4名（19%）で、「（あまり）理解できなかった」とする意見は0件であった。

図表 1-17 授業の内容など、感想をお聞かせください

※原文ママ

- ✓ これからの進路で大切な事を色々と教わりました。本当はもっとお話しを聞きたかったのですが、お時間がなかったので、機会がありましたら、また講座を受けたいです。
- ✓ 仕事上の礼儀やマナーなど、働く上で必要な事を、この授業で学ぶことが出来ました。また、QRコードを使ったアンケート方法はとても違いが分かりやすかったです。仕事をする時に役立たせたいです。
- ✓ ビジネスマナー集やアイパッドなどを通して、仕事の際に心がけるべき言動、報告、連絡、相談などのマナーをしっかりと学ぶ事ができました。ありがとうございました。
- ✓ 私がとくにいんしょうにのこっているのは名しのわたし方です。名しのわたし方は学校でも少しやった事がありますが名し入れを持ってのわたし方などがまだの事ができたのでよかったなと思いました。
- ✓ 今回のビジネスマナーを受講して、会社で大切なことや重要なことを改めて知ることが出来ました。学んだことを就職先でも生かしていきたいと思います。
- ✓ 言葉づかいやめいしの渡し方などを学びこれから卒業をして就職につなげていきたいです。
- ✓ 卒業後の職場の状況だけではなくきちんと社会のルールも学ばないといけないと思いました。
- ✓ 電話の取り方の対応をあまり、知らなかったので、とても勉強になりました。この授業で学んだことこんごの進路にいかしていきたいです。
- ✓ 学校生活の中で働く、ビジネスマナーのお話を聞ける期会があってよかったです。今後に活かして行たいと思います。
- ✓ 学校生活や社会人になってからも、とても大切な所なので、意識して取り組んでいきたいです。
- ✓ 将来働く時に、電話の受け答えもするので、焦らずに受け答えできるようにしたいです。今日の講座を受けてみて、将来に役立てられるよう、今後も頑張りたいです。
- ✓ 今回の授業で、就職したら必要な力などがよく分かりました。
- ✓ 名しや伝話の話をわかりやすく解説してくれた。
- ✓ とても話すのが分かりやすくてしょうらい大切なことを勉強になったので良かったです。
- ✓ 今回の授業で仕事のスケジュールを立てる等色々なことを知ることができました。名刺交換は久しぶりにしたのですが、思い出すことができて良かったです。電話のコールは3回と思っていたのですが、2回でもいいんだなと思いました。

- ✓ とても楽しく学べました。めいしをわたすきかいなどあまりなくちゃんとしたわたし方をかんぺきに分かっていただけでもなくとても学べた。卒業したあとはたらく様になってからいかしていきたいと思いました。
- ✓ 会社に働いていくことでビジネスマナーをしっかりと覚えることが出来ました。自分の中では丁寧な言葉が一番意識していきたいと思います。本日は忙しい中ありがとうございました。
- ✓ 会社ではその状況に合った発言、行動などを考えることができ、特にスケジュールの立て方の工夫やアドバイスの大切さが非常を改めて感じました。今回学んだことを普段の生活に活かしていきたいです。
- ✓ 二時間という長い時間でしたがその長さを感じないほど、おもしろくそしてとても参考になりました。特に、電話での対応の仕方などは、今日の授業で知ったので、すごく勉強になりました。お急がしい中来ていただきありがとうございました。
- ✓ 今日、仕事をすときの心がまえを、わかりやすくをしえていただいて、とても分かりやすかったです。
- ✓ 仕事をするにあたって大切なビジネスマナーの基本的な学習をこの機会に学ぶ事ができ、大変勉強になりました。今日教えていただいた事を今後の実習や卒業後に生かしていければと思います。

1.3.1.3. 実証講座「採用面接に向けて」

(1) 実施の概要

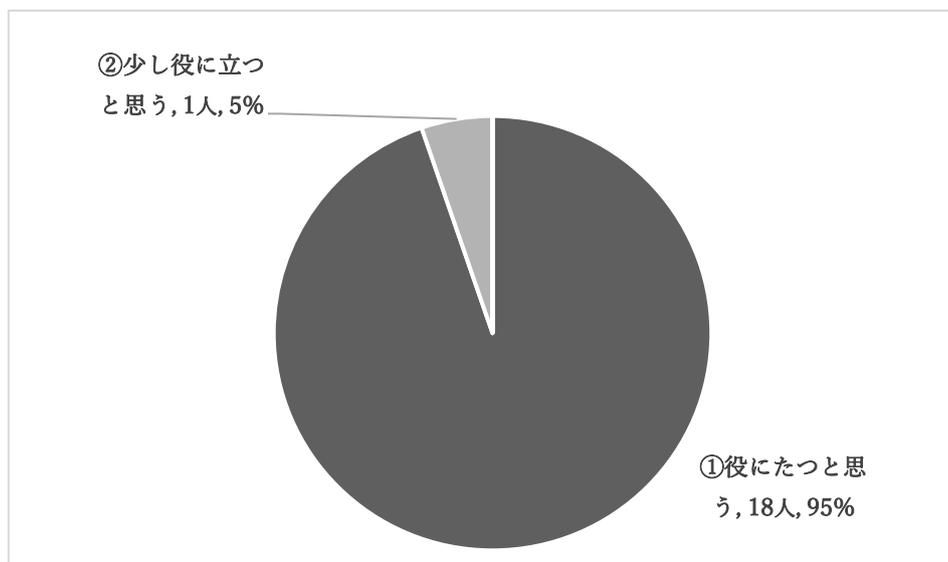
- 日時 2022年11月15日(火) 13:10~14:50 (2コマ・90分)
- 対象 3年生19名(普通科)
- 内容

講義と演習による就職活動の採用面接に際して必要な知識、マナーや注意すべきことなどについての学習。

(2) アンケート結果

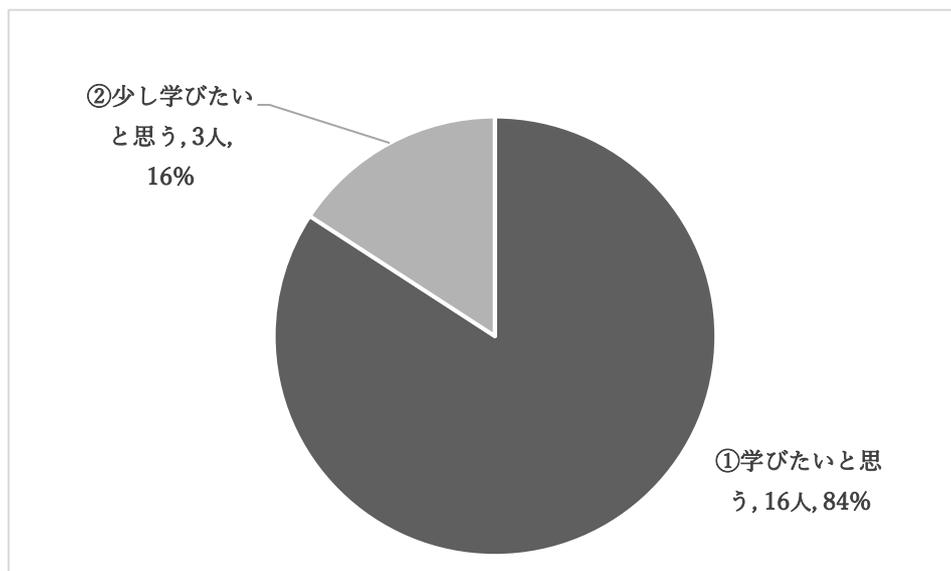
アンケートの集計結果を以下に掲載する。有効回答数は19。

図表 1-18 今日の授業内容はこれからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか？



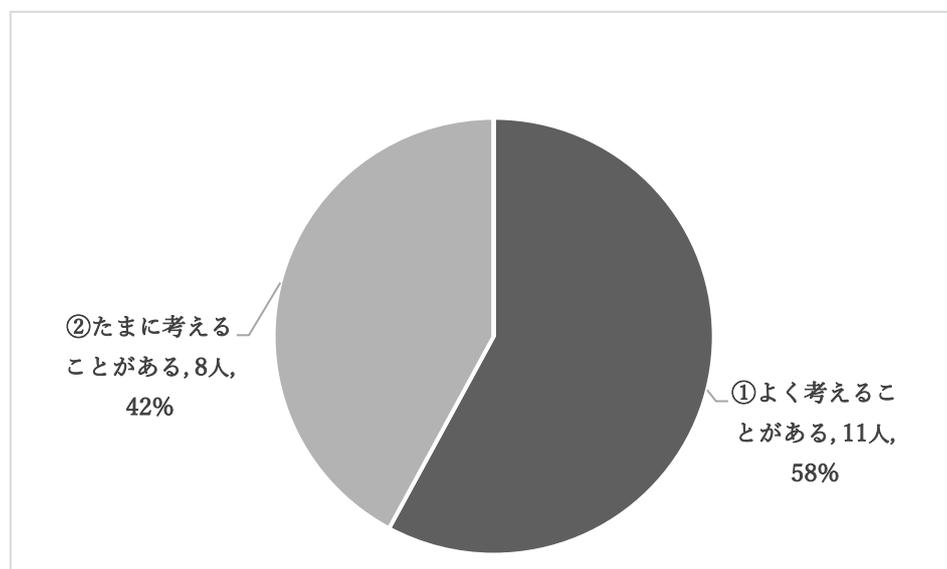
- ほとんどの生徒が「役に立つと思う」と回答している。
- 「(あまり)役に立たないと思う」とする回答はなかった。

図表 1-19 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか？



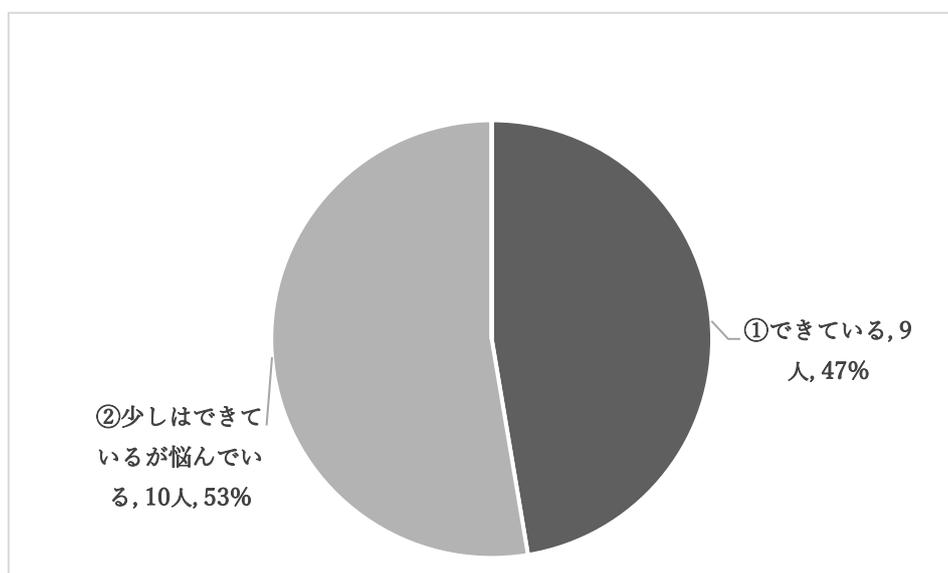
- 「学びたいと思う」が16名(84%)で最多となっている。
- 「少し学びたい」が3名(16%)で、「学びたいとは思わない」という回答は寄せられなかった。

図表 1-20 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路について、もっとも当てはまるものはどれですか？



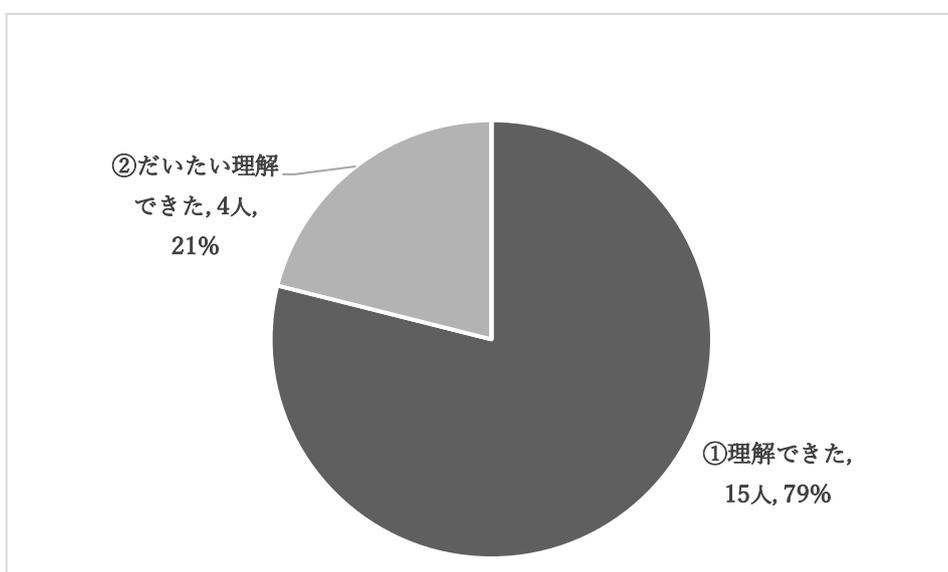
- 「よく考えることがある」が11名(58%)、「たまに考えることがある」が8名(42%)で、回答は大きくふたつに分かれている。

図表 1-21 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路が具体的にイメージできていますか？



- 最も多い回答は「少しはできているが悩んでいる」の10名（53%）だが、「できている」の9名（47%）と僅差であり、回答は大きくふたつに分かれている。

図表 1-22 授業の内容は理解できましたか？



- 「理解できた」が15名（79%）、「だいたい理解できた」が4名（21%）である。

図表 1-23 授業の内容など、感想をお聞かせください

※原文ママ

- ✓ 卒業後の進路はますます心配でしたありませんでしたが、今日の構習を忘れず、面接ではどんな質問でも答えられるようにもっと勉強したいと思います。
- ✓ 面接試験の際に必要な事や、服装、質問への対応などをとても分かりやすく教えて下さりました。今後しっかりと活かしていきたいと思います。
- ✓ これからの就職活動に向けて今日の授業で具体的にどのような事をするのかをイメージする事ができました。今日の授業で学んだ履歴書の書き方や面設でのふるまい方を今後、生かしていきたいと思います。
- ✓ 今回の講義では今まではやってこなかった面接についての話で面接の正しいやり方や、気をつけた方がいい事など就職についてくわしく知ることができました。
- ✓ 長所や特技などを前半は書きましたがしっかりと友達などに自分のいい所も教えてもらいながらできたと思います。また、後半では、面接をかるくやりましたが、ポイントポイントを大切にしながら行う事ができたと思います。これからはしっかりと面接練習も頑張りたいです。
- ✓ 面接の基本的なことから大切だと思ったところまでくわしく知ることができました。
- ✓ 実際にあった事や大切な事などなかなか聞く事がないことも学ぶことができたのでよかったです。それから私たちは面接がちかずいているので気をつけないとけない点など学ぶ事ができたので上手くうけこたえができるようにしていきたいと思います。
- ✓ 今日の講座を受けて、面接や履歴書の大切さを改めて知ることが出来ました。なぜ、この会社に志望したのか、自分の得意なことや苦手なこと等を知ること、仕事に上手く活かせることを知りました。
- ✓ 本日はビジネスマナーを教えていただきありがとうございました。面接での注意点や履歴書の書き方など詳しく知ることができました。履歴書や面接試験に活かしたいと思います。
- ✓ 今回も就職で大事になってくることをいくつも学びました。男性は手をグーにして面接に望むということを知り、おどろきました。今回の講座の内容を参考にし、就職活動に向けた学習を頑張ろうと思います。ありがとうございました。
- ✓ めんせつのやり方や履歴書の書き方などいろんなことを学びこれから頑張っていきたいです。
- ✓ 今日は、履歴書書き方や面接のマナーを聞きました。マナーやコツを沢山聞くことができてよかったです。これから生かして頑張りたいです。
- ✓ とてもわかりやすかったので、この講座を進路に生かせるよう、これから頑張りたいと思います。

- ✓ 履歴書の書き方や面接時の態度の説明がとても分かりやすく勉強になりました。
- ✓ 履歴書では具体的に長所を話すことが出来たので良かったです。面接しっかり相手に伝えることが出来ました。これから始まるので練習をたくさんしていきたいと思います。
- ✓ 面接や履歴書は入社する第一歩ということが分かりました。面接などの時のきちんとした服装などを日頃から意識しなくてはならないと思いました。今回、学んだことを就職試験・仕事・生活に活かしていきたいです。
- ✓ 面接の時にされる質問の内容をあらかじめ予想して、練習したほうが良いと思いました。勿論履歴書も大切ですが、文字だけでつたえられない部分もあるので、今後の面接の授業に全力で取り組んでいきたいと思いました。
- ✓ 面接のときにどうすればいいのかをわかりやすく説明していてうれしかったです。
- ✓ 今回の講座を受け、履歴書の書き方、面接時の注意点や答え方などがよく分かりました。これを参考に頭に身につけたいと思いました。

1.3.2. 岩沼高等学園

1.3.2.1. 実証講座「ビジネスマナーの基本」

(1) 実施の概要

- 日時 2002年7月14日(木) 9:00~10:40 (2コマ・90分)
- 対象 1年生 32名 (産業技術科)
- 内容

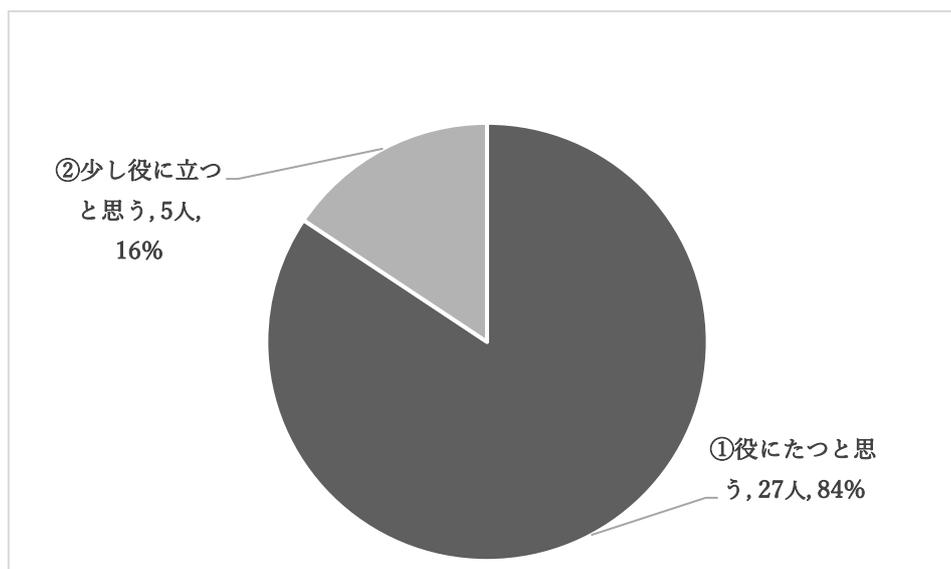
講義と演習による基礎的なビジネスマナーの学習。

教材は、昨年度の事業で制作した教材「ビジネスマナー基礎」の一部を使用。内容をアレンジして追加(学校と職場の違い)。

(2) アンケート結果

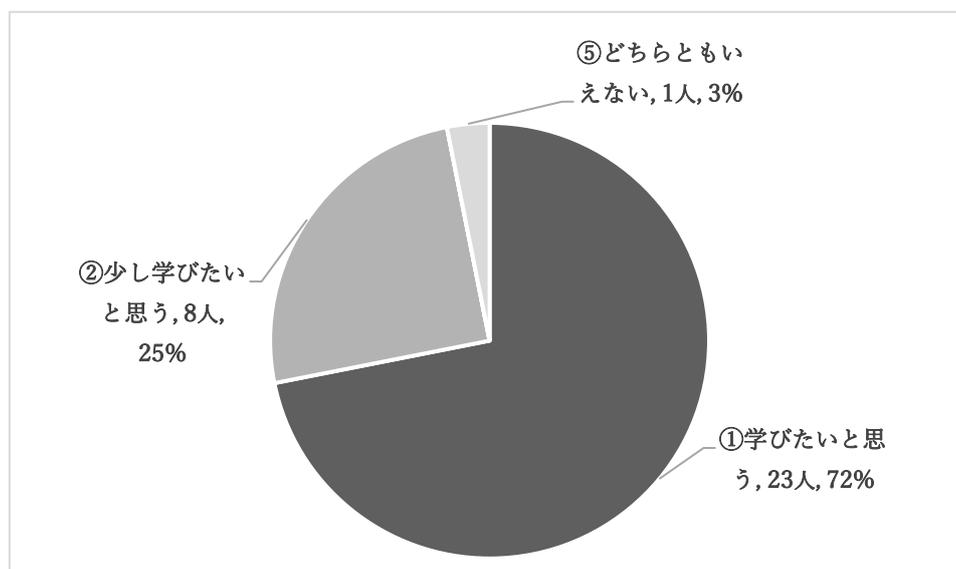
アンケートの集計結果を以下に掲載する。有効回答数は32。

図表 1-24 今日の授業内容はこれからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか？



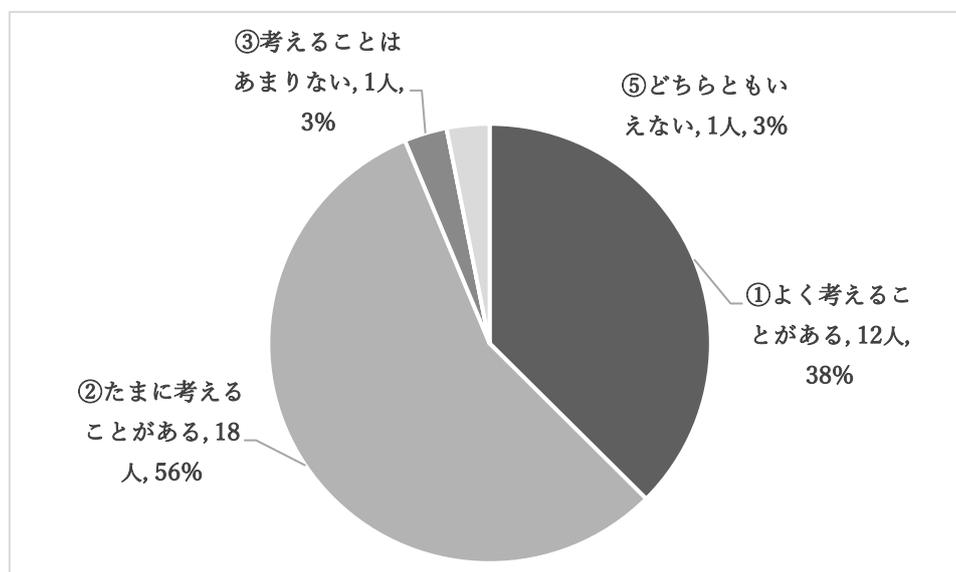
- 「役に立つと思う」が27名(84%)、「少し役立つと思う」が5名(16%)となっている。

図表 1-25 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか？



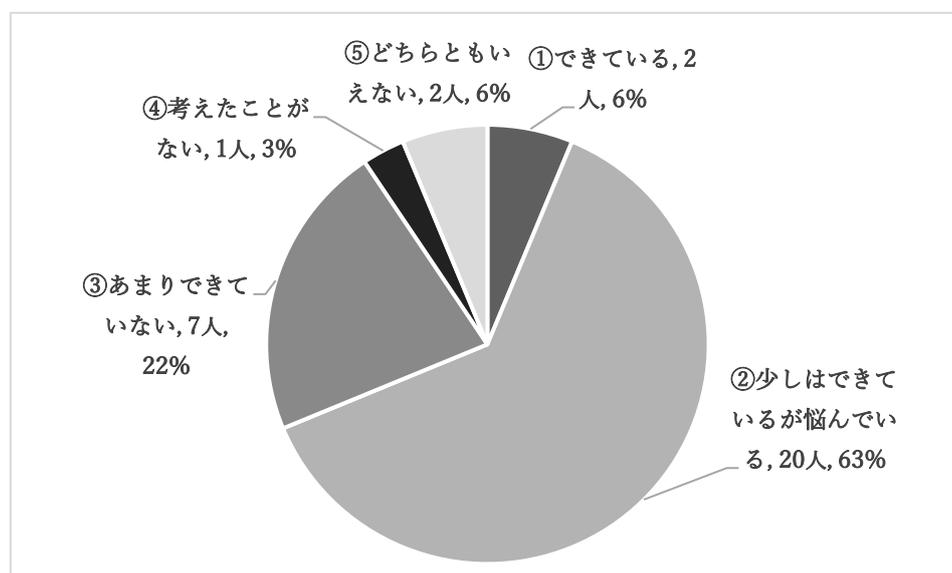
- 最も多い回答は「学びたいと思う」の23名（72%）で、これに次ぐのが「少し学びたいと思う」が8名（25%）となっている。

図表 1-26 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路について、もっとも当てはまるものはどれですか？



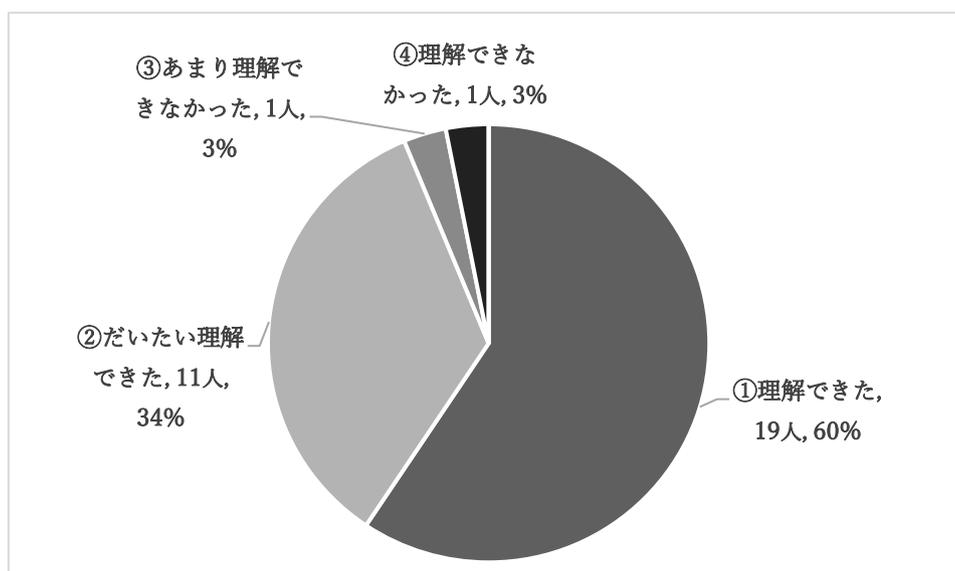
- 「たまに考えることがある」が18名（56%）と過半数を占めるが、「よく考えることがある」という回答も12名（38%）と多い。
- 「考えることはあまりない」「どちらともいえない」は各1名と少ない。

図表 1-27 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路が具体的にイメージできていますか？



- 「少しはできているが悩んでいる」が20名（63%）で最も多く、「できている」は2名（6%）と少ない。
- 「あまりできていない」7名（22%）、「考えたことがない」1名（3%）と回答は、分かれている。

図表 1-28 授業の内容は理解できましたか？



- 「理解できた」が19名（60%）、「だいたい理解できた」が11名（34%）で、生徒の9割以上の内容を理解できたと答えている。

- その一方で、数は少ないものの「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という意見も寄せられている。

図表 1-29 授業の内容など、感想をお聞かせください

※原文ママ

- ✓ 今日のじゅぎょうのないようこれから学校生活につなげたいです。
- ✓ いろんな社会のマナーを知れて、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ✓ 色々なことがまなびました。あいさつが大事なと思いました。
- ✓ タメになった。
- ✓ 今日はマナーについて学んで職業に関することをたくさん知ることができたので将来やこれからの生活にいかしていきたいです。
- ✓ 今回将来に大切なことをたくさん学びました。今後の学校生活やしょう来に向け、がんばっていきたいとおもいます。勉強となりました。
- ✓ 今日の授業で職場のマナーなどが知れてよかったです。
- ✓ 今日は、ビジネスマナーについて学びました。ふだんの学校生活や家の生活でも使ってみたいと思いました。
- ✓ 働くうえでマナーなどことばづかいやれいぎなどできちんとしていきたいとおもいました。
- ✓ 分かりやすかった。将来のためにもっとべんきょうしたいと思いました。
- ✓ 理解がをいつかない。でした。
- ✓ 集中できなくてすみません
- ✓ アドバイスの時やおねがいなどは A~D までだとわかりました。これからこのことをいかして次の職場実習でしぜんとできるようにしたいと思います。
- ✓ 将来やくだつことなのでしっかりと聞いて、学ぶことができました。
- ✓ 社会人になってから大切な事を勉強しないといけないという自分から目標が少しずつ考えるようになってきたので今回の授業を受けて良かったと思いました。これからも生かそうと思った。
- ✓ ビジネスマナーは、とても大事なことで、それが出来ないと変だと思われたり社会参加をする上での礼儀かと思います。自分が良いと勝手に思ってることが周りから見たらダメで良く思われたい所だと思います。しかしマナーを守ることによって良いと思われ相手に良い印象をあたえることで仕事がしやすくなると様々な良い点が出てくるのでマナーの大切さを知り多くのことを学べて良いお時間になりました。
- ✓ 将来の就職にむけて今回の授業で大切なところがあったので役に立ったと思います。

- ✓ 身だしみと始業時間と挨拶と言葉遣いと書類の渡し方などの基本的なルールをこんな感じなんだなと思いました。とても勉強になりました。
- ✓ 書類の渡し方について、ミスの指摘などを深く考えることができた。
- ✓ 授業で初めてしたことあってよかったと思う。
- ✓ 生きるために働くことが大切だと、今日のビジネスマナーで学びました。
- ✓ 上司と社員役が一番おもしろかったです。
- ✓ 身だしなみや礼儀についてスライドを見ていただいたわかりました。
- ✓ 働くマナーを学んでおれからに生かせるために出来るようにならないといけないと思いました。
- ✓ しょうらいにむけてがんばります。
- ✓ ビジネスマナーで必要なことが分かりました。
- ✓ ビジネスマナーについていろいろくれてよかったです。卒業したあときっちりつかえるようにしたいです。
- ✓ 社会でのみだしなみについてよくわかりました。これからもみだしなみやほうれんそうなどをもっとみにつけたいと思いました。
- ✓ 終わった後の達連相は、とても大事だと感じました。学校生活でもしっかりやって行きたいです。
- ✓ これからの学校生活や寄宿舍生活で生かしていきたいと思います。

1.3.3. 女川高等学園

1.3.3.1. 実証講座「理学療法士・作業療法士について」

(1) 実施の概要

- 日時 2022年9月26日(月) 9:50~12:10 (2コマ・90分)
- 対象 3年生5名(福祉コース)
- 内容

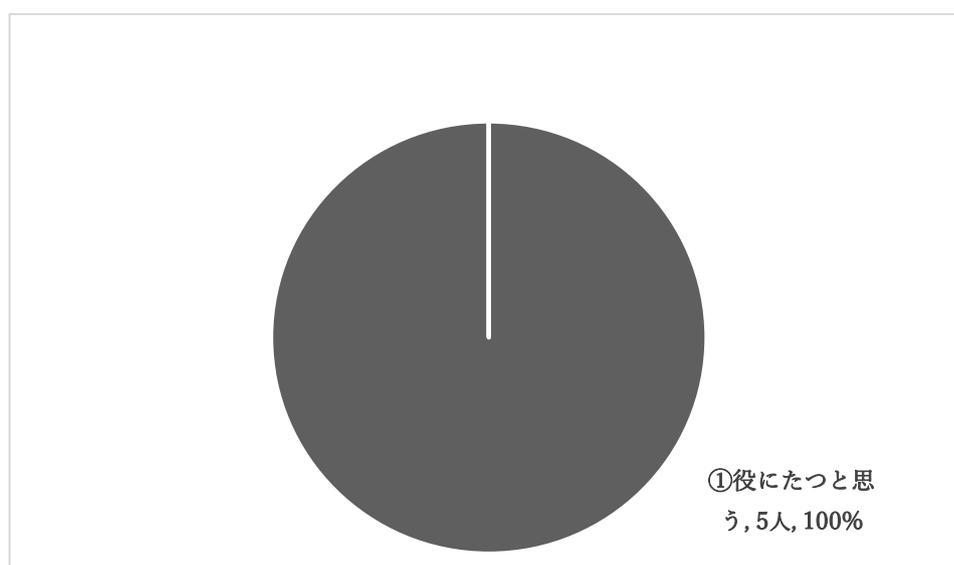
講義と実技による理学療法士の仕事内容、作業療法士の仕事内容の学習。

※福祉関係に就労する場合、理学療法士・作業療法士は現場で共に働く人々なので、それぞれの仕事の内容を知ること、協力して仕事に取り組む心がまえを育むことをねらいとする。

(2) アンケート結果

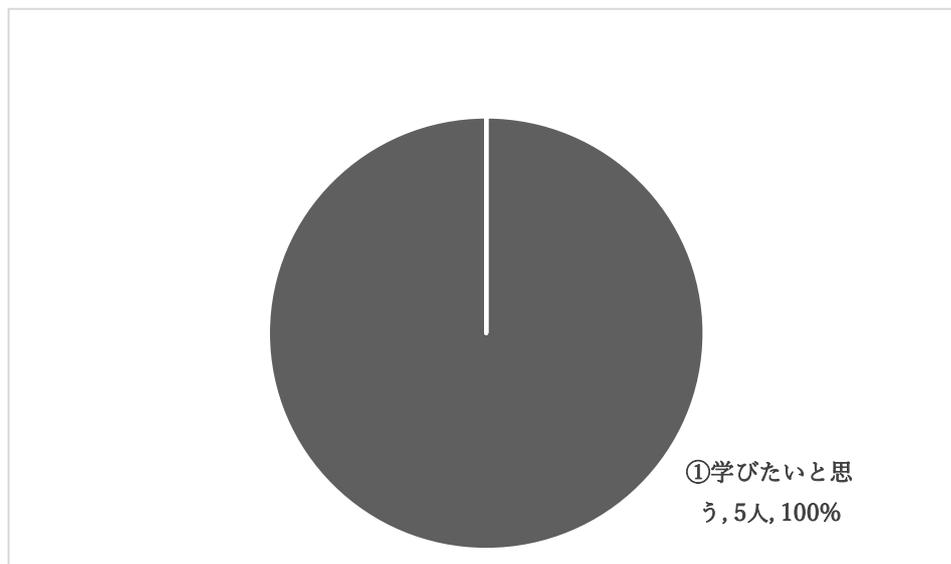
アンケートの集計結果を以下に掲載する。有効回答数は5。

図表 1-30 今日の授業内容はこれからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか？



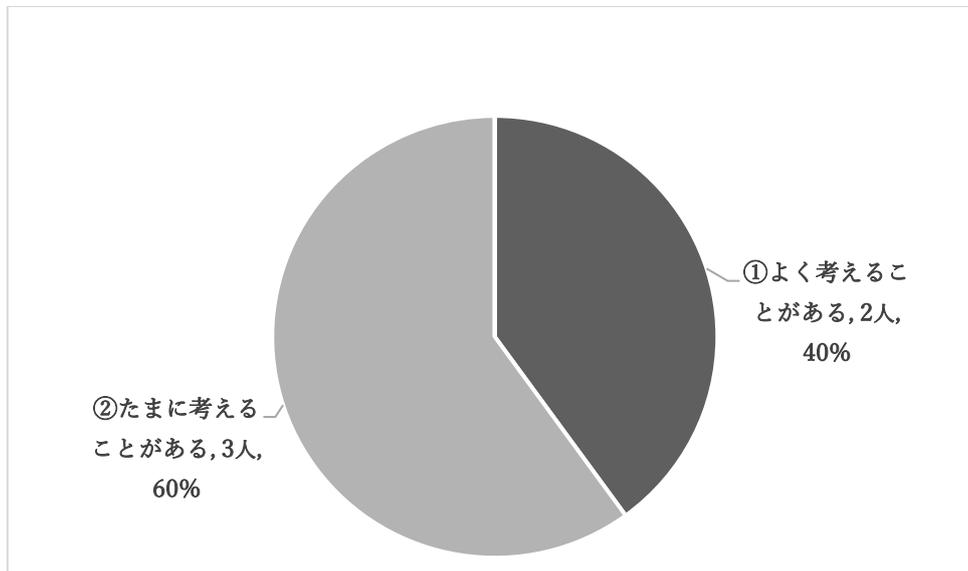
- 生徒全員が「役に立つと思う」と回答している。

図表 1-31 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか？



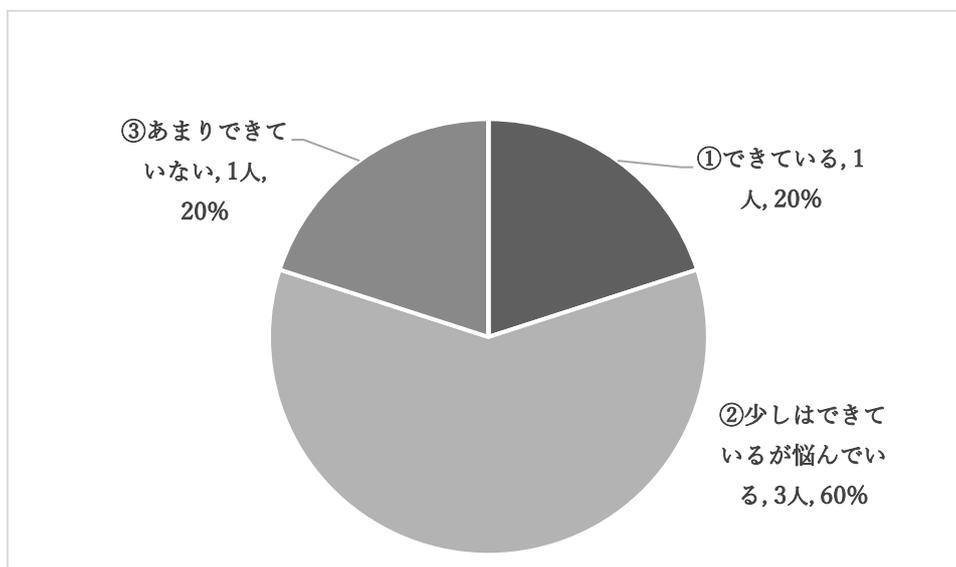
- 生徒全員が「学びたいと思う」と回答している。

図表 1-32 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路について、もっとも当てはまるものはどれですか？



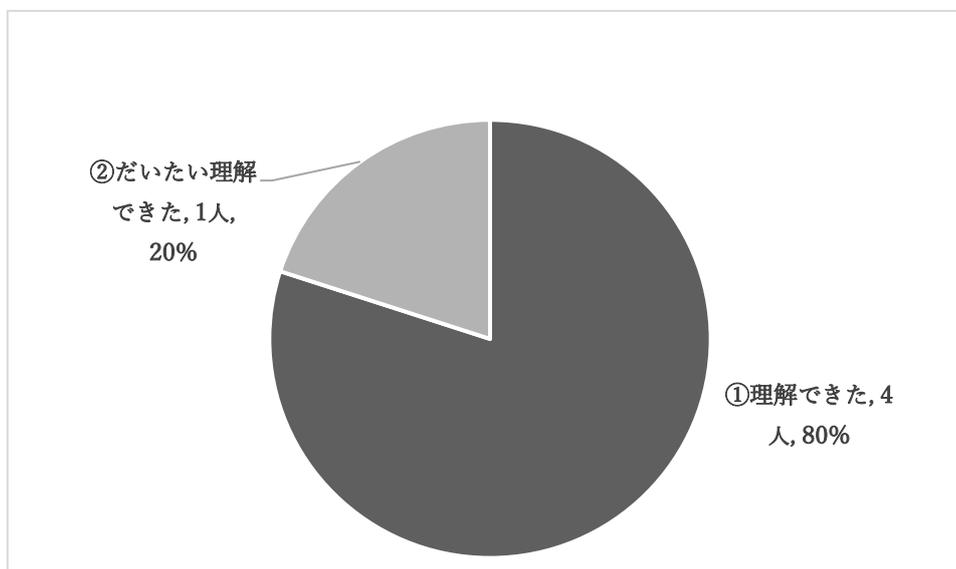
- 「たまに考えることがある」3名(60%)、「よく考えることがある」2名(40%)で、生徒全員が卒業後の進路について「考えることがある」と答えている。

図表 1-33 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路が具体的にイメージできていますか？



- 「少しはできているが悩んでいる」が最も多いが、「できている」「あまりできていない」と生徒の回答は分かれている。

図表 1-34 授業の内容は理解できましたか？



- 「理解できた」4名（80%）、「だいたい理解できた」1名（20%）という回答で占められている。

図表 1-35 授業の内容など、感想をお聞かせください

※原文ママ

- ✓ 作業療法士の方理学療法士の方々の仕事など、どうゆう効果があるのかを沢山しれてよかったです。10月の実習など活かしていきたいと思います。
- ✓ リハビリ体操は、年齢によってハードになったりしていて、これをやる利用者さんは、すごいと感じました。介助者になったら体験したことを生かしていきたいです。
- ✓ じっさいにやってみて、このような動きをするとどのようなこうかがあるのか、運動する時のメリットとデメリットとアフターケア等、色々な事が学べたので、とてもよかったです。今日学んだ事を今後に活かせるよう、がんばりたいと思います。
- ✓ 理学療法士や作業療法士のぐたいてきな仕事を知ることが出来たので良かったと思いました。体操がゆっくりでやりやすかったです。
- ✓ 作業療法士の方の講座では、集中力が高められたり理学療法士の方の講座では、腕や足の運動ができました。

1.3.3.2. 実証講座「理学療法士・作業療法士について」

(1) 実施の概要

- 日時 2022年9月26日(月) 13:10~15:30 (2コマ・90分)
- 対象 2年生5名(福祉コース)
- 内容

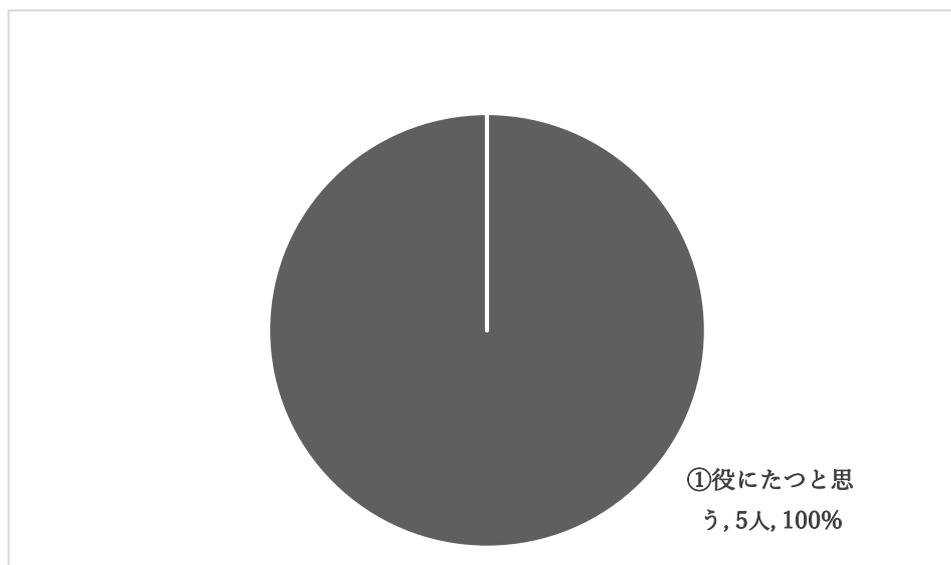
講義と実技による理学療法士の仕事内容、作業療法士の仕事内容の学習。

※福祉関係に就労する場合、理学療法士・作業療法士は現場で共に働く人々なので、それぞれの仕事の内容を知ること、協力して仕事に取り組む心がまえを育むことをねらいとする。

(2) アンケート結果

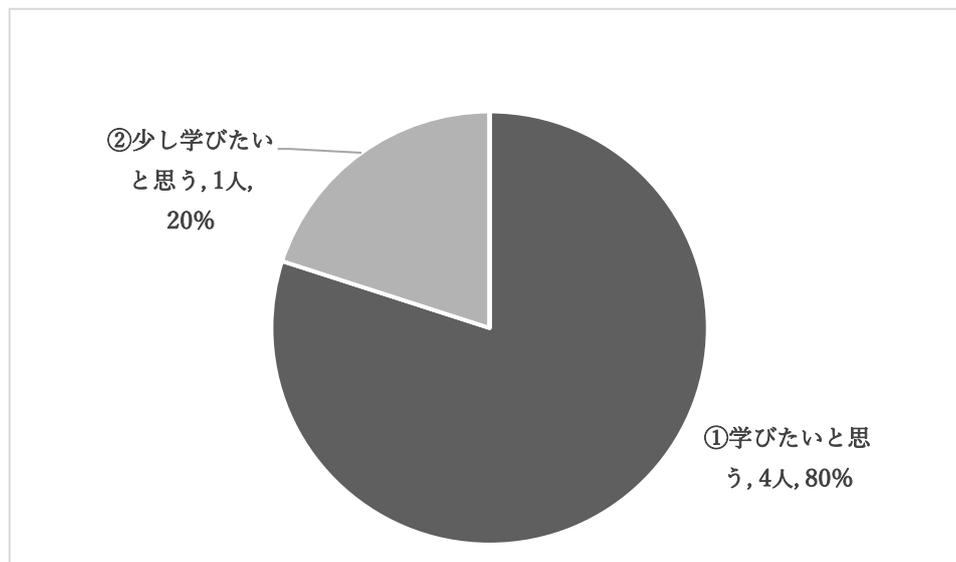
アンケートの集計結果を以下に掲載する。有効回答数は5。

図表 1-36 今日の授業内容はこれからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか？



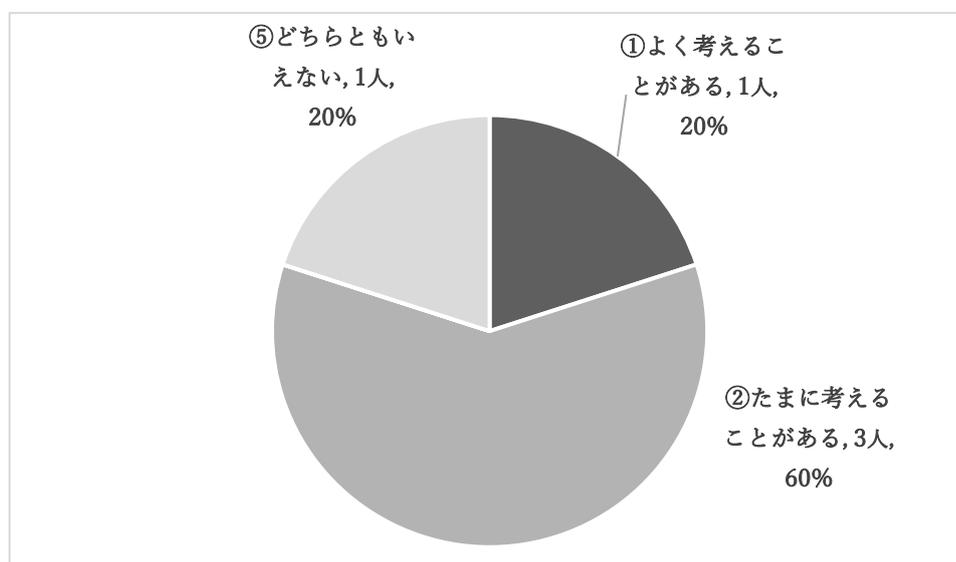
- 生徒全員が「役に立つと思う」と回答している。

図表 1-37 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか？



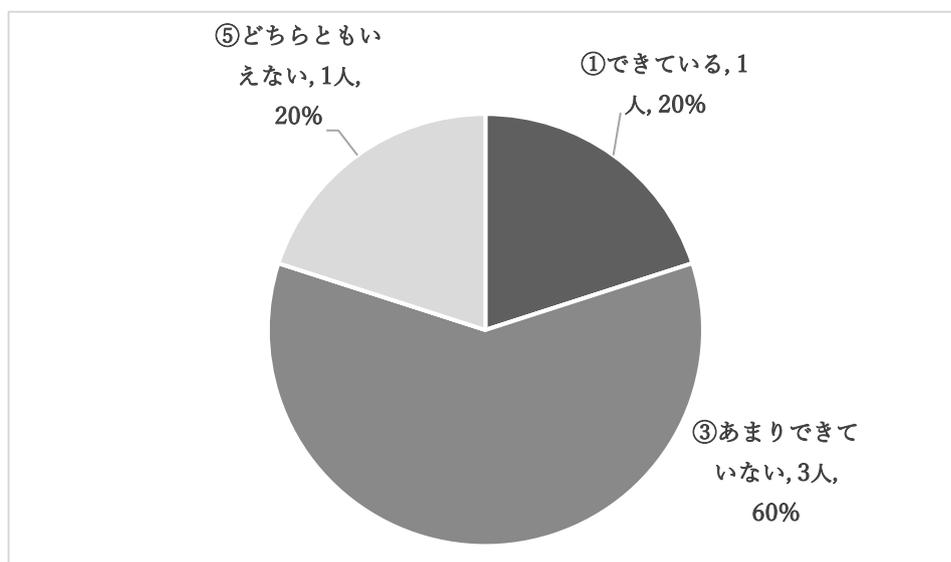
- 「学びたいと思う」4名（80%）、「少し学びたいと思う」1名（20%）で、「学びたい」という回答で占められている。

図表 1-38 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路について、もっとも当てはまるものはどれですか？



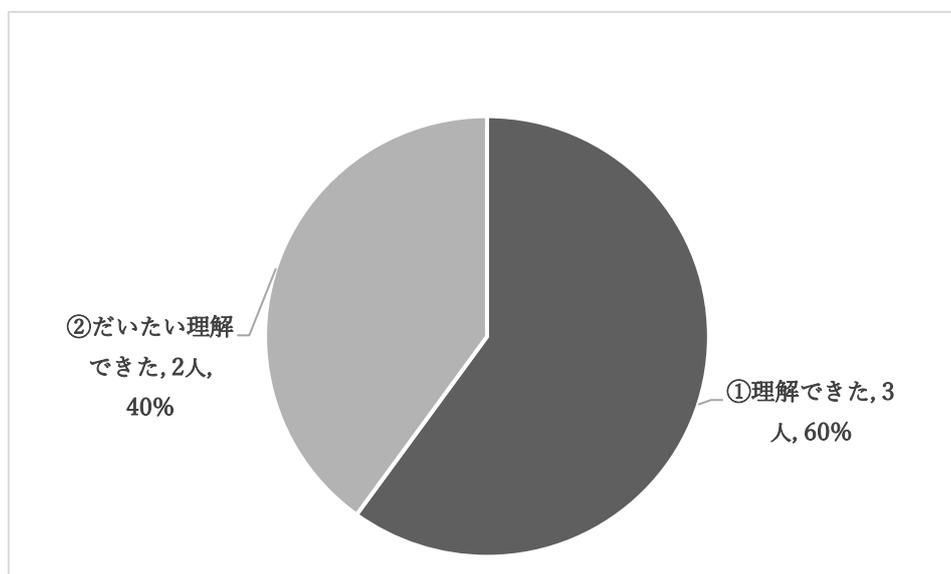
- 「たまに考えることがある」が3名（60%）と最も多い。
- 「よく考えることがある」と「どちらともいえない」がそれぞれ1名（20%）となっている。

図表 1-39 就職・進学など高等学園を卒業した後の自分の進路が具体的にイメージできていますか？



- 最も多い回答は「あまりできていない」の3名（60%）、「できている」と「どちらともいえない」がそれぞれ1名（20%）となっている。

図表 1-40 授業の内容は理解できましたか？



- 「理解できた」3名（60%）、「だいたい理解できた」2名（40%）で、「（あまり）理解できなかった」とする回答はなかった。

図表 1-41 授業の内容など、感想をお聞かせください

※原文ママ

- ✓ 楽しく体を動すのも楽しいと思いました。手作業もトレーニングになると思いました。
- ✓ すごく楽しい授業でした。ダンスやコースター、キーホルダー作りを通してコミュニケーションをとることの大切さがわかりました。
- ✓ リハビリの仕方などがたくさんある事を知る事ができました。リズムダンスなどをする上で、大事なことを学ぶ事ができました。
- ✓ 作業療法の革細工体験で手首の動きなどが分かった。その後の、理学療法でダンスをして良いリハビリができた。そして、70 だいの人がこれをして、休の動せる、はんいを広げていると分かった。
- ✓ 作業療法でコースター作りをして素敵な作品が作れました。実習でも参考したいです。理学療法は、体を動かしました。リズムによって動かしたり、リズムのスピードも合わせることを学びました。2つ実習に向けて参考にしたいです。

1.3.4. 大笹生支援学校

1.3.4.1. 実証講座「働くことの意味」

(1) 実施の概要

- 日時 2022年9月28日(水) 10:45~11:35 (1コマ50分)
- 対象 2年生(普通科) ※就労希望者
- 内容

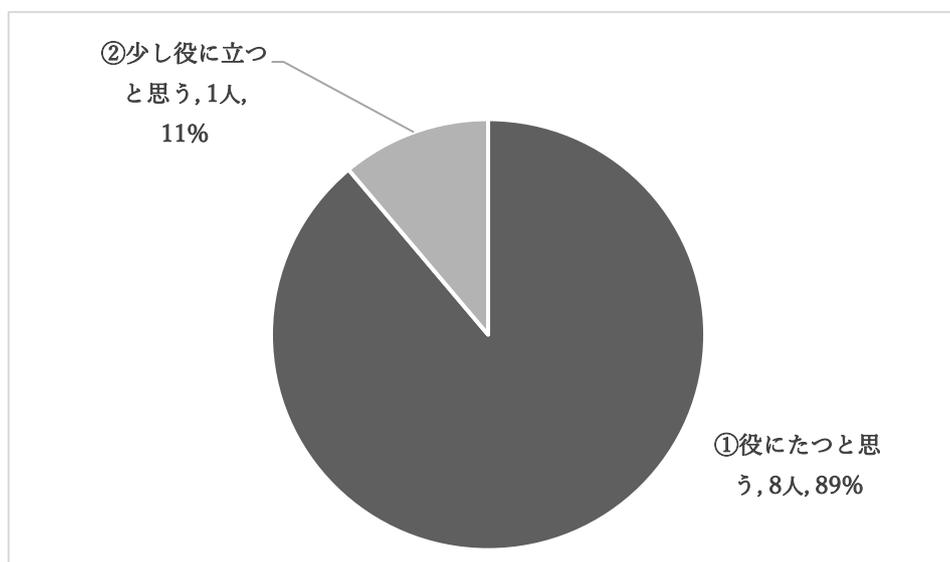
就労して働くことの意味や学生との違い、収入を得ることの意味などについて学習。

学習内容は、昨年度の事業で制作した教材「職業キャリア教育」の一部(働くことってなに・職業人として知っておきたいこと・職業人の心構えとして知っておきたいこと①・②)を再編。

(2) アンケート結果

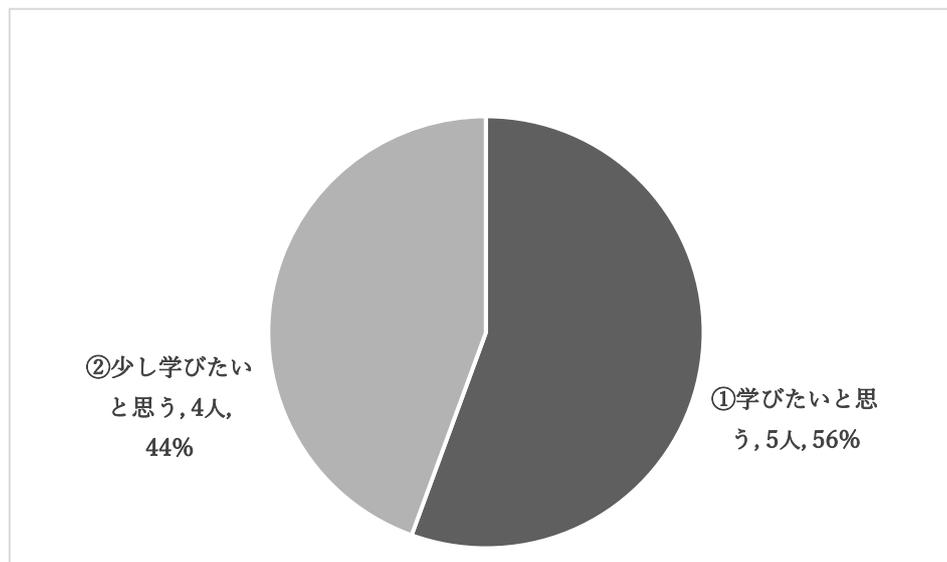
アンケート結果を以下に掲載する。有効回答数は9。

図表 1-42 今日の授業内容はこれからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか？



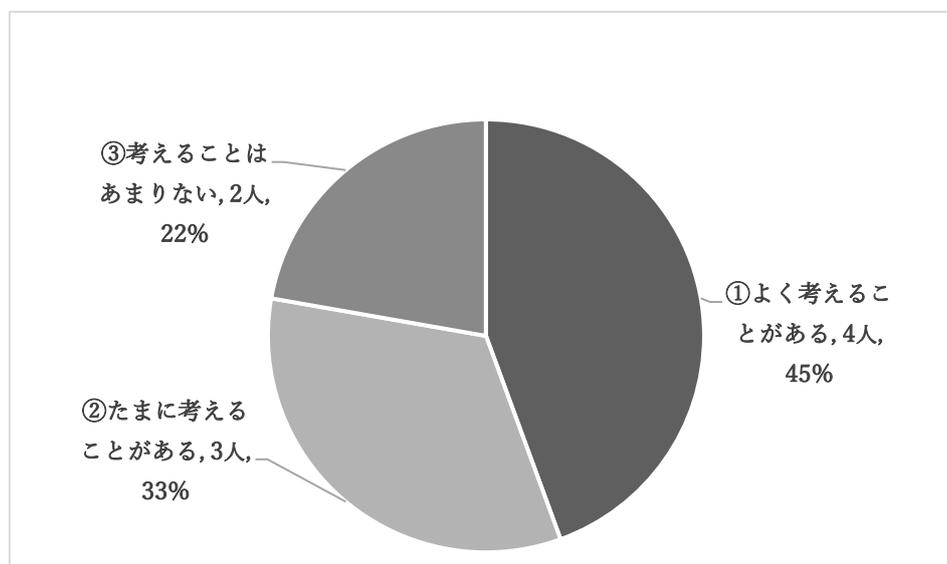
- 「役に立つと思う」が8名、「少し役立つと思う」が1名で、役に立つという回答で占められている。

図表 1-43 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか？



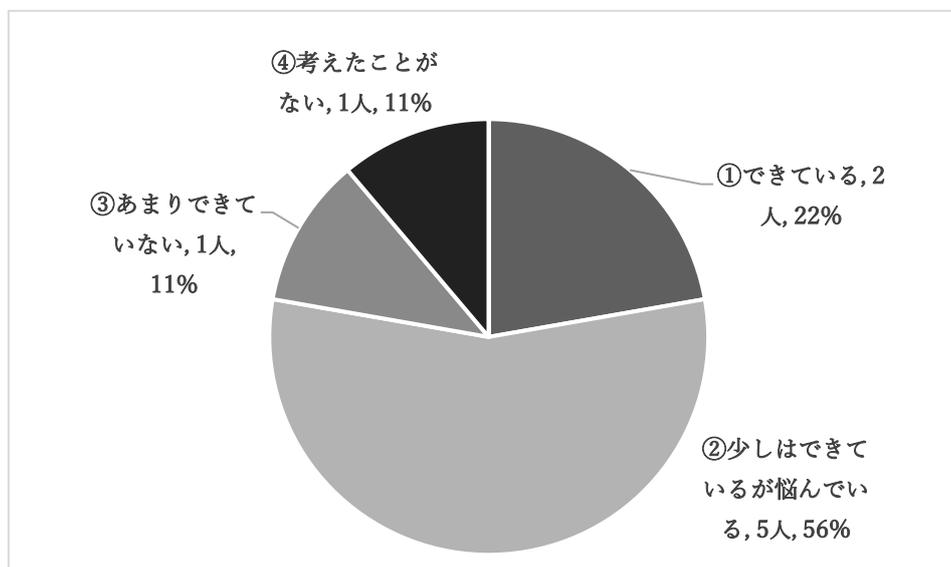
- 「学びたいと思う」が5名、「少し学びたいと思う」が4名と、ほぼ同数となっている。「(あまり) 学びたいと思わない」とする回答はなかった。

図表 1-44 就職・進学など高等部を卒業した後の自分の進路について、もっともあてはまるものはどれですか？



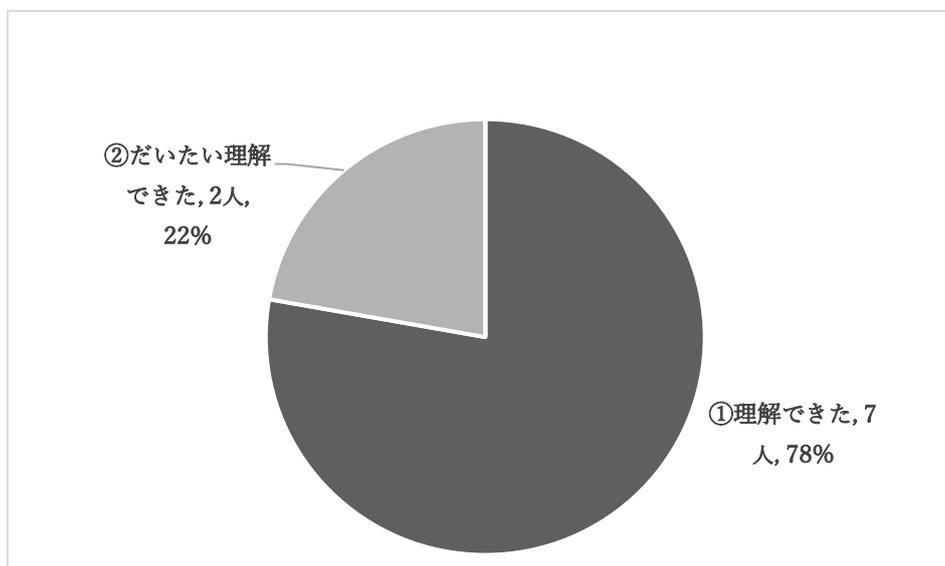
- 「よく考えることがある」が最も多く、「たまに考えることがある」がこれに次ぐ。
- 「考えることはあまりない」は2名と少ない。

図表 1-45 就職・進学など高等部を卒業した後の自分の進路が具体的にイメージできていますか？



- 「少しはできているが悩んでいる」が最も多く過半数を占めている。
- 「あまりできていない」「考えたことがない」はそれぞれ1名と少ない。

図表 1-46 授業内容は理解できましたか



- 「理解できた」という回答が7名で最も多い。
- 「(あまり)理解できなかった」とする回答はなかった。

図表 1-47 授業の内容など、感想をお聞かせください

※原文ママ

- ✓ 学校よりこまかく教えてもらってとてもわかりやすかったです。自分は、下のラインにあてはまりが、多く当てはまっていたので、これから上のラインに行けるようにしたいと思います。
- ✓ 分かりやすく授業をしてくれたのでよかったです。
- ✓ 話を聞いて理解できた所と理解できない所がありました。
- ✓ しっかりとした態度をとります。あいさつなどを、大きな声でも言うようにしたいです。
- ✓ ライン下の態度がしれてよかったです。
- ✓ 職場の（マナー、ルール、礼儀など）をまだ分からない所もあって、でも少しずつ理解した事もあったので、もっとそういうことを学びたいと思いました。
- ✓ 進路学習では学んだことを実習に活かしていきたいです。
- ✓ 今日話を聞いて自分から聞く、自分から動くということが大事だと分かりました。
- ✓ ちいさいころにもどって絵を書いてちいさいころは太陽をまんまるにかいてたけどさいきんははじのほうにかいてたなって思いました。

1.3.4.2. 実証講座「ビジネスマナーの基本」

(1) 実施の概要

- 日時 2022年9月28日(水) 10:45~11:35 (1コマ50分)
- 対象 2年生(普通科) ※就労継続支援B型事業所希望者
- 内容

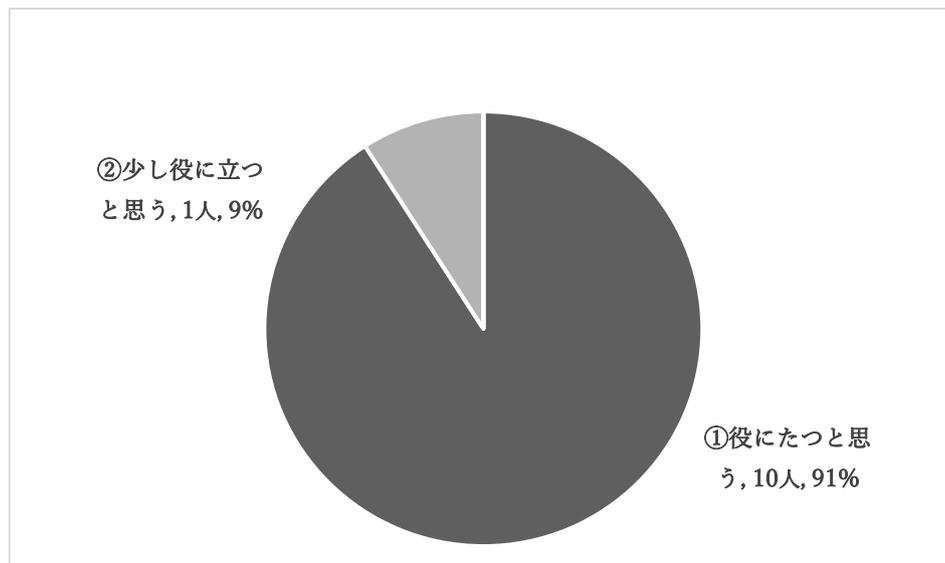
講義と実技による事業所で必要となる基本的なビジネスマナーの学習。

教材は、昨年度の事業で制作した教材「ビジネスマナー基礎」の一部を使用。

(2) アンケート結果

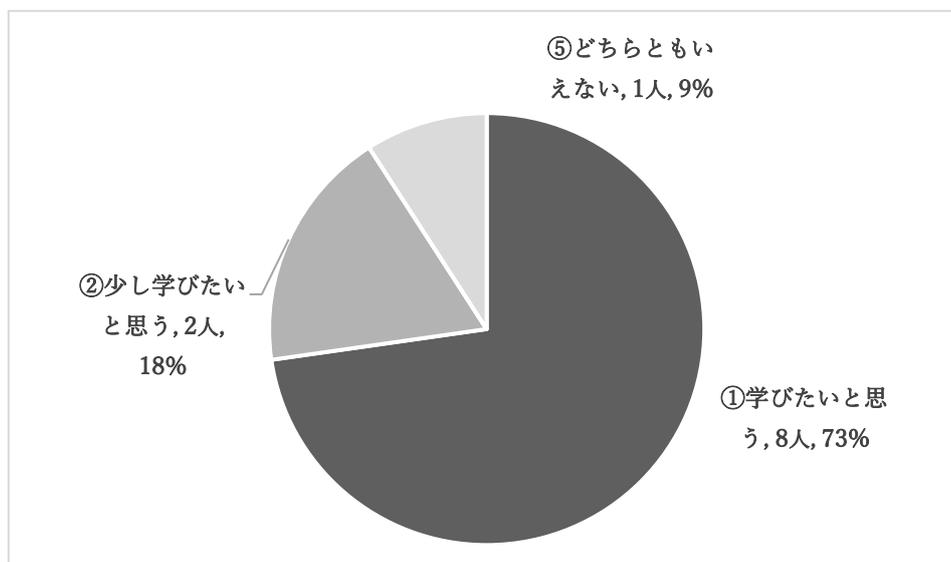
以下にアンケート結果を掲載する。有効回答数は11。

図表 1-48 今日の授業内容はこれからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか？



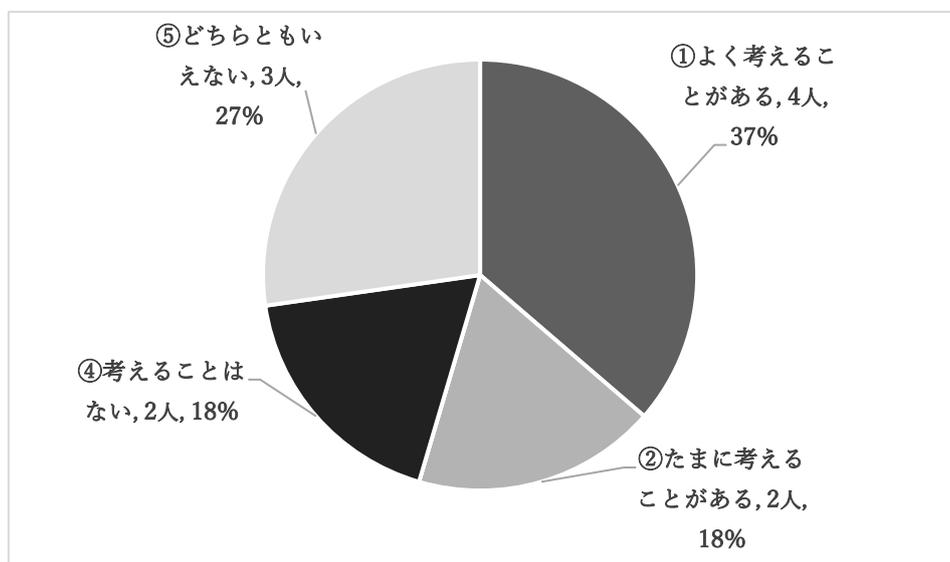
- 「役に立つと思う」10名、「少し役立つと思う」1名という結果である。

図表 1-49 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか？



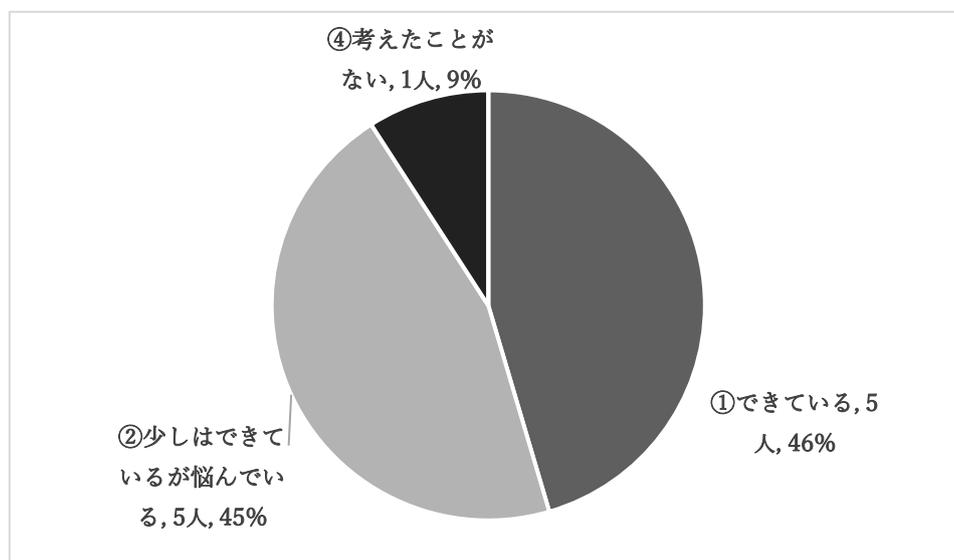
- 最も多い回答は「学びたいと思う」の8名で、「少し学びたいと思う」という回答も2名である。
- 「(あまり) 学びたいとは思わない」という回答はなかった。

図表 1-50 就職・進学など高等部を卒業した後の自分の進路について、もっともあてはまるものはどれですか？



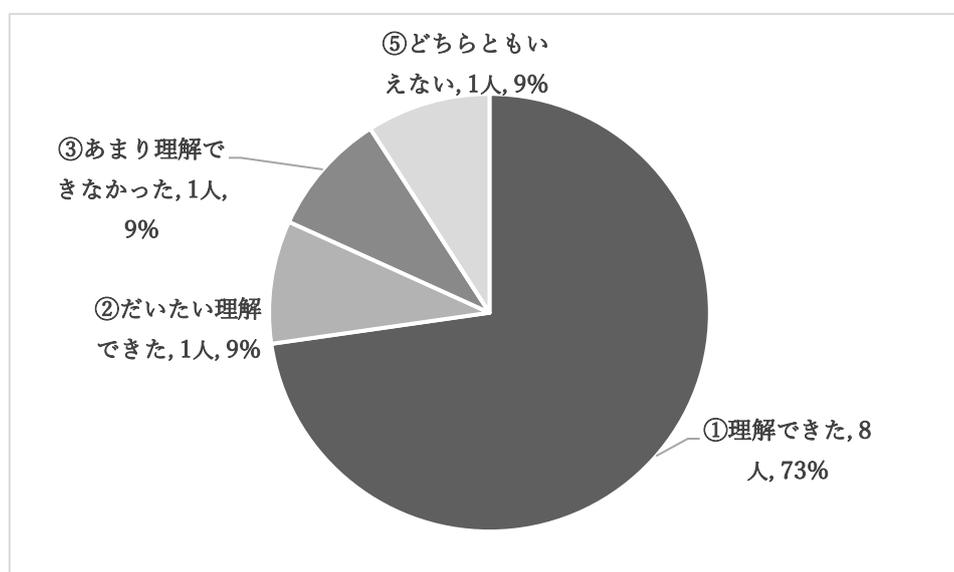
- 「よく考えることがある」が4名で最も多いが、回答は分かれている。

図表 1-51 就職・進学など高等部を卒業した後の自分の進路が具体的にイメージできていますか？



- 「できている」と「少しはできているが悩んでいる」が同数という結果になっている。

図表 1-52 授業の内容は理解できましたか？



- 「理解できた」8名、「だいたい理解できた」1名だが、一方で回答数は少ないものの「あまり理解できなかった」「どちらともいえない」がそれぞれ1名となっている。

図表 1-53 授業の内容など、感想をお聞かせください

- ✓ 考えることがある。
- ✓ 就職や社会について大事なことを分かりやすく学ぶのができました。
- ✓ ちょっと難しかったです。
- ✓ ビジネスマナー
- ✓ いっぱいまなべて、ありがとうございました。
- ✓ たのしかったです。
- ✓ 楽しかったです。
- ✓ あいさつやほうこくれんらくそうだんをおぼえていきたいことをおしえてもらったことをいかしてがくしゅうしていきたいと思います。

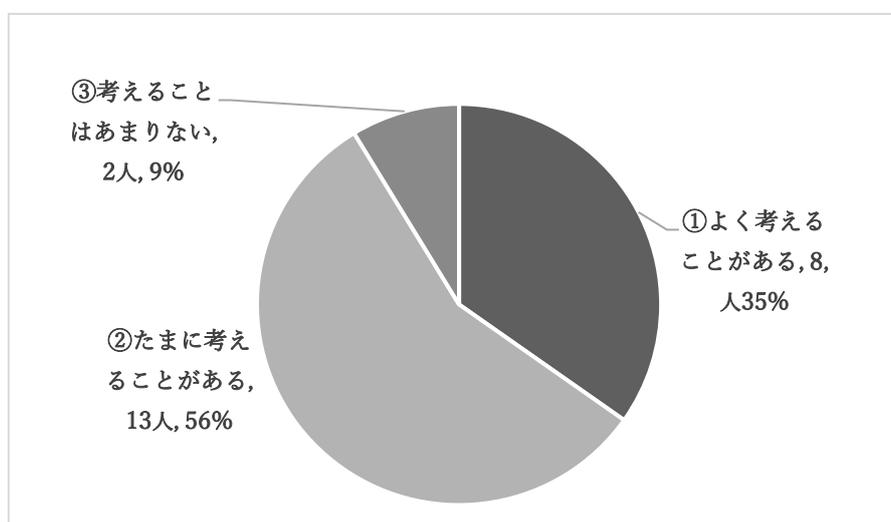
1.4. 実施結果の検証

1.4.1. 生徒アンケート

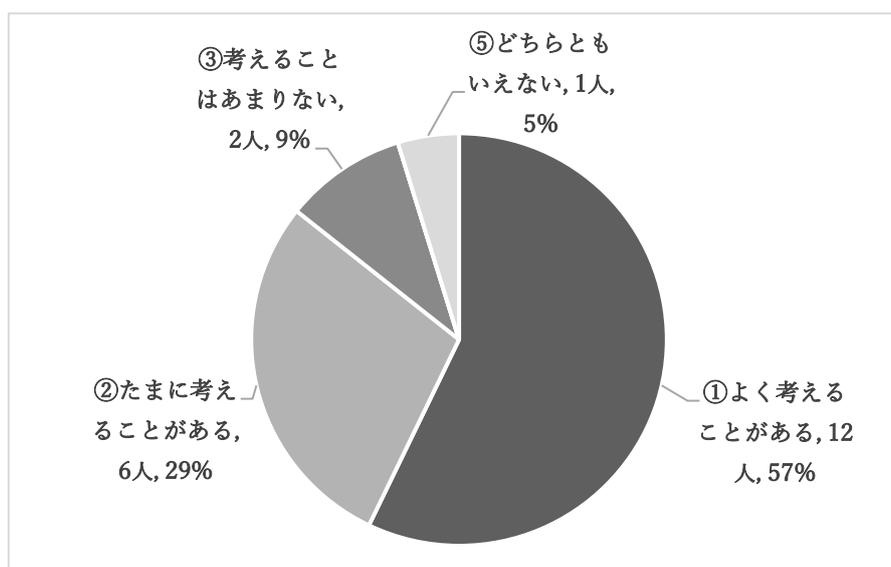
(1) 小牛田高等学園

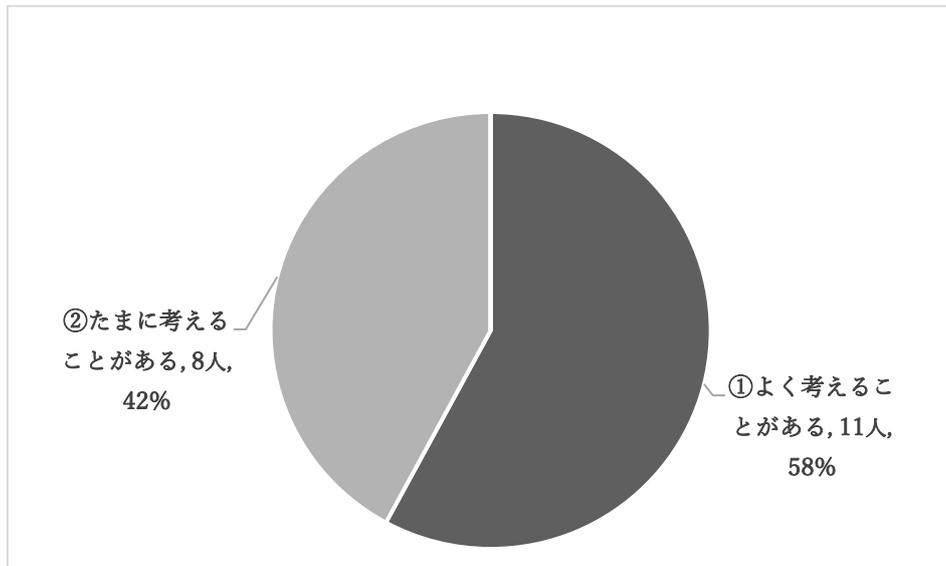
- 「講座は役立つと思うか」「将来の進路を学びたいと思うか」については、1年生と3年生で有意な違いは認められない。「講座は役立つと思う」は91～100%、「将来の進路について学びたいと思う」は78～84%。
- 「卒業後の進路についてどう考えているか」では、以下のように大きな相違がある。

図表 1-54 アンケート結果の比較（1年生）



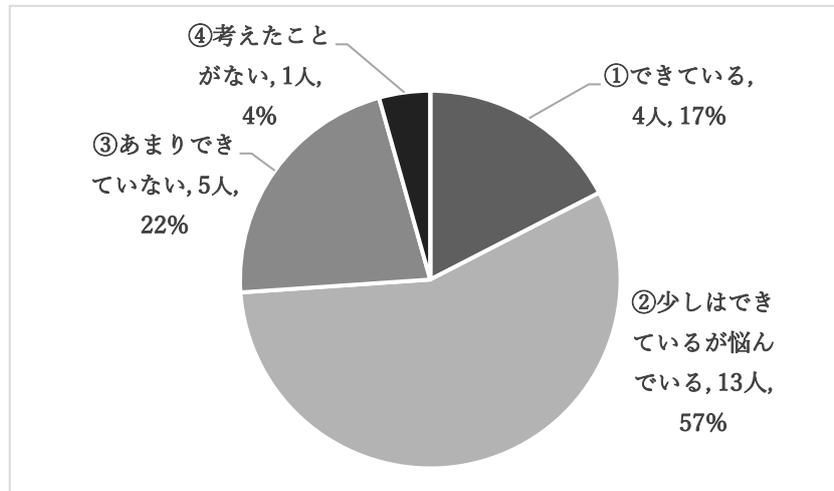
図表 1-55 アンケート結果（3年生 上：7月 下：11月）



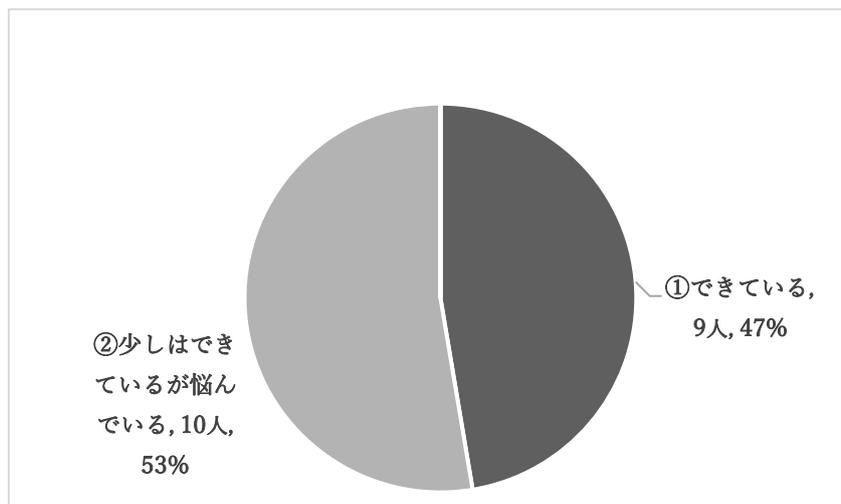
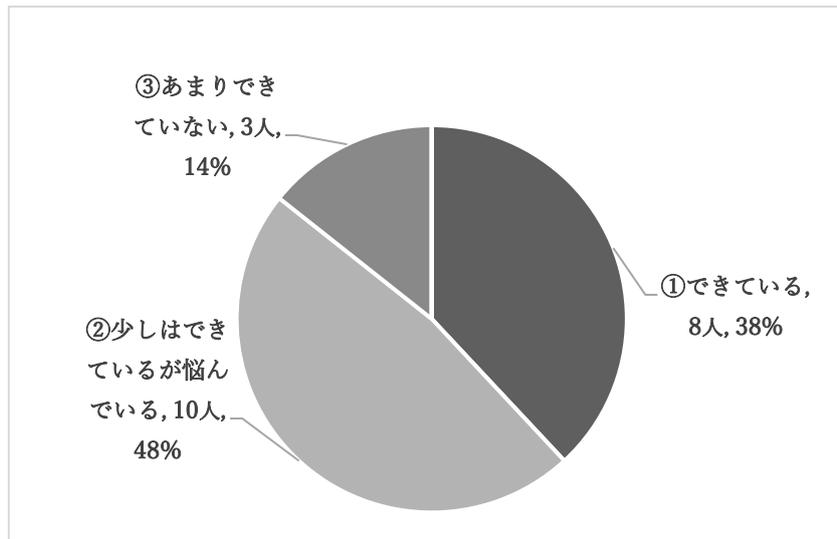


- 1年生は「たまに考えることがある」が最多で56%、「よく考えることがある」は35%に留まっている。
- 3年生（7月）の最多は「よく考えることがある」57%、「たまに考えることがある」29%で、「考えることはあまりない」「どちらともいえない」という回答が14%となっている。
- これに対して、11月の実証講座の実施後では、「よく考えることがある」58%と1ポイントの増だが、「たまに考えることがある」が13ポイント増で、「考えることはあまりない」「どちらともいえない」は0%である。卒業に向かって生徒の就労意識に大きな変化が生じていることが窺える。
- 「将来の進路が具体的にイメージできているか」も1年生と3年生及び実証講座の実施時期で大きな相違がある。
- 1年生の回答で最も多いのは「少しはできているが悩んでいる」の57%で、「できている」という回答は17%と少ない。
- 3年生（7月）も「少しはできているが悩んでいる」が48%で最も多い点は1年生と同様だが、「できている」という回答が38%で1年生の倍以上である。
- さらに、11月時点では「できている」47%、「少しはできているが悩んでいる」53%と、ほぼ回答は二分の結果となっている。
- この結果からも、学年があがるにつれて生徒の就労意識が徐々に高まっている様子が推察できる。
- 「講座の内容は理解できたか」は1年生・3年生で有意な違いは認められず、「理解できた」が79%～83%の範囲となっている。

図表 1-56 アンケート結果（1年生）



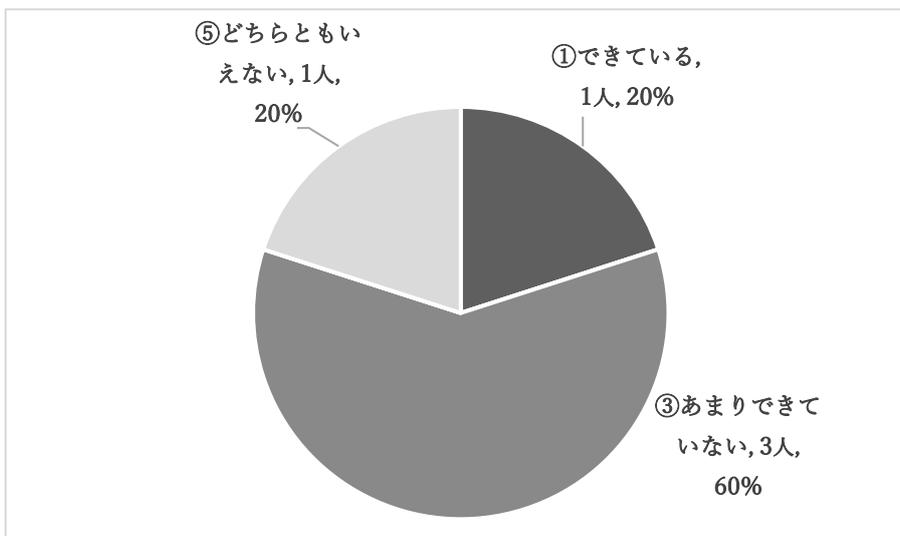
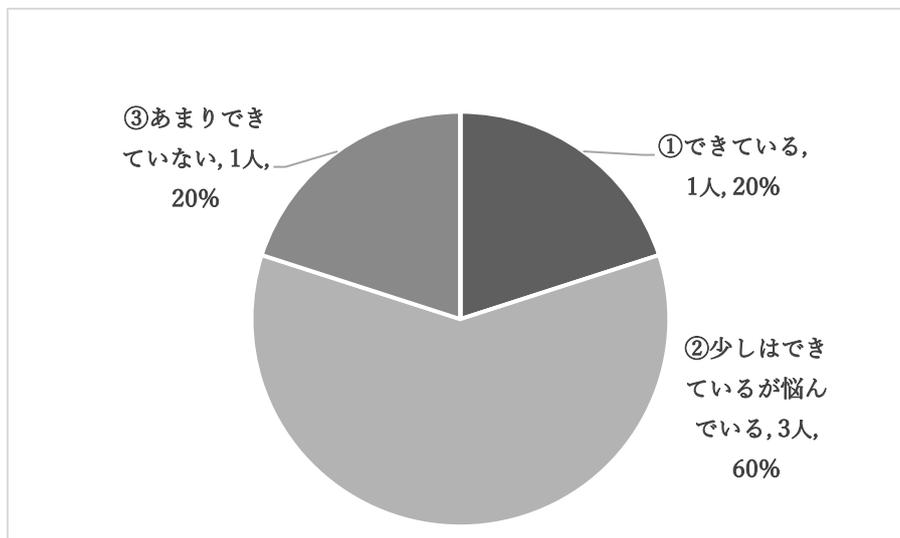
図表 1-57 アンケート結果（3年生 上：7月 下：11月）



(2) 女川高等学園

- 「講座の内容は今後役立つと思うか」「将来の進路について学びたいと思うか」では、3年生と2年生で大きな違いは認められない。いずれも肯定的な回答が多数となっている。
- 「卒業後の進路についてどう考えているか」については、3年生は「よく考えることがある」2名、「たまに考えることがある」3名である。
- これに対して、2年生は「よく考えることがある」1名、「たまに考えることがある」3名、「どちらともいえない」1名となっている。
- 受講者数が5名と少ないため単純な比較はできないが、3年生の方がやや就労意識が高いという見方もできる。

図表 1-58 アンケート結果（上：3年生 下：2年生）

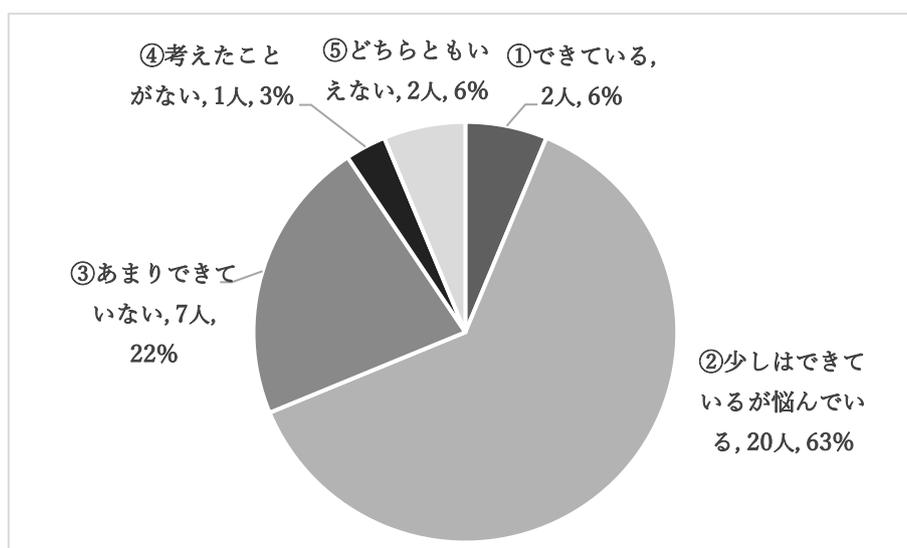


- 「将来の進路が具体的にイメージできている」の問いでは、2年生は「できている」1名、「あまりできていない」3名、「どちらともいえない」1名で、イメージできている生徒は少ない。
- 一方、3年生は「できている」1名、「少しできているが悩んでいる」3名、「あまりできていない」1名で、3年生の方が将来の進路をイメージできているようだ。

(3) 岩沼高等学園

- 「講座の内容は今後役立つと思うか」は「役立つ」「少し役立つ」という回答で占められている。
- 「将来の進路について学びたいと思うか」の間では、「学びたいと思う」が72%で最も多く、「少し学びたいと思う」が25%でこれに次ぐ。多くの生徒が進路の学びに関心を持っていることがわかる。
- 「卒業後の進路についてどう考えているか」では、「たまに考えることがある」が56%と過半数を占め、「よく考えることがある」の38%がこれに次ぐ。
- この結果は、先にみた小牛田高等学園1年生もほぼ同じ「たまに考えることがある」56%、「よく考えることがある」35%)である。
- 「将来の進路が具体的にイメージできているか」については、以下のグラフに示されるように生徒の回答は分かれている。小牛田高等学園1年生の回答の比率とは異なるが、分散の傾向には類似点が認められる。

図表 1-59 アンケート結果（1年生）



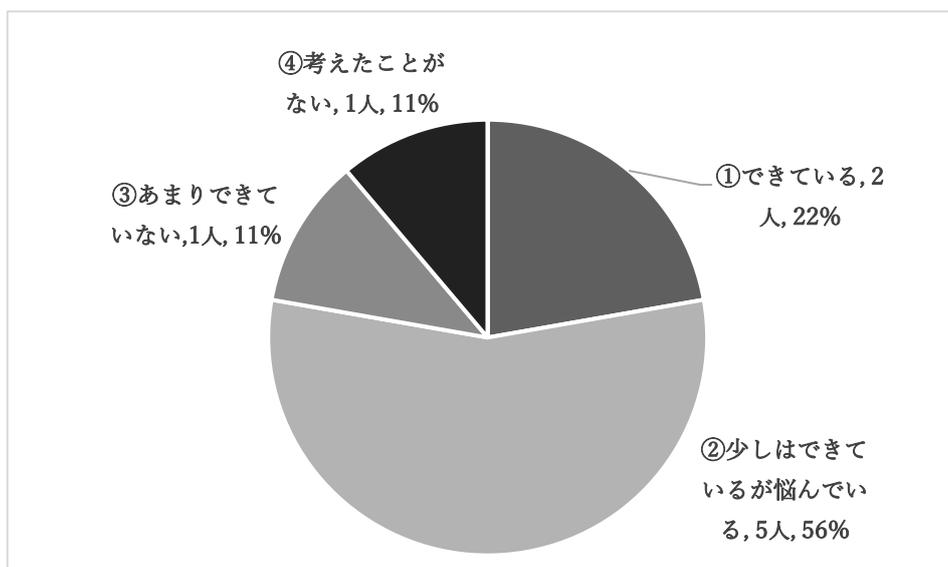
- 「講座の内容は理解できたか」の間では、「理解できた」が60%と最も多く、これに次ぐのが「だいたい理解できた」の34%で、全体の9割以上を占める。

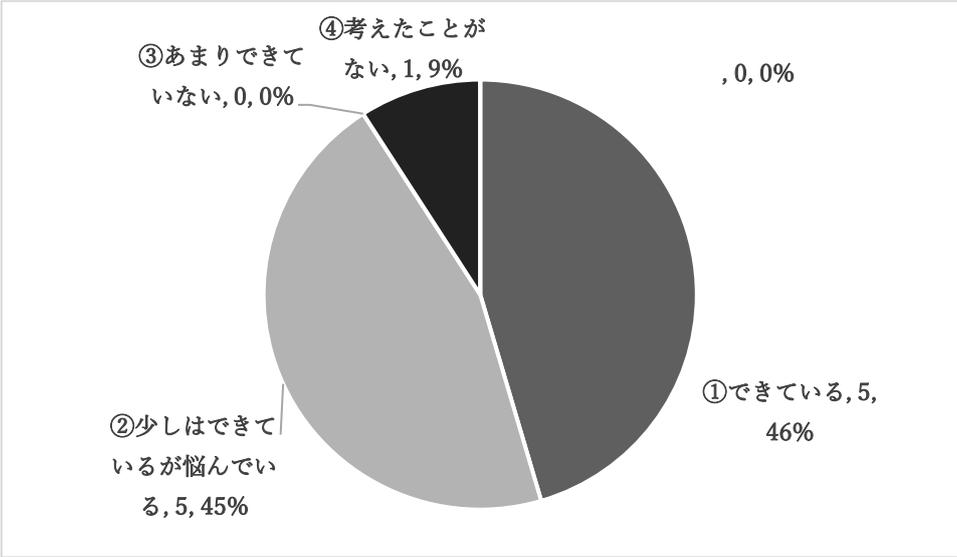
- 一方で各1名と少数ながらも「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という回答があった点については今後の改善に向けた検討が必要である。

(4) 大笹生支援学校

- 「講座の内容は今後役立つと思うか」は1・2組、3・4組のいずれも「役立つ」「少し役立つ」という回答で占められている。
- 「将来の進路について学びたいと思うか」の間では、1・2組と3・4組で違いが認められる。
- 1・2組は「学びたいと思う」が56%、「少し学びたいと思う」が44%。
- 3・4組は「学びたいと思う」が73%、「少し学びたいと思う」が18%で、3・4組の方が学びの意欲が高い。
- 「卒業後の進路についてどう考えているか」も1・2組と3・4組で回答の傾向が異なっている。
- 1・2組は「よく考えることがある」45%、「たまに考えることがある」33%、「考えることはあまりない」22%。
- 3・4組は「よく考えることがある」37%、「たまに考えることがある」18%、「考えることはあまりない」18%、「どちらともいえない」27%で、1・2組の方が将来の進路を考えている生徒が多い。
- 「将来の進路が具体的にイメージできているか」については、以下のグラフに示されるように、1・2組と3・4組で回答の違いは認められる。
- 1・2組は「少しできているが悩んでいる」が56%と過半数を占めている。
- 3・4組は「できている」46%、「少しできているが悩んでいる」45%がほぼ同率で並んでいる。

図表 1-60 生徒アンケート（上：1・2組 下：3・4組）





1.4.2. 関係者の意見

本項では、実証講座に対する評価として、実証講座を実施した特別支援学校高等部の教員（実施委員含む）、実証講座を担当した専門学校教員、及び実施委員の意見を報告する。

(1) 高等部教員の意見

- ✓ 1年生は校外実習前のタイミングで緊張感があったが、実証講座「ビジネスマナーの基本」で行ったロールプレイで生徒の「心がまえ」ができたようだ。
- ✓ 3年生の実証講座「採用面接に向けて」は最後の現場実習のタイミングで、生徒が自分自身の足りないところを確認したり、履歴書の書き方を学んだり、まとめの大切な授業。いま生徒は履歴書を書いているが、いつもよりも仕上がりがよい。
- ✓ 講座で使用されたスライド資料（PPT）がわかりやすく、生徒の集中力が持続しやすい。
- ✓ 漢字の読みは生徒によって広い幅がある。一番下に合わせてほしい。
- ✓ 漢字の読みの他、難しい言葉の使用にも配慮が必要。講義で「当事者意識」という言葉が使われた際、生徒はその意味がわからなかった。
- ✓ 実証講座「ビジネスマナーの基本」を受けた後、校外実習に行った生徒からは「あいさつの仕方やハウレンソウをほめられた」などの感想があった。実習先からの評価も例年よりも高い。
- ✓ 9月28日に実証講座「ビジネスマナー」を実施し、校外実習が11月の第2週から始まる。この間は高等部でフォローしていく。

(2) 担当講師の意見

- ✓ 実証講座の実施前に、高等部の先生と綿密なミーティングを行い、生徒の状況を把握し、その上で教育内容を考えるように努めた。
- ✓ 校外実習の実施に合わせて、実証講座の実施日程はたいへん絶妙なタイミングでの設定であったと思う。
- ✓ スライド資料（PPT）で使用する漢字がどこまで読めるのかがわからず、高等部の先生にアドバイスを頂きながら作成した。2回目以降の実施では、うまく調整ができたと思う。
- ✓ 講座では、Google Form を使ったりリアルタイム集計ができるアンケートの実施の他、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の一環という意味合いでロールプレイを取り入れるなど、生徒参加型の授業を行った。
- ✓ 一部の生徒が授業中居眠りしていたが（事前の高等部の先生とのミーティングで状況は予測）、積極的に生徒を授業に巻き込むアプローチが必要であり有効。

- ✓ 実証講座「理学療法士・作業療法士について」（女川高等学園）では、利用者とう関わっているかを講義したが、生徒はいい視点でPT・OTの仕事を捉えていた。また、質問に対して積極的に答える・考えるという姿勢があった。
- ✓ OTについては集団リハビリ、革細工、チームで動くことの大切さをテーマとした。リハビリテーションを楽しむことの大切さを伝えることが次につながると考える。

(3) 実施委員（高等部教員以外）の意見

- ✓ ビジネスマナーではロールプレイで生徒自身が「動き」ながら学んだり、タブレットを活用して学んだり、仙台リハビリテーション専門学校の強みが活かされた教育であった。
- ✓ 生徒アンケートの結果を踏まえて、学年ごとの就労意識に合わせた教育を実施していくことが大切である。
- ✓ 高等部の先生方の協力を得て、生徒自らが活動（動き）しながら学ぶという指導方法が有効である。（目で、耳で、身体で学ぶ）
- ✓ 生徒の自由意見の中には少数ではあるが「理解できなかった」「集中できなかった」などのコメントがある。このような生徒も含め、いろいろなアプローチ、教え方を検討・実施していく必要がある。
- ✓ 実証講座での学びの成果が、その後の校外実習などでどの程度発揮されたか、どの程度行動の変化が持続したかなど、講座実施直後のアンケートやテスト以外の方法を検討してみてもいいのではないだろうか。

1.4.3. まとめ

今年度の実証講座では、実施後の生徒アンケート、特別支援学校高等部の教員及び実証講座担当講師からの意見、実施委員及びコーディネーターからの意見などを総合的に勘案することで検証を進めた。

生徒へのアンケートによって、生徒個々の講座の受け止めかたを確認することができたのは大きな成果のひとつであった。その要点を以下に列記する。

- 多くの生徒が「実証講座の内容が役立つと思う」と回答している。これにより、生徒からみた講座内容の有用性を確認できた。
- 多くの生徒が「卒業後の進路を学びたい」と回答している。これにより、進路に対する生徒の学びに対する意欲が確認できた。
- 「卒業の進路についてどう考えているか」は学年、時期によって回答の傾向に違いがあることが確認できた。回答は「よく考えることがある」「たまに考えることがある」が多くを占めており、「考えることは（あまり）ない」という回答は非常に少ない。

学年間の相違はあるものの、卒業後の就職を見据えて進路の問題は、多くの生徒にとって意識せざるを得ないものであるようだ。

- 「講座の内容の理解」については、「理解できた」「だいたい理解できた」という回答が多数である。各講座は学校ごとに教員の協力を得ながら内容を調整し実施した。その結果として生徒の理解度は高く、難易度の設定は妥当であった。生徒の学力に応じた適切なレベルであったとみることができる。
- ただし、アンケートによる生徒の自己評価である点は留意する必要がある。より厳密な学習効果の測定に向けて、小テストなどの導入の検討も必要であろう。
- 「生徒の意見・感想」では実に多様な意見や感想が寄せられた。それらの中には、学習内容と今後の実習などとの関連を指摘するなど具体的なものが多く、実証講座の内容の見直しや改善を図る上で大いに参考となる。
- 総合的に勘案すると、講座の実施、専門学校教員とのふれあいを通じて、生徒の就職や進路に対する学びの意識は着実に向上したものと考えられる。
- 一方で、職業意識の涵養だけではなく、将来の自立に向けたライフデザインに係わる教育の実践・充実化がこれからの課題である。

特別支援学校高等部の教員、実証講座の担当講師、実施委員、コーディネーターからも貴重な意見・助言が得られた。その詳細は前述の通りだが、今後の実証講座の実施に向けてポイントとなる事項を以下に整理して示す。

- 生徒が実際に身体を動かす「体験型」授業や、演習に取り組む「参加型」授業の実践は、生徒の積極的な学びを促す上で効果的である。
- 具体的には、今年度実施したようなビジネスマナーのロールプレイやリハビリ体操の体験、タブレットを使ったリアルタイムの Web アンケートなどが有効であった。
- 実証講座実施のタイミングも、生徒のモチベーションを刺激する、学習効果を高める上で重要なポイントであった。
- 今年度は「ビジネスマナー」とその後の校外実習という流れの中で学習効果が確認された。(学んだことを実際の場面で活かすという流れ)
- 次年度も高等部との綿密な連携の下、より高い教育効果が見込まれるタイミングでの実施を検討していくことが望まれる。

2. 高専連携による教育プログラム

2.1. 概要

2.2. 基本方針

高専連携による教育プログラムは、専門学校・企業等が特別支援学校における職業教育に協力することにより、特別支援学校の職業教育のなお一層の充実化を図ることを目的とする。また、特別支援学校から専門学校へ進学する生徒に対しては特別支援学校 3 年間、専門学校 2 年間、計 5 年間の一貫した職業教育を提供し、自立した社会人、特定の職業分野の専門知識・スキルを備えた職業人としての力の向上を図る。

高専連携による教育プログラムの取り組みは、特別支援学校の職業教育・授業への協力を留まらず、以下に示す多層的な連携体制の下で進めていく。

- (1) 特別支援学校と専門学校の教員間の連携
- (2) 特別支援学校・専門学校の教員と生徒間の連携
- (3) 特別支援学校間の連携

高専連携では「特別支援学校の教員・専門学校の教員が連携する職業教育の実践」が主眼となることが多い。その実効性をより高めていくためには、前段として「①特別支援学校と専門学校の教員間の連携＝「特別支援学校教員と専門学校教員のつながり・相互理解」が不可欠となる。さらに、中長期的には高専連携の発展を考える上で、「③特別支援学校間の連携」も重要な取り組みとなる。

本事業は令和 3 年度から令和 8 年度までの 6 年間に亘る活動となる計画だが、このような多層的な連携体制の構築・運用を基本方針として、高専連携による教育プログラムの効果的な実施を進めていく。

2.3. 連携の内容と目的

- (1) 特別支援学校と専門学校の教員間の連携

特別支援学校・専門学校の教員同士が連携した活動を実施することで、相互の理解を深めると共に、双方が有する教育ノウハウを共有・活用し互いの教育力の向上を図る。

- (2) 特別支援学校・専門学校の教員と生徒間の連携

特別支援学校と専門学校の教員が協働して、特別支援学校の生徒を対象に職業教育を実施することで、職業教育のなお一層の充実化を図る。

- (3) 特別支援学校間の連携

特別支援学校が水平連携し、職業教育のノウハウや知見などを共有・活用することで、職業教育のなお一層の充実化を促進する。

2.4. カリキュラム

2.4.1. カリキュラム策定の基本方針（2022 年度版）

カリキュラム策定の基本方針は前年度と大きな相違はないが、今年度の実証講座の実施実績を踏まえて、各校の個別ニーズなどへの柔軟な対応を方針として明記する。

- テーマごとで完結した講座を単位としてカリキュラムを構成する。
- 授業で運用しやすいように、一講座は1～3 コマ程度（1 コマ 50 分）を基本とする。
- 各学年について、計 10 講座（30 コマ）程度の講座を設定し、メニュー化する。
- 特別支援学校はこれらの講座メニューから、各校が必要と判断する講座を選択する。
- カリキュラムは各校のニーズなどに応じて柔軟に対応し、講座の内容などは個別のカスタマイズ・調整を行い実施する。

2.4.2. 学習のねらい 2022 年度版

学習のねらいは前年度と大きな相違はないが、職業キャリア教育の一層の深まりを考え、今年度はカリキュラムにライフスタイル・ライフデザインを取り入れることとした。

- さまざまな職業の理解や社会のしくみの理解を通じて、将来の進路選択、職業選択を生徒自らが能動的に考える上で必要となる基礎知識を習得する。
- 職業や社会の理解を通して、生徒自身の興味・関心や適性について考える機会を提供し、その力を養う。
- 職業人に共通して求められる基本的な知識、技能を身につけ、仕事に対して積極的に向き合う態度を涵養する。
- 将来の進学先・就職先として「介護福祉」や「販売」などに関する基礎的な専門知識を習得し、各専門職種の基本技術を身につける。
- 職業キャリア教育の一環として、生徒自身が生き方を考えるライフスタイル・ライフデザインをカリキュラムに取り入れる。

2.4.3. カリキュラム 2022 年度版

以下に 2022 年度版のカリキュラム（講座の構成と概要）を一覧で示す。

講座の名称、内容、コマ数は可変とし、各校の要望などに応じてカスタマイズして実施することも想定範囲である。また、講座の配当年次も同様で、3 年生の科目を 1 年生向けにアレンジして実施するなどのケースも想定としている。

以下の表では、さまざまな職業に共通する内容、特定の職業の基礎的・導入的な内容の講座である。

図表 2-1 カリキュラム

学年	講座名	コマ数
1 年生	(14) いろいろな職業を知ろう モノをつくる仕事、モノを売り買いする仕事、サービスする仕事の内容とその職種について学習する。	1～3
	(15) 働くことについて考えよう なぜ、私たちは働くのか。そんな問いかけから、働くことの目的や意義について考えを深める。これにより、将来に向けた職業意識を養う。	1～3
	(16) 社会のしくみを知ろう 職業という視点から、社会がどのようなしくみで成り立ち、動いているのかを学ぶ。その社会の中でいろいろな職業がどのような役割を果たしているのかを学習する。	1～3
	(17) 自分自身を管理しよう 自己管理とはなにか、その目的や大切さ、具体的な方法について学習する。	1～3
	(18) 健康管理をしよう 身体の状態（バイタル管理）を理解し、自分で健康管理ができるように学習する。	1～3
	(19) メンタルヘルスとは何かを学ぼう 心と身体の仕組みを理解し、心と上手に向き合っていく方法について学習する。	1～3
	(20) スポーツ関連を楽しもう 運動の基礎を理解し、トレーニング方法やケガ予防・対処方法について学習する。	1～3
	(21) インターネットをじょうずに活用しよう 検索エンジン Google を活用して、生活や学習に必要な情報を入手し利用するための方法について学習する。	1～3
	(22) ネットのトラブルに巻き込まれないように注意しよう ネットで人をだます詐欺の内容を学び、その被害を受けないための具体的な方法について学習する。	1～3
	(23) 情報モラルとは何かを学ぼう SNS や電子メールなどを使う際のマナーや注意すべき点について学習する。	1～3
(24) パソコンを活用しよう（ワープロ）	1～3	

	Word のさまざまな機能を活用して文書を作成する方法を学習する。	
	(25) ビジネスマナーとは何かを学ぼう A 身だしなみ、表情、あいさつなどビジネスマナーの基礎について学習する。	1～3
	(26) 介護職ってどんな仕事が体験してみよう 介護職の仕事内容について、車椅子の体験なども織り交ぜて学習する。	1～3
2 年生	(12) キャリアデザインとは何かを学ぼう A～自分のことを知ろう これまでの自分を振り返りながら、自分自身についての理解を深める。	1～3
	(13) キャリアデザインとは何かを学ぼう B～なりたい自分を考えよう 自分が興味を持っていることややってみたいと思っていることなどから、将来なりたい自分について考えを深める。	1～3
	(14) ビジネスマナーとは何かを学ぼう B 会社訪問や来客への対応などビジネスマナーの基礎について学習する。	1～3
	(15) ビジネスマナーとは何かを学ぼう C 電話対応、電子メールでの対応などビジネスマナーの基礎について学習する。	1～3
	(16) 健康管理をしよう 体重管理（ダイエット）、筋力向上、維持についての基礎を学習する。	1～3
	(17) メンタルヘルスを学ぼう 精神的なストレスや悩みとの向き合い方や、それを解消する方法について学習する。	1～3
	(18) スポーツ関連を楽しもう 筋力トレーニング、持久力トレーニングの基礎を演習で学習する。	1～3
	(19) 部活を楽しもう 運動系の部活で怪我をしないための準備運動や冬場の体力づくりについて学習する。	1～3
	(20) 介護職の仕事を学ぼう	1～3

	介護職を希望する生徒を対象とする講座。介護の仕事の内容や働きがいについて学習する。将来の進路選択のための基礎知識を学ぶ。	
	(21) 販売ってどんな仕事か学ぼう 販売を希望する生徒を対象とする講座。販売の仕事の内容や働きがいについて学習する。将来の進路選択のための基礎知識を学ぶ。	1~3
	(22) パソコンを活用しよう（表計算） Excel のさまざまな機能を活用して、データを集計・加工する方法を学習する。	2~6
3年生	(15) 将来のことを考えよう～ライフデザイン 将来、どのような生活を送っていきたいか、自分自身の考えを深める。	1~3
	(16) 就職活動で大切なことを学ぼう 就職活動を行う上での心がまえや注意しておくべき点などについて学習する。	1~3
	(17) 自己をPRしよう 就職面接に向けて、自分自身をPRするための方法を学び、その実践について学習する。	1~3
	(18) 社会人の心がまえを学ぼう 社会人、職業人としての心がまえ、求められる姿勢などについて学習する。	1~3
	(19) 余暇生活を考えよう 余暇活動の大切さについて学び、余暇生活を送っていきたいかについて考えを深める。	1~3
	(20) お金のじょうずな使い方を学ぼう 日々の生活の中で、じょうずにお金を使い、やりくりしていくための方法について学習する。	1~3
	(21) お金のトラブルに巻き込まれないために注意しよう 詐欺やお金の貸し借りをめぐるトラブルについて学び、お金に関する被害に巻き込まれないための具体的な方法について学習する。	1~3
	(22) 健康管理をしよう 自分の健康管理を実践して、記録ができるように学習する。	1~3
	(23) メンタルヘルスを学ぼう	1~3

	自分にあったメンタルヘルスを実践し、日々の生活に活かせるように学習する。	
	(24) スポーツ関連を楽しもう 自分の目的に沿ったトレーニング方法や手段を選択しながら学習する。	1~3
	(25) ビジネスコミュニケーションを学ぼう 報告・連絡・相談など仕事を進めていく上で必要となるコミュニケーションの実践について学習する。	1~3
	(26) パソコンを活用しよう（プレゼンテーション） PowerPoint のさまざまな機能を活用して、プレゼンテーション資料を作成する方法を学習する。	1~3
	(27) 介護の仕事を体験しよう 高齢者に対する生活支援の実践を通して、介護福祉という仕事への理解を深める。	3~6
	(28) 販売の仕事を体験しよう 商品販売の実践を通して、販売という仕事への理解を深める。	3~6

2.5. 開発教材

2.5.1. 教材開発の基本方針

開発する教材を次年度「そのまま」利用してもらう想定だけではなく、これをベースとして、各校の要望等を取り入れアレンジして利用する、あるいは、開発教材を素材の1つとして各校と検討し、新たに教材を開発することも想定範囲とする。その意味で、次年度の職業教育プログラムの実施に向けた検討・具体化も視野の範疇として開発している。

2.5.2. 開発教材の概要

昨年度の事業では、主として高等部1年生を対象の想定とする教材の開発を行った。今年度はその継続的な取り組みとして、高等部2年生対象の教材開発を進めた。その一覧を以下に示す。

図表 2-2 開発教材一覧

- | |
|----------------|
| ① 介護のしごとを学ぼう |
| ② ビジネスマナーを学ぼう |
| ③ 情報モラルを学ぼう |
| ④ ライフスタイルを考えよう |

「介護のしごとを学ぼう」は、職業としての介護の基礎を学び、介護福祉分野への進学・就職を考えるきっかけを提供する講座での利用を想定している。

「ビジネスマナーを学ぼう」はあらゆる職種に共通するビジネスマナーの基礎を実技を交えながら学ぶ教材である。

「情報モラルを学ぼう」は学校生活や私生活、社会人としての生活といった各局面で遵守すべきルールや注意しなければならないことを学習する教材である。

「ライフスタイルを考えよう」は、生徒一人ひとりが自分自身について考え、自分にとって望ましい生き方(ライフスタイル)について考えるきっかけを提供する講座での活用が想定である。

なお、これらの教材の使用は2年生に限定されるものではなく、各校のニーズなどに応じて1年生、3年生の授業でも使用できる。また、PowerPointで制作されているので、必要な部分(スライド)のみを選定して利用することも可能である。

これら4つの開発教材は本報告書の巻末資料に掲載している。

2.5.3. 教材「介護のしごとを学ぼう」

2.5.3.1. 趣旨・目的

本事業では、特別支援学校高等部卒業生の進路のひとつとして、介護福祉分野の専門学校への進学を想定している。生徒によるこの進路の決定にあたっては、介護福祉に関する基本的な知識・技能や職場体験などの学びが不可欠となる。本教材は、このような学びの場面の利用を想定とするもので、介護という仕事の基礎的な理解を目標としている。

2.5.3.2. 内容構成

(1) 全体

本教材は大きく3つのパートで構成され、全体では10の学習テーマで組み立てられている。以下にその内容構成を示す。

授業では、パート単位や学習テーマ単位など各校が必要とする内容に応じて選択的に利用してもらうことを想定している。

図表 2-3 内容構成

<p>【パート1】（しごとの内容）</p> <ul style="list-style-type: none">① 介護のしごと② 介護の職場③ 介護のしごとのやりがい④ 介護のしごとの将来性 <p>【パート2】（働き方）</p> <ul style="list-style-type: none">⑤ チームで行う介護のしごと⑥ チームで行う介護の心がまえ⑦ 介護のしごとで基本となる考え方⑧ 介護職の倫理 <p>【パート3】（介護のしごとにつく）</p> <ul style="list-style-type: none">⑨ 介護に必要な知識・技能⑩ 介護のしごとにつくには

(2) パート1

パート1は介護について初めて学ぶ生徒が対象である。その内容は、介護とはどのような内容の仕事か、どのような場所（施設）で働くのか、介護のしごとに職員はどのようなやりがいを感じているのか、職業の将来性はどうかについて扱っている。

(3) パート2

パート2はパート1で学ぶ基本的な知識と同程度の知識を有する生徒を対象と想定している。ここでは、多職種連携によるチームケア、自立支援や尊厳の保持など介護の実践において基本となる考え方、介護の専門職としての倫理について取り上げている。いずれも介護のプロフェッショナルをめざす上で不可欠となる非常に重要なテーマである。

(4) パート3

パート3では、「介護職員初任者研修」のカリキュラムを例示しながら、介護に必要な専門知識・技能の概要を解説している。また、高等部卒業後の進路の候補として、「介護福祉士養成課程」のカリキュラムも示している。

2.5.4. 教材「情報モラルを学ぼう」

2.5.4.1. 趣旨・目的

インターネット、スマートフォンは年齢に関わらず日常生活や仕事など多様な場面で不可欠のツールとなっている。非常に便利なツールであるその一方で、使い方を間違えば、不快な思いをさせたり・させられたり、深刻な被害や犯罪に巻き込まれてしまったりすることがある。さらに、そうした被害が本人だけでは家族や友人など周囲にまで及んでしまうこともある。

本教材では、日々の生活や仕事の中でネットを使う際に守るべき基本的なルールやマナーなどを学ぶ内容で構成されている。その目的は、学校生活だけでなく卒業後の社会生活、職業生活を送る上での情報モラルのリテラシーを習得することである。

教材は知識を学ぶ講義だけでなく、簡単な事例をもとに考える・討議する参加型スタイルも取り入れ、情報モラルを意識したネット活用が実践できることをめざしている。

また、既存の動画学習素材、サイトも活用（文部科学省等）もリファレンスし、この教材を使用する教員のアレンジにも活かせるようになっている。

なお、本教材は、テキスト教材とeラーニング教材からなる。テキスト教材はPowerPointスライドで、教員がプロジェクタ等で使用することが想定である。eラーニング教材は各テーマについてスライドと解説の音声ナレーションによる自己学習用の動画コンテンツである。

2.5.4.2. 内容構成

内容は大きく 8 つの学習テーマで構成されている。簡単な事例を示して、その問題点と理由を考えてもらう学習や、ネットを活用する際に、やってはいけないこととその理由を理解する学習で組み立てられている。具体的な学習テーマを以下に一覧で示す。

図表 2-4 内容構成

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1) 他者を撮った写真の投稿 プライバシーの侵害、肖像権の侵害2) 自撮り写真の投稿 個人の特定、犯罪被害3) 正しい情報・正しくない情報 玉石混交4) デマの扱い5) 情報発信の注意 デジタルタウナー6) 著作物の扱い 著作権の侵害7) 不用意な言葉づかい 暴言・誹謗中傷8) ネットで知り合った人と会う危険 など |
|---|

2.5.5. 教材「ビジネスマナーを学ぼう」

2.5.5.1. 趣旨・目的

本教材では、職業キャリア学習の一環として、基本的なビジネスマナーについてロールプレイによる疑似体験なども含めて学習する。これにより、高等部在学時における企業見学や学外実習、就職活動や卒業後の就労に際して必要となるビジネスマナーを習得することが目的である。

2.5.5.2. 内容構成

本教材は、テキスト教材と e ラーニング教材からなる。以下、それぞれの内容構成について報告する。

(1) テキスト教材

昨年度の事業で制作した教材「ビジネスマナー」の続編として新規に「仕事と自分を大切にすること」に関わるビジネスマナーの 11 テーマを制作・追加した。昨年度の 33 テーマに加えて、全 44 テーマの構成となっている。

教材の仕様は PowerPoint スライドで、『新・見てわかるビジネスマナー集』（ジヤース教育新社）を教科書として利用することを前提に、教員がプロジェクタ等で使用する補助教材として作成している。

図表 2-5 学習テーマ一覧

- | |
|-------------------------|
| 仕事と自分を大切にすること（計 11 単元） |
| 1) 通勤途中と工作中的のケガや病気 |
| 2) 会社のルールは「就業規則」が基本 |
| 3) セクハラ |
| 4) パワハラ |
| 5) 健康的な食生活 |
| 6) かせいだ給料（お金）の使い方 |
| 7) スマホで失敗しないために |
| 8) 就業時間後のおつきあい |
| 9) 余暇を楽しんでリフレッシュ |
| 10) ときめく気持ちとおつきあい |
| 11) 「仕事」と「自分の生活」のよいバランス |

(2) Web 教材

昨年度事業及び今年度事業で制作した教材「ビジネスマナーを学ぼう」の全テーマに対応した Web テストの問題と解説を作成し、e ラーニング化した。具体的な出題範囲は、上記の「仕事と自分を大切にすること」の 11 テーマと、昨年度事業で制作した「面接の前に準備しておくこと」5 テーマ、「働き始めてから気をつけること」15 テーマ、「仕事をするとき心がけること」13 テーマ、計 44 テーマである。

問題は各テーマについて 3~4 問、問題形式は正誤判定の二択である。

利用方法は、ビジネスマナーの授業（集合教育）時の最後に学んだ内容の理解の確認を目的に行うことを基本的な想定としている。

2.5.6. 教材「ライフスタイルを考えよう」

2.5.6.1. 趣旨・目的

職業キャリアの学びを深める上で、生徒一人ひとりが自分自身にとっての「望ましい生き方＝ライフスタイル」について考えてみることも有効である。自分にとって望ましい生き方を考えるためには、これまでの生活や経験を振り返り、自らの性格や行動といった「パーソナリティ」や、自分が何を大切に思っているかという「価値観」、将来の仕事に対してどう

向き合っていこうと考えているかという「職業観」など、さまざまな視点から自分自身を見つめ直す「自己理解」が不可欠となる。

この教材では、これから職業人として社会に巣立つ前の段階で、生徒一人ひとりが「自分自身について考え（自己理解）」、「自分にとって望ましい生き方＝ライフスタイルについて考える」きっかけを提供する。この教材については、今年度はプロトタイプとし、次年度継続して検討する予定である。

2.5.6.2. 内容構成

教材は 10 のテーマで組み立てられている。1～10 の順序で実施されることを基本的な想定としているが、各テーマはそれぞれ完結しているので、必要なテーマだけを選択して実施することも可能である。

なお、今年度事業ではこの教材をプロトタイプと位置付け、次年度も継続して検討し、教材としての完成度を高めていく予定である。

図表 2-6 内容構成

- | | |
|----|-------------------|
| 1 | ライフスタイルについて考えてみよう |
| 2 | 自分自身を見つめ直してみる |
| 3 | 余暇を楽しもう |
| 4 | 計画的にお金を使う・貯める |
| 5 | キャッシュレスってなに |
| 6 | お金のトラブルに注意しよう |
| 7 | ストレスとうまくつきあう |
| 8 | 自分で自分を管理する |
| 9 | 健康管理をしっかりしよう |
| 10 | キャリアデザインを考えてみよう |

2.6. 学習支援・教育支援環境の構築

開発したeラーニング教材「情報モラルを学ぼう」(第1回から第8回の動画型eラーニングコンテンツ)、「ビジネスマナー」(44テーマのWebテスト型コンテンツ)による学習・教育を支援する環境をインターネット上に構築した。以下に示すのは、ログイン後のトップ画面の一部である。

図表 2-7 学習・教育支援環境のトップ画面 (一部)

SENDAI REHABILITATION COLLEGE
仙台リハビリテーション専門学校
eラーニングシステム22
ユーザー : guest

職業キャリア基礎学習

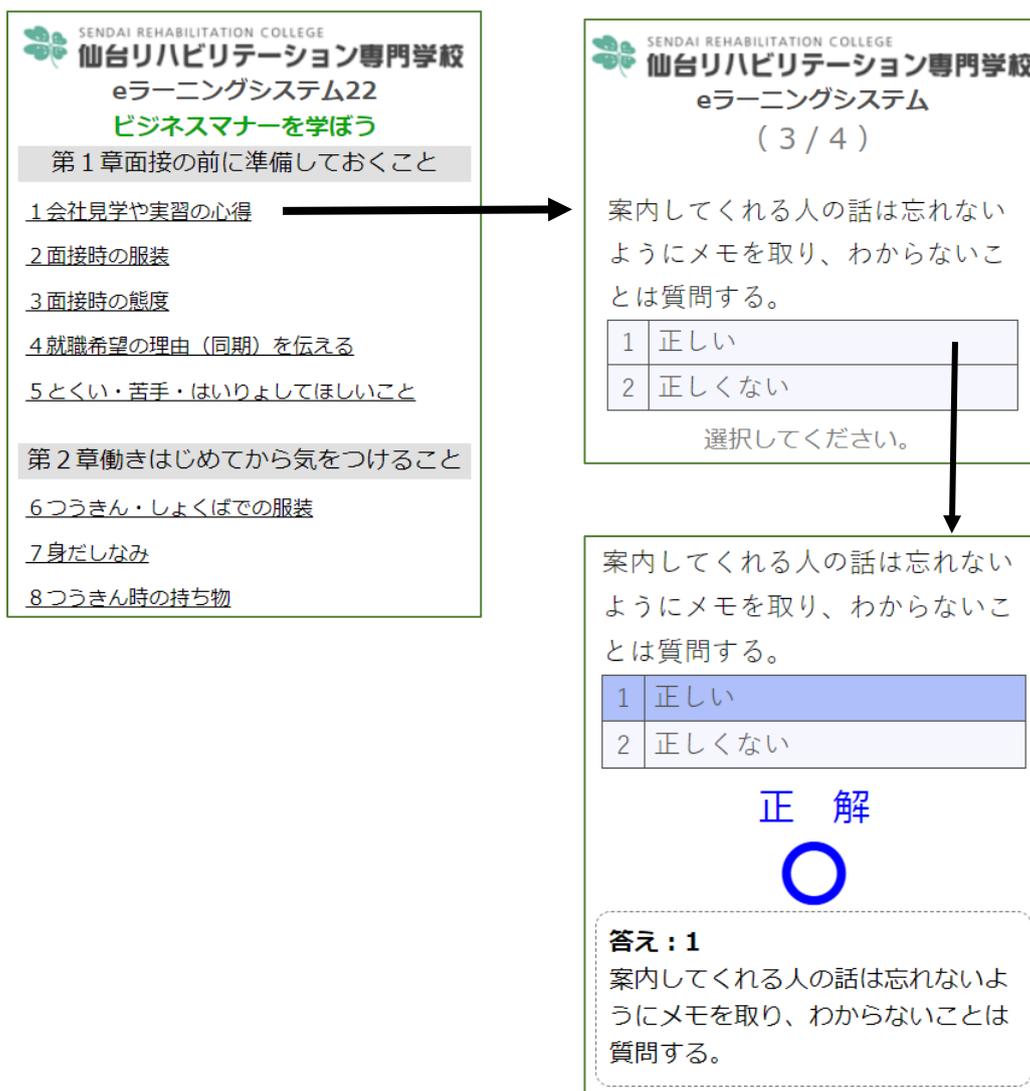
- 第1回いろいろな職業
- 第2回いろいろな職業
- 第3回いろいろな職業
- 働くことの意味
- ビジネスマナーを学ぼう**

社会人基礎学習

- 第1回インターネット活用(トラブル編)
- 第2回インターネット活用(トラブル編)
- 第3回インターネット活用(トラブル編)
- 第4回インターネット活用(トラブル編)
- 第1回情報モラル(はじめに)**
- 第2回情報モラル(自撮りに注意)**
- 第3回情報モラル(ネット情報にはウソもある)**
- 第4回情報モラル(投稿には注意)**
- 第5回情報モラル(著作権に注意)**
- 第6回情報モラル(ことばづかい)**
- 第7回情報モラル(悪口はいけない)**
- 第8回情報モラル(ネットで知り合った人に注意)**
- 第9回情報モラル(人の写真のアップに注意)**

この環境では、今年度事業で開発したeラーニング教材だけでなく、昨年度の事業で開発したeラーニング教材「いろいろな職業」「働くことの意味」「インターネット活用（トラブル編）」も利用することができるように整備されている。

図表 2-8 画面例（ビジネスマナーWebテスト）



■ 卷末資料

令和4年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

知的障害特別支援学校高等部と専門学校の有機的連携の開発と実証

事業成果報告書

発行者 学校法人仙台北学園 仙台リハビリテーション専門学校

発行日 令和5年3月